A decorative border made of watercolor-style flowers and leaves in various colors (yellow, green, blue, orange, pink) surrounds the text. The flowers are scattered along the top, bottom, and sides of the page.

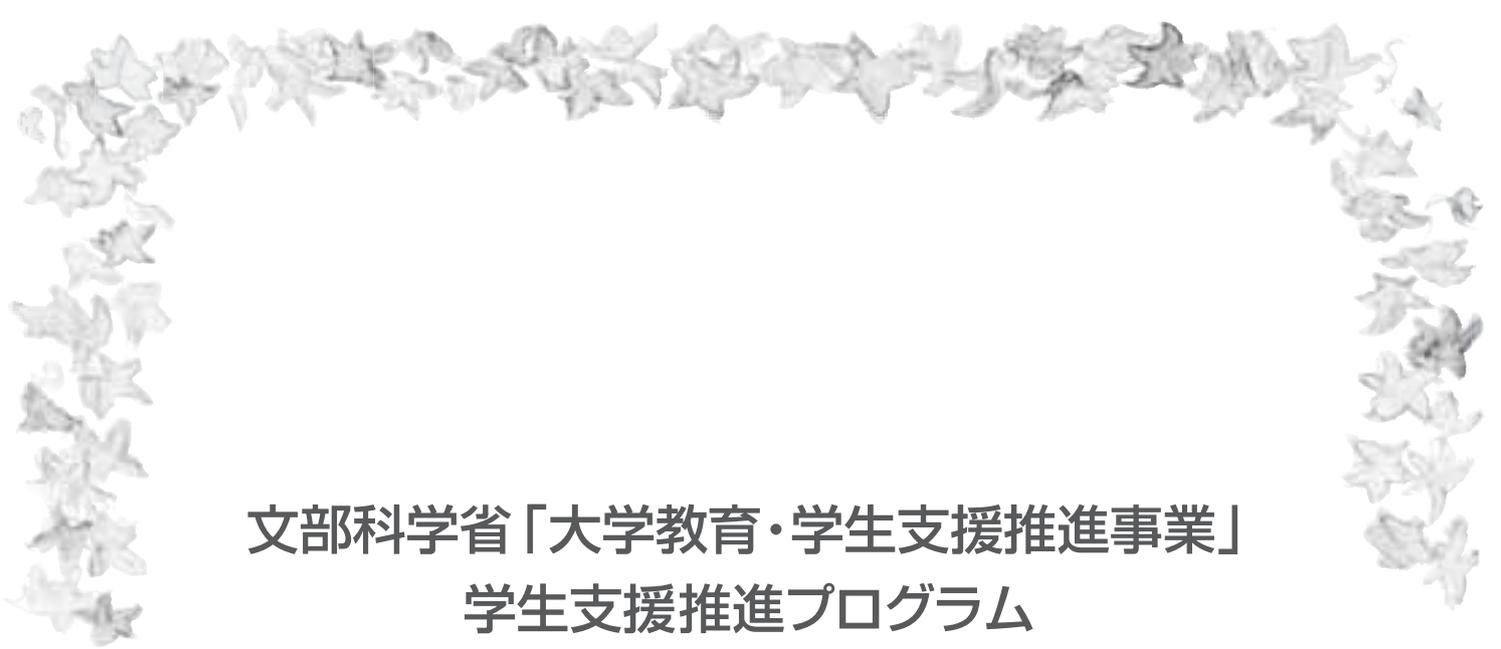
文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」  
学生支援推進プログラム

専門性を生かした  
正課外地域貢献活動による  
マネジメント力の育成

2009～2011年度 活動報告書

2012年3月  
恵泉女学園大学





文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」  
学生支援推進プログラム

専門性を生かした  
正課外地域貢献活動による  
マネジメント力の育成

2009～2011年度 活動報告書



2012年3月  
恵泉女学園大学

# はじめに

大谷 由布子

「専門性を生かした正課外地域貢献活動によるマネジメント力の育成」取組責任者  
恵泉女学園大学人文学部 英語コミュニケーション学科助教

平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択された「専門性を生かした正課外地域貢献活動によるマネジメント力の育成」も3年間の支援期間を終了しようとしています。この間、恵泉地域言語活動研究会の活躍は目覚ましく、学生の成長には目を見張るものがあります。

恵泉地域言語活動研究会は、「ことば」を使って地域に奉仕し、その中で学びを深めることを目的として組織されました。恵泉英語教育研究会（KEES）は、英語を使って近隣の小学校で英語活動や学習支援を、恵泉お話を語る会（恵話会）は、日本語を使って福祉施設等でボランティア活動を行っています。小学生に英語の絵本を読み聞かせたり、日本人相手に日本語でお話を語ることは、一見簡単に思えるかもしれませんが、聞き手を想定して練習を積み重ね、作品に分析・解釈を加え、自分なりの表現を身につけるには、膨大な時間と努力が必要です。このように心をくわいて準備をするのですから、それは当然聞く人に伝わります。言葉には「言霊（ことだま、言魂）が宿る」と言われますが、作品に文字通り魂を込めて伝えるので、聞く人の心を動かし、感動をよび起すのでしょうか。そういった場面を幾度となく目にした3年間でした。

この報告書は、2009～2011年度の学生や受講生の学びの軌跡です。第1章では、このプログラムの全体像、取組の目的や実施体制について紹介しています。第2章では、恵泉地域言語活動研究会の3つの組織：KEES、恵話会、KEISEN小学校英語活動指導者養成講座に分けて3年間の活動と学生・受講生の学びをまとめました。第3章では年度末に行われた活動報告会、続く第4章で外部評価委員会の記録を掲載し、最後に第5章でプログラム全体を振り返るとともに今後の展望について述べました。

コミュニケーション能力が問われる昨今、「ことば」を操ることが得意だと自信を持って言える人がどれだけいるでしょう。私も講義や講演で聴衆に受け入れられやすい話を心掛けていますが、表面的に言葉をいくら取り繕ったところで、聞き手の心には届きません。心に響く「ことば」を届ける鍵は、この一冊の中にあるように思います。語学教育が専門か否かに関わらず、言葉は人に与えられた特権ですから、豊かな言語生活を送るためにも、どうぞ最後までお目通しくださいますようお願い申し上げます。

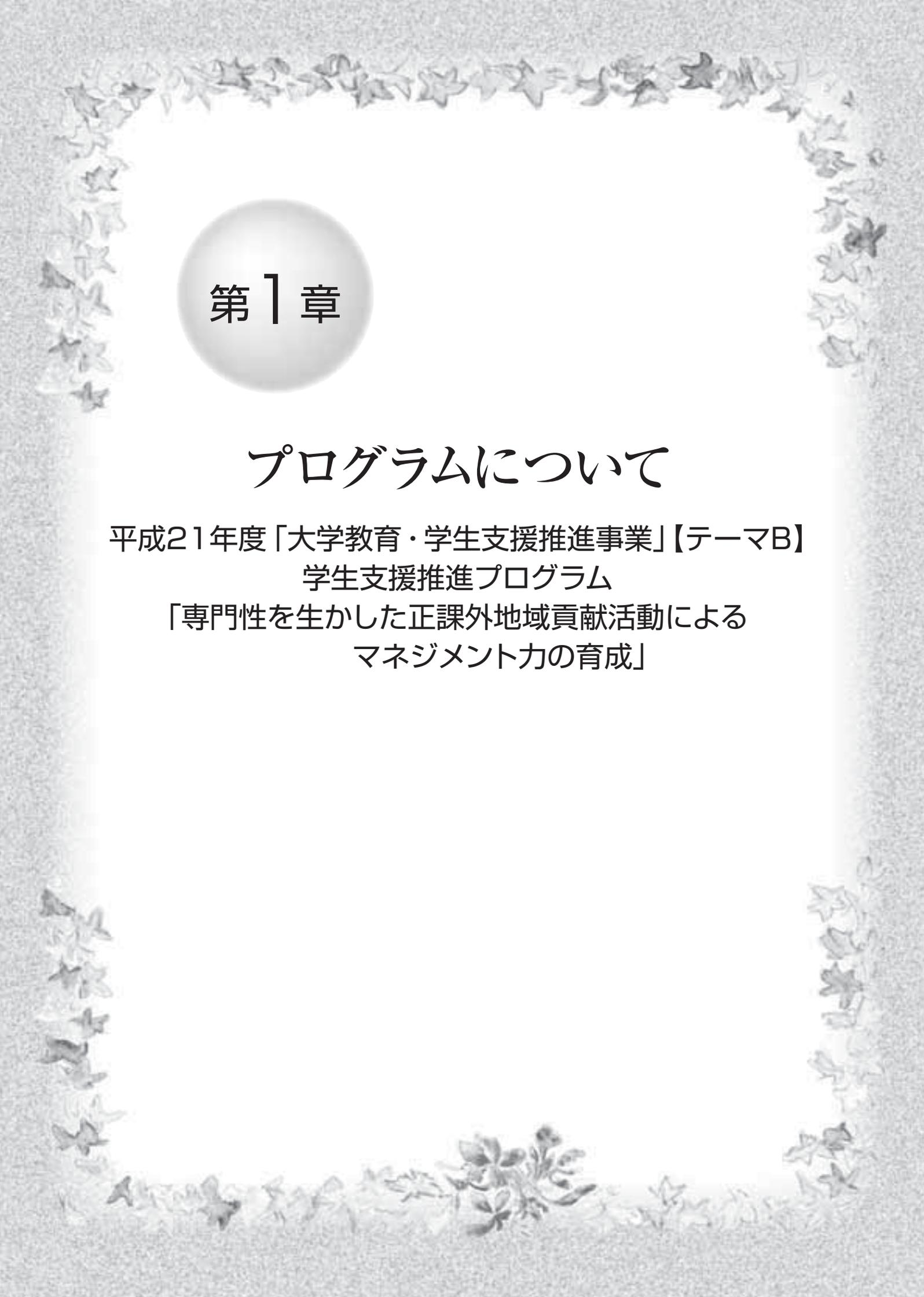
最後になりましたが、学生の活動を支えて下さっているすべての皆様のご理解とご協力にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。活動先の小学校や福祉施設関係者の皆様、多摩市教育委員会、稲城市教育委員会、外部評価委員の先生方、このプログラムの生みの親、岩佐玲子先生、昨年度まで指導にあたってくださった馬郡敏美コーチ、佐藤智子コーチ、さらに学生の成長を見守って下さっている学内外のすべての皆様に感謝いたします。またスタッフは、半年間かけて膨大な資料と格闘しながら準備を進めてくれました。紙面の関係で割愛したのも多くありますが、本研究会の等身大の姿を見て頂けるのではないかと考えております。

「ことば」を使った活動は、目標にこそできても、ゴールは果てしなく遠く、それゆえ私たちは、「ことば」に魅了され、「ことば」に挑んでいくのだと思います。支援終了後も恵泉地域言語活動研究会の挑戦は続きます。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(2012年3月)

# 目次

はじめに 大谷 由布子（恵泉女学園大学人文学部 取組責任者）	2
<b>第1章</b>	
平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】学生支援推進プログラム 「専門性を生かした正課外地域貢献活動によるマネジメント力の育成」	4
プログラムの概要	5
恵泉地域言語活動研究会について	6
研究会のあゆみ	6
取組の実施体制	7
コーチ・スタッフ紹介	8
<b>第2章</b>	
恵泉地域言語活動研究会 3年間の活動と学び	10
恵泉英語教育研究会（KEES）の活動	11
恵泉お話を語る会（恵話会）の活動	25
KEISEN小学校英語活動指導者養成講座の活動	36
活動の展開をめざして	44
<b>第3章 活動報告会の記録</b>	51
第1回活動報告会（2010年2月20日）	52
第2回活動報告会（2011年2月19日）	56
第3回活動報告会（2012年1月28日）	60
<b>第4章 外部評価委員会の記録</b>	64
概説	64
第1回外部評価委員会（2010年6月26日）	65
第2回外部評価委員会（2011年2月19日）	75
第3回外部評価委員会（2012年1月28日）	83
<b>第5章 プログラム総括と今後の展望</b>	93



# 第1章

## プログラムについて

平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】  
学生支援推進プログラム  
「専門性を生かした正課外地域貢献活動による  
マネジメント力の育成」

## 平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】学生支援推進プログラム 「専門性を生かした正課外地域貢献活動による マネジメント力の育成」プログラムの概要

### 取組の趣旨・目的

人文学部教職課程履修者を中心に、課外活動としての「恵泉地域言語活動研究会」を組織し、地域の学校や福祉施設などをチームとして訪問し、その専門性を生かした言語活動（小学校英語活動、絵本の読み聞かせやわらべ歌、手遊びでの交流）による地域貢献を継続的に行い、正課授業を補完して学士力の確保と、就業力の育成をはかり、生涯を通して社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。取組の到達目標、具体的取組内容、実施計画、評価体制は以下のとおり。

### 到達目標

日英両語の発音能力・読み聞かせ技能を高めるとともに、仲間と協力して言語活動の企画案を作成し、役割を分担しあい、質の高い言語活動や交流会を創造できることを目指す。また学士力（専門分野の知識の応用、コミュニケーション・スキル、問題解決力、チームワーク、リーダーシップ、市民としての社会的責任）の確保と就職意欲・就職率の向上を取組の達成目標とする。

### 学生の達成目標

1. 日英両語の発音能力・読み聞かせ技能を高める
2. 仲間と協力して言語活動の企画案を作成できる
3. 役割を分担しながら質の高い言語活動や交流会を創造できる

### 大学の達成目標と指標

#### 1. 学士力の確保

〈指標〉

- ・自己診断シートの各項目で参加学生の6割以上に向上がみられる
- ・参加学生の7割が目標行動を達成できる
- ・取組参加学生数を倍増させる

#### 2. 就業力の向上

〈指標〉

- ・教職課程履修者の教育・福祉分野での就職（および大学院進学）率を50%から70%に向上させる
- ・就職率を90%から95%に向上させる
- ・進学希望者をのぞく就職希望者比率を現行の80%から90%に向上させる

### 取組の具体的内容

活動支援者（活動経験のある地域住民と上級生）による日英両語の発音の訓練や、読み聞かせ練習に加えて、参加学生が交流活動の指導案・企画書を作成し、担当教員とともに地域の小学校や福祉施設での交流活動を準備・実施する。毎回の活動は、各自1枚の報告書にまとめ、口頭による振り返りを行うことで、言語表現能力とマネジメント力を養うことを意図している。

### 実施計画

学生のトレーニングと地域の小学校や福祉施設での実践、学園祭やローカル放送などでの発表を通して、学士力（言語表現力とマネジメント力の育成）を図るとともに、学生の活動報告書等による自己点検評価、参加者を含めた第三者評価を実施し、効果の検証と改善案の策定を行う。また活動報告書や活動報告会、ウェブサイト等を通して活動の普及と参加者の拡大を図る。

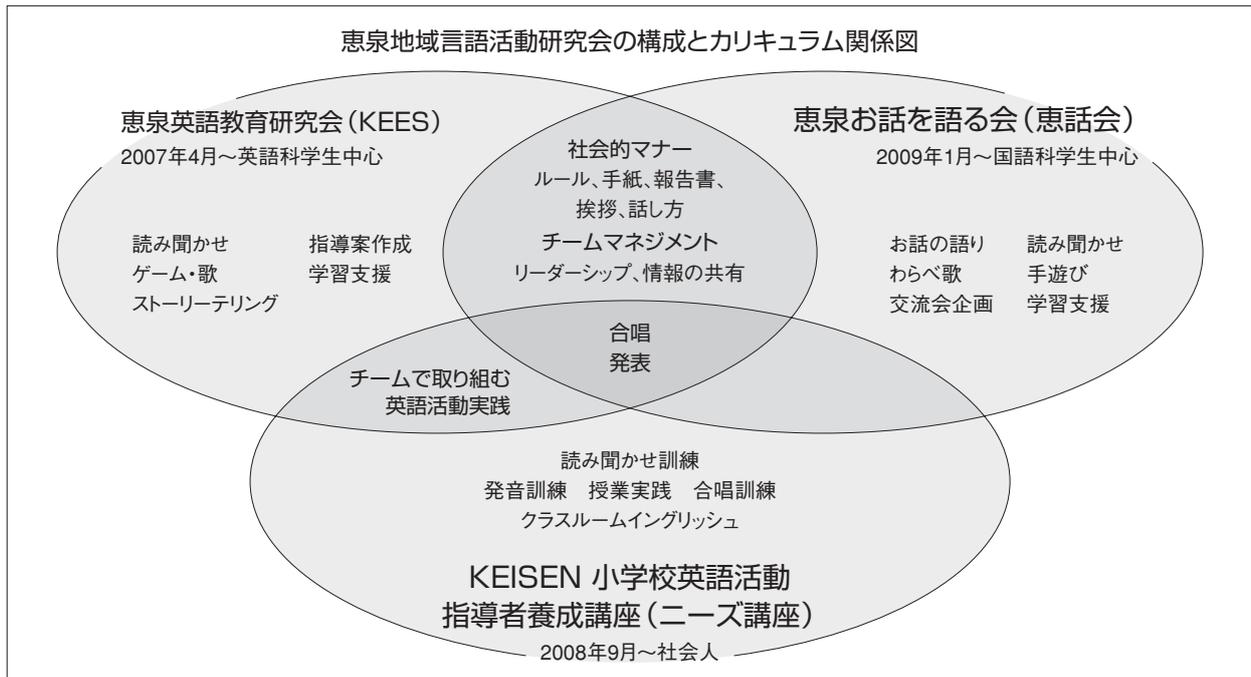
### 取組の評価体制

学生の活動報告や自己診断シート、活動先からの評価シート、実施委員会による参加シートを用いて形成的評価を行い、学期ごとに改善を重ねる。また実施委員会が学生の言語表現力と就業意欲の変化を総括評価として見るだけでなく、外部評価委員会を組織し、その答申を受けて改善を図る。

## 恵泉地域言語活動研究会について

恵泉女学園大学では、人文学部の教職課程履修者を中心に課外活動としての「恵泉地域言語活動研究会」を組織しています。この研究会は、恵泉英語教育研究会（KEES）、恵泉お話を語る会（恵話会）、KEISEN 小学校英語活動指導者養成講座の3つの会から構成され、地域の学校や福祉施設などを訪問し、専門性を生

かした言語活動（小学校英語活動、絵本の読み聞かせや語り、手遊びやわらべ歌による交流）による、地域貢献を継続的に行い、正課授業を補完して、学士力の確保と就業力の育成を図り、生涯を通じて社会に貢献できる人材を育成しています。



### ●研究会のあゆみ

恵泉地域言語活動研究会は、2007年4月、人文学部英語コミュニケーション学科に所属する学生を中心に「恵泉英語教育研究会（KEES）」から発足しました。この背景には、大学の教育的資源と地域の教育力を互いに提供し合うことで、共に若い世代の育成に力を合わせて取り組もうとする、稲城市教育委員会と恵泉女学園大学が取り交わした相互教育提携があります。以来、稲城市に加えて多摩市でも小学校英語活動を展開してきました。

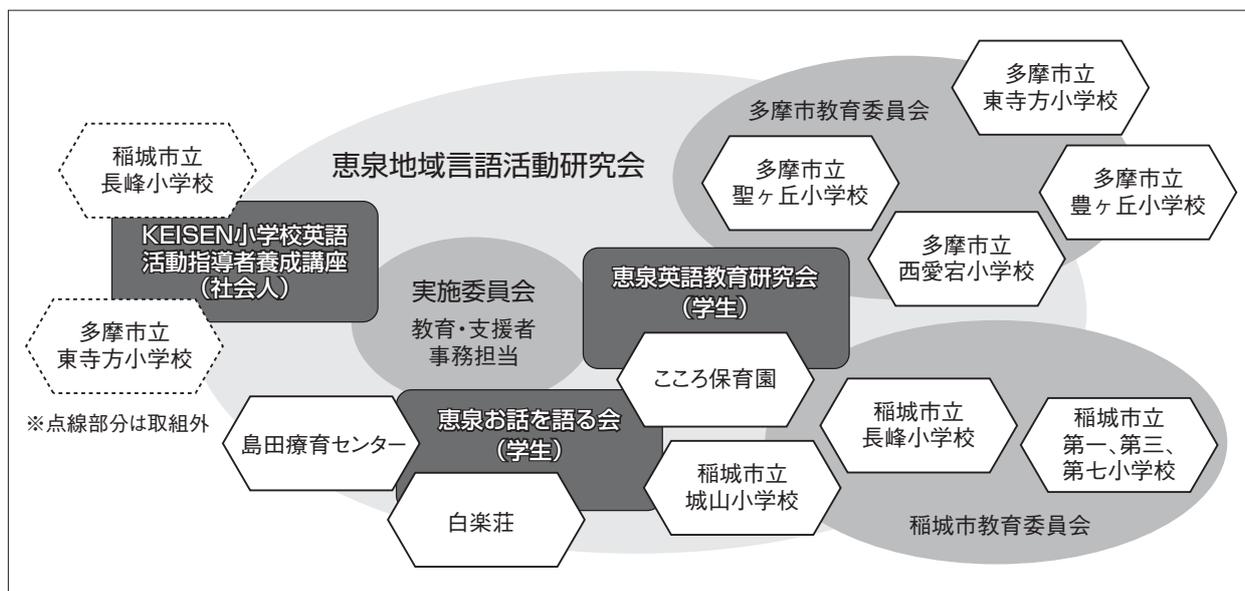
2008年9月には、「KEISEN 小学校英語活動指導者養成講座」を開講し、現職教員と地域住民を対象に、英語の発音と表現力に優れた英語活動指導者を養成してきました。この講座では、読み聞かせや発音の訓練を通して、英語音の発音を矯正し、表現力向上を図り、小学校の実習に臨みます。指導者としての表現力と技

能が、実際の教育現場で試され、磨かれることによって、全30回60時間のプログラムは終了し、受講者は認定証書を手に入れます。

2009年1月には、日本語の語りを中心とした言語活動によって地域奉仕を行う、「恵泉お話を語る会（恵話会）」が誕生しました。この会では、福祉施設や小学校等を訪問し、語りや読み聞かせ、わらべ歌や手遊び等を通してボランティア活動を展開しています。

学生は言語活動の専門家の指導を受け、チームで言語活動を企画運営します。その中で、マネジメント力、コミュニケーション能力が高められ、社会性や協調性も育まれていきます。学生、教職員が積極的に地域に出かけ、地域の方々と共に学び、共に成長を実感できる活動を展開しています。

## ●取組の実施体制



恵泉地域言語活動研究会は、教員2名と活動支援者3名、事務担当者1名で実施委員会を組織し、活動を行ってまいりました。

## ●取組担当者

	2009年度	2010年度	2011年度
恵泉地域言語活動研究会 取組担当	岩佐 玲子	大谷 由布子	
恵泉地域言語活動研究会 取組補佐	大谷 由布子	村岡 有香	
恵泉地域言語活動研究会 コーチ	須藤 桂子 馬郡 敏美 佐藤 智子	須藤 桂子 川名 仁美 飯窪 実香	神山 和子 大滝 明美 フジオカ 鶴子
事務担当	小関 毅彦		



岩佐教授



馬郡コーチ



佐藤コーチ



小関事務局次長



前列向かって左から、村岡助教、大谷助教、須藤コーチ、後列向かって左から、川名コーチ、飯窪コーチ、井村コーチ、フジオカコーチ、神山コーチ、大滝コーチ

## コーチ・スタッフ紹介

### 須藤 桂子

(2009～2011年度  
恵泉地域言語活動研究会アドバイザー)

研究会での私の担当は、主に学生との関わりです。内容としては、小学校への外国語活動に向けての練習に立ち会い、日本語の語りや詩などの発表の練習に参加、スプリングフェスティバルや恵泉祭での発表に向けての練習のお手伝いなどです。

学生の練習に向ける意欲は、目を見張るものがあります。学生の練習は、本番という当日の相手を想って練り上げられていきます。その行いが自分自身の発見につながっていることを、学生は時に強く感じるようです。また、チームで動くので、チーム間での意思疎通が重要です。そのチームの中に、私も参加させていただき、一緒に大切な何かを作り上げていくような過程でした。気がついたら、たくさんの仲間にもまれていました。年齢は私にはもはや全く関係がなく、仲間からたくさんの宝をいただきました。

学生に助けられ、同僚にも、先生方にも、大学にも、行く先々で助けていただいた、3年となりました。感謝でいっぱいです。

### 川名 仁美

(2011年度 恵泉地域言語活動研究会コーチ)

恵泉を卒業して1年、コーチとして再び恵泉地域言語研究会に携われることに心から感謝しています。社会に出て何度、ここでの経験が活かされたことか、数えればきりがありません。

私は主に、KEESの学生を対象に「英語スキルアップトレーニング」と題して、毎週月曜日のトレーニングを担当しました。ランチタイムの30分に皆でお弁当を持ち寄り、英語のリスニングやリーディングを行いました。KEESの学生たちは、大学での授業と英語活動を両立させるだけでなく、このように毎週定期的に英語を自主的に磨き、小学校での英語活動に活かしているのです。

そんな学生の努力や、奉仕活動への意識の高さは計り知れず、私自身も1年間、彼女たちの姿を見て学ぶことが多くありました。英語の楽しさや絵本の魅力、教えることの責任など、日々感じています。

KEES・恵話会に心を注いだ時間と、苦楽をともにした仲間は、必ずや彼女たちが社会に出た時、大きな自信になると信じています。引き続き学生を支援していきます。

### 飯窪 実香

(2011年度 恵泉地域言語活動研究会コーチ)

今年度、この恵泉地域言語活動研究会にコーチとして携わり、まもなく1年の月日が流れようとしている。この活動で大切にしていることの一つに、絵本がある。絵本は、読み手の数だけ、表現の工夫や解釈がある。この一年、学生とともに、同じページと何度も向き合い、伝えたい思いが相手に伝わるよう、ジェスチャーや表情、歌などの工夫を凝らした。その「相手に伝わるように工夫する」ということこそが、絵本と向き合うおもしろさであり、表現するおもしろさ、そして、相手がいる幸せなのだろう。日々、学生の情熱をひしひしと感じながら、美しい努力を目の当たりにした。きっと、今後の人生に、豊かな彩りを与えるだろう。

これから、私自身も、人の心に語りかけるストーリーのいのちを感じながら、表現者として、絵本との出会いや感動を大切に育み、それらを分かち合う人々との時間を豊かなものへと、工夫し続けたい。未知なるストーリーとの出会いが楽しみで仕方がない。

### 神山 和子

(2011年度秋学期 恵泉地域言語活動研究会コーチ)

私はKEISEN小学校英語活動指導者養成講座を修了し、引き続き恵泉女学園大学で、児童英語教育について「理論と実践」の両面から学びました。

講座では、充実したカリキュラムのもと、先生方・コーチの皆さんの温かいご指導と励まし、そして一緒に受講した仲間の皆さんにも支えられ、7ヶ月間を楽しく終えることが出来ました。私にとって、英語での最高の自己表現の場となりました。

今回私たちは、KEESの学生の皆さんの英語活動をサポートする機会に恵まれました。

学生の皆さんが、英語活動に向けて、真剣に準備・練習し、またその回数を重ねるにつれて、生き生きと自信を持って成長していく姿を見ることが出来、とても嬉しく感じています。そして、学生の皆さんと一緒に課題に取り組む中、気づきも多く私自身もまだまだ教わることが一杯です。私も、小学校での授業実践に参加させていただいていることを大変有り難く思っています。

学生の皆さんに一言お伝えするとしたら、今取り組んでいる英語活動を通じて、思い切り自分の可能性に挑戦して欲しいということです。目的意識を持って努力すればするほど、自分自身に力がつき、結果が出ると思います。

### 佐藤 智子

(2009～2010年度 恵泉地域言語活動研究会コーチ)

『見えぬけれどもあるんだよ 見えぬものでもあるんだよ』

私と恵泉との出会いは、約5年前にさかのぼります。恵泉でコーチとして、英語活動のため学生が小学校の教壇に立つまでのサポートや、学生と共に語りの練習、本番を共にする機会に恵まれました。学生と時間を共有し、共に悩み、共に笑いながら、私自身じっくりと目に見えないものを学生と共に創り上げていく「過程」の大切さを学びました。

私を含め、忙しく時間に追われる毎日を過ごしてばかりいると、どうしても結果ばかりに目が行きがちになります。英語活動や語りの場で成果を思う存分発揮できた学生がいる一方、練習の成果を発揮できなかった学生もいました。本番終了後、彼女たちの顔には、自分の成果を百パーセント出し切れなかったという悔しさが溢れていましたが、彼女達はその悔しさも大切にして、更に更に進歩していきました。

恵泉で出会った全ての学生との時間や「過程」は目に見えないものですが、私にとっての素晴らしい宝物です。

### 大滝 明美

(2011年度秋学期 恵泉地域言語活動研究会コーチ)

講座での訓練、大学での半年間の学びを終え、小学校での英語活動に関わりながらKEESの学生たちの活動に携わったこの数ヶ月間は、私にとって感動と収穫の日々でした。

講座で学んだ発音の基礎と読み聞かせでの表現力、そして大学での教育論は今の活動にも大いに生かされています。

また、ともに学んだ仲間と1つの目標（英語活動）に向い、力を合わせて心を合わせて練習を重ね、活動で児童のきらきら輝く笑顔に出会える喜びは一言では言い表せません。英語を教える楽しさを感じる瞬間でもあります。

KEESの活動では、時間をやりくりしランチタイムまでも練習に励み、悩みながらも、前へ前へと進む学生たちの姿に心動かされるものがあり、私自身もよい刺激を受けています。小学校では担任の先生や児童たちとの活き活きしたやりとりを楽しむ素晴らしい活動を見せてくれました。学生たちの可能性は無限大で、飛躍的な成長は驚きであり頼もしく感じます。彼女たちの日々の努力と経験の積み重ねは必ず、未来につながる大きな財産となるでしょう。

活動を通して感じることは、人との出会いを大切に努力と情熱を持って臨めば、必ず結果がついてくる、感動が生まれる、成長を実感できる、ということです。

### フジオカ 鶴子

(2011年度秋学期 恵泉地域言語活動研究会コーチ)

好きこそものの上手なれ。

先生が好き、仲間が好き、英語が好き、子どもが好き、たくさんの「好き」が集まった教室は、共に学ぶことの楽しさを表現できる場であり、未来へつながっていく互いの成長の場であるように思います。

小学校英語活動に参加させていただくたびに感心することは、子どもたちの笑顔が私達に与えてくれる喜びとその影響力の大きさです。

子どもたちの、楽しい、嬉しい、好きという気持ちの現れである、笑顔をたくさん見たくて、私達の準備にも自然と力が入ります。そして、仲間とともに準備と練習を重ねていくうちに、期待と自信をもって授業にのぞめるようになり、私達も笑顔で活動することができるのです。

地域住民のひとりとして、小学校英語活動について学び、実際の英語活動に関わらせていただくことで、私は今、社会とのつながりを実感しています。

私達の学びを支えている、みんなの笑顔、それは、平和の象徴ともいえるでしょう。

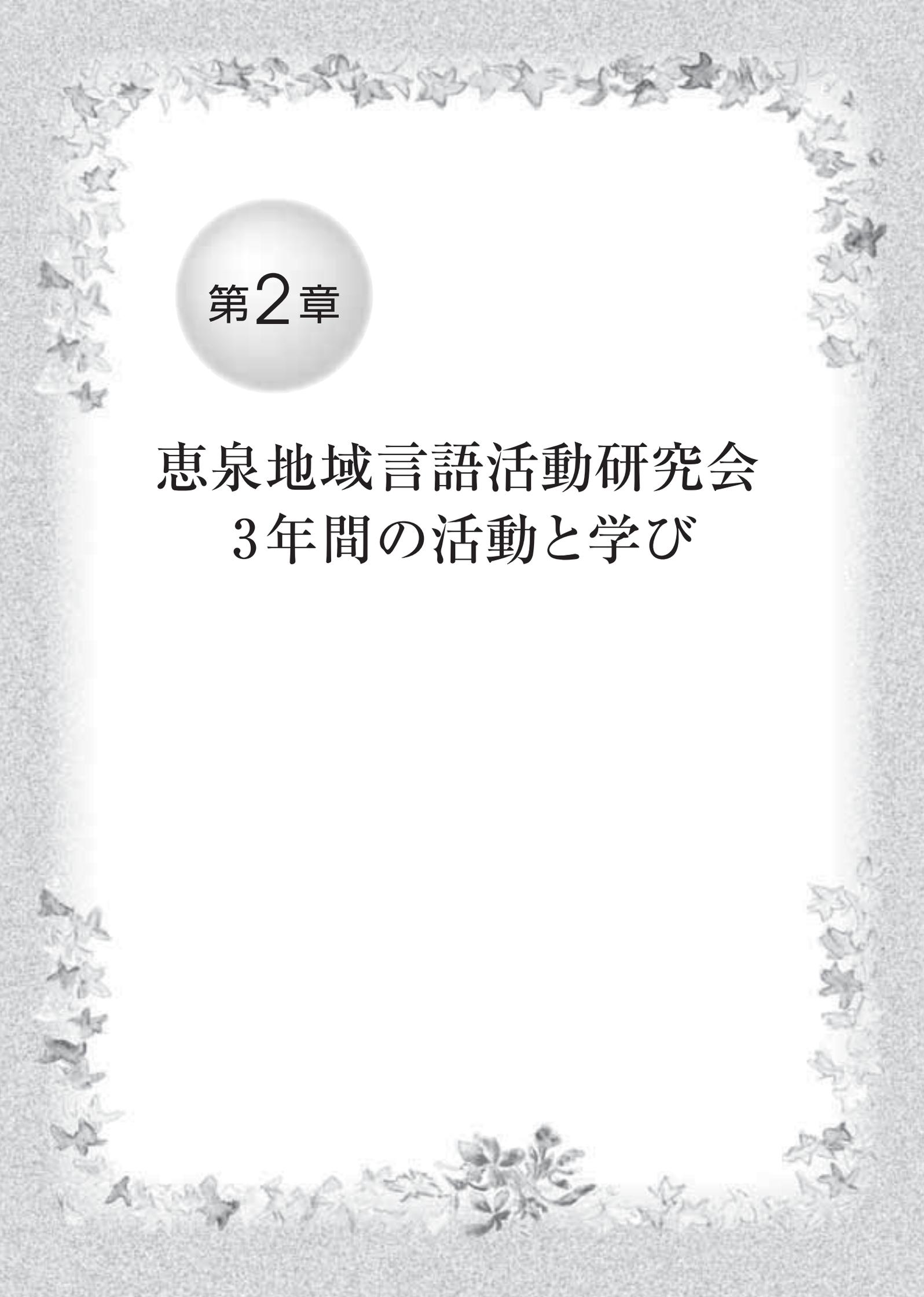
自分の身近にあるところから、平和をもとめ、つくりだしていく。私達にできることは小さなことでも、人々がつながりあうことで、大きく広がっていくのだと、私は信じたいと思います。

先生方、学生たち、受講生仲間の笑顔輝く「学びの園」での経験は、私にとっては、恵みそのものです。自分の力やがんばりで手に入れたものではなく、与えていただいたものだからこそ、感謝の気持ちで、大切にしていきたいと考えています。

### 小関 毅彦 (大学事務局)

教育のゼミの授業の一環として始まった小学校英語活動。小学校での実践を参観したときに、この活動によって学生が成長していることを実感しました。この活動を学内に広げることができないだろうかと思いついたときに、学生支援推進プログラムの公募がありました。学期初めの忙しい時期に、到達目標や評価方法について何度も議論を重ねて申請書を作成したのは楽しい思い出です。学生の語りを初めて聞いたときも驚きでした。物静かな学生が堂々とした語り手に変身して雄弁に物語を語る、物語を記憶し語ることを通して自分自身に自信を持つ、そのプロセスの中で学生たちが力をつけたことがはつきりと見て取ることができました。

私のこの活動での役割は、文部科学省からの補助金を適正に執行するための事務的なサポートです。3年間で補助金による支援は終わりますが、この活動を継続的に実施するために、知恵を出し合って活動を続けていきたいと願っております。



第2章

恵泉地域言語活動研究会  
3年間の活動と学び

KEES (Keisen English Education Society)

# 恵泉英語教育研究会 (KEES) の 活動



## 恵泉英語教育研究会 (KEES) 3年間の活動

●KEES活動日程

	2009年度	2010年度	2011年度
定例活動日	毎週火・木曜日の昼休み (火)…12:40～13:10 (木)…12:20～12:50	毎週火・木曜日の昼休み (火)…12:40～13:10 (木)…12:20～12:50	毎週月・水曜日の昼休み 12:40～13:10
行事など (恵話会合同行事を含む)	5/30 (土) スプリングフェスティバル 7/28 (火) 南落合小学校研修 8/3 (月) 多摩市教員研修 8/5 (水) 稲城市教員研修 11/7 (土) 多摩フェスティバル 12/10 (木) こころ保育園 クリスマス会 1/7 (木) クイック・クリーブランド 先生 合唱ワークショップ 1/9 (土) 合唱発表 2/20 (土) 活動報告会 2/26 (金) ボランティア認定証書 授与式	5/29 (土) スプリングフェスティバル 6/3 (木) KEES&恵話会 合同お話し会① 7/1 (木) KEES&恵話会 合同お話し会② 9/17 (金) 第1回お話を楽しむ会 11/6 (土) 多摩フェスティバル 12/16 (木) こころ保育園 クリスマス会 12/24 (金) 第2回お話を楽しむ会 1/11 (火) KEES説明会 1/13 (木) 合同説明会 2/19 (土) 活動報告会 2/25 (金) ボランティア認定証書 授与式 3/24 (木) 合同オリエンテーション	5/28 (土) スプリングフェスティバル 11/6 (日) 恵泉祭 12/15 (木) こころ保育園 クリスマス会 1/20 (金) 合同説明会 1/28 (土) 活動報告会、ボランテ ィア認定証書授与式

●地域奉仕活動の記録

	2009年度	2010年度	2011年度
4月	オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション、トレーニング開始
5月	トレーニング開始	トレーニング開始	25日 英語活動(西、聖)
6月	17・24日 英語活動(一、三、七、長)	9・23日 英語活動(一、長) 16・23日 英語活動(西)	22日 英語活動(西、聖)
7月	28日 教員研修		6日 英語活動(西、聖)
8月	3・5日 教員研修	1日 教員研修	
9月	16日 英語活動(長)	15日 英語活動(長)	
10月	14・28日 英語活動(一、三、七、長)	6・20日 英語活動(西) 13・27日 英語活動(一、長)	26日 英語活動(西、聖)
11月	25日 英語活動(一、三、七、長)	10日 英語活動(西) 17日 英語活動(一、長、西) 24日 発表会(西)	30日 英語活動(西、聖)
12月	2日 英語活動(一、三、七、長)	1日 英語活動(一、長、西)	7日 英語活動(西) 14日 発表会(西)、英語活動(聖)
1月			18日 英語活動(西、聖)
2月	3・17日 英語活動(長)	2・16日 英語活動(長)	3・10・17日 英語活動(豊) 24日 発表会(豊)
3月			1日 絵本読み聞かせ(豊)
【備考】	一＝稲城市立稲城第一小学校 西＝多摩市立西愛宕小学校	三＝稲城市立稲城第三小学校 聖＝多摩市立聖ヶ丘小学校	七＝稲城市立稲城第七小学校 豊＝多摩市立豊ヶ丘小学校

## 活動校の先生方より

### 言葉の花畑 ～KEESの活動より～

多摩市立聖ヶ丘中学校校長 山口 順一

模擬授業を見せてくれたことにさかのぼります。ベテランの英語教師の前で、経験の浅い学生さんが堂々とした授業を行いました。よく練られた内容で感心しました。若者らしくはつらつと振る舞っており、私にはとても新鮮でした。その研修会に参加した現役の英語教師の感想は、一様に「よく教育されている（練習を積んでいる）。中学校の英語入門期にすぐに活用できる」でした。大学の担当の先生にお聞きすると、スケジュールを組んで、小学校へ行って外国語活動の時間に授業をしているとのこと。しかし、それは大学の授業でもなく、部活動（サークル活動）でもない。昼休みに有志が集まって先生方、コーチの指導の下で指導案を作成し、その指導案に沿って練習をし、仕上げ、そして小学校の授業に臨むということでした。私が見た模擬授業は猛特訓がなければ成し得ないレベルまで高まっていました。何がそこまで学生さんたちの心を駆り立てるのか。そこに何があるのだろうか。学生さんに対してどのような評価が返されるのだろうか…？疑問がいっぱい湧いてきました。それが恵泉地域言語活動に興味を持った最初でした。

学生さんの英語の歌にしても、寸劇や読み聞かせにしても質的に大変素晴らしいのです。先生方（指導者）の熱意が学生さんに伝わり、学生さんがその指導にしっかり応えようとしていることがうかがい知れるのです。それがそのまま小学校に行くと先生役の学生さんの熱意が子どもたちに伝わって、同じように子どもたちが学生さんたちの熱意に応えようとするのです。その過程で両者の一体感が生まれ、授業が生きているのです。子どもたちは英語に触れる喜びを感じ、熱心なお姉さんたちの楽しそうな姿に引き込まれていく。英語を聞いて、まねをする。英語の歌を一緒に歌い、ゲームをして英語に親しむ。小学生にとっては、またとない英語体験、外国語活動です。

小学校で外国語活動の授業を経験した学生さんが、

子どもたちに「先生、楽しかった。今度、いつ来てくれるの？」と言われて感激した、と報告会で感想を述べていました。学生さんのそんな姿や取り組みの様子を見ているとき、私はマザーテレサの「人間の最大の不幸は病とか貧困ではなく、人に必要とされていないと感じることだ」という言葉を思い出しました。誰も人に頼りにされると嬉しいものです。役に立っていると思うとやりがいが出てきます。私の勝手な思い込みかもしれませんが、KEES、恵話会の活動目的の大元に「人に喜んでもらうこと」があるのではないのでしょうか。人に喜んでもらうことに幸せを感じながら、自然のうちに自らの能力を高め、人としても成長している…。

昨年の報告会で社会人の方の発表には圧倒されました。言葉の明瞭さ、声量、英語の発音、イントネーションなどの素晴らしさの中に、学生さんとはひと味違った気迫を感じました。参加者はそれぞれ忙しい時間をやりくりして、6ヶ月の間に平日と休日を併せて、30回も小学校英語活動指導者養成講座に出席されていると聞きました。生半可な覚悟でできるものではありません。目的は様々でしょうが、お一人お一人の意欲に心より敬意を表したい、そんな気持ちになりました。

恵泉女学園大学地域言語活動は、正に地域に広がる「言葉の花畑」です。小学校外国語活動の授業、高齢者福祉施設等での語り、絵本の読み聞かせや童歌などを通して、地域に貢献しようとする価値の高い実践です。また、その取り組みが学生さんや社会人の皆さんにとって豊かな人生を送ることにつながっていくものと信じます。

終わりに、これからも一層、恵泉地域言語活動研究会が、恵泉女学園大学の「言葉の花畑」にさらにさらにきれいな花々を咲かせ、地域の人々を益々喜ばせる活動へと発展されますことを願い結びとします。今後も恵泉女学園大学地域言語活動研究会から巣立っていく皆さんのご活躍を期待しております。

## 活動校の先生方より

### 「12月14日英語発表会」の感想

恵泉のみなさん、今日の英語発表会、すごく良かったです。子ども達は、ふっ切って楽しんでいましたね。本当にありがとうございました。今日の大成功の要因は、学生さん、飯窪さんの熱意だったと思います。子ども達は、指導者の熱意を察します。学生さん方の気持ちが伝わったから子ども達が動いたんだと思います。恥ずかしさが芽生える高学年の子たちをよくぞ、あそこまで引っ張った!! すごいことですよ。胸を張れる事実ですよ。

市川さん、Aくんを成長させてくれたのはあなたです。あなたの気持ちが、Aくんに自信を与え、あそこまでできた。本当にすごいことです!

オ丸さんの明るさは、クラスを動かす牽引力でした。あの澁刺さ、一生懸命さは、子どもを引きつけます。リーダー性Goodです!

伊丹さんの雰囲気、子どもに対する丁寧な対応がすごく良かったです。子ども達の意欲をくすぐっていたように思います。特に女子が動かされていましたね。

山口さん、子どもと私たちにあなたの誠実さが伝わってきます。吸収力の良さが、山口さんの成長になっているのが目に見えます。ぐんぐん成長していますね。

みなさん、本当にお疲れさまでした。

そして、『できる人たち』には、更なる要求をします! 集団を動かす技術をさらに身につけて下さい。私たちも日々、意識していることです。

#### ①話し方

- ・子どもが一人でも話していたら、絶対に話し始めない。待つ!
- ・とにかく、「ゆっくり」、「間をとる」、「緩急をつける」

#### ②子ども達を見る

- ・常に子どもたちを見て、どんな時も目を離さない。
- ・良い所、成長、その時の課題を瞬時に見つける。おしゃべり、ふざけ、ちよっかいなどを見逃さない。

#### ③「チーム恵泉」として

- ・指示系統を明確に絞る。全体指示をする人を決めたら、その人は、明確に全体に伝わる声で指示をする。周りの人は、フォローに徹する。
- ・集団を動かす見通しをもつ。並び方、並ばせ方など、常に「次の行動」を見据えて指示を出して子どもを動かす。

以上、今日の様子から思いついたことを偉そうに書いてしまい、すみません。恵泉の学生さんなら、すぐに吸収してさらにパワーアップした指導者になれると思います。今後も、よろしくお願いします。

今年度も外国語教育で、あたふたしている現場を助けて下さりありがとうございました。感謝しております。

西愛宕小学校 森田 真好

日頃、西愛宕小学校の外国語活動に関わってくださりありがとうございます。

毎回チームティーチングで行われる中味の濃い活動計画に児童は大変興味関心をもち参加しています。

年度当初は、学生に気恥ずかしさが見られ、それが担任だけでなく児童にも伝わったようです。子どもたちが、「恵泉の先生、頑張れ!」と学生の方を応援しながら参加する…というような空気が漂っていました。それでも、恵泉の活動は、一つ一つのアクティビティの目的がはっきりしており、子どもたちは45分の授業の後半には、自然に英語を口ずさんだり、リズムに合わせて体を動かしたりしていました。

きっと、学生の方の、緊張した中にも一生懸命な姿に子どもたちが何かを感じ、外国語を丁寧に学ぼうという気持ちになったのだと思います。

実際の教室では、活動案通りにいかなかったり、トラブルが発生することがあります。そんな時にどう対応するか、また、スクリプトはあくまでもベースで、目の前にいる子どもたちとどうコミュニケーションをとりながら活動を進めていくか。台本を読むのではなく、心のこもった自分の言葉として話すことがとても大切です。難しいことですが、学生の皆さんには実際の教室だから学べる機会ととらえていた

き、ティーチャーズトークも含め(子どもの目を見て話す、気持ちを込めて話す、表情をつけて…等)毎回、話をさせていただきました。

45分の授業が終わると、学生が輪になり、紅潮した顔で、活動のうまくいったことやいかなかったことを夢中でしゃべり、次の活動に生かしていた姿が印象的です。そして、次の時間にはまた一歩語りかけや視線が児童に温かく向くようになっていました。

12月の発表会の練習では、一人ひとりの子どもに向き合い、必死で子どもたちを指導応援見守る学生さんの姿がそここにあり大変嬉しかったです。

指導者と児童の関係から、ひとつのものを作り上げる苦勞と喜びを味わっていただけたのではないのでしょうか。また、このことを通して子どもたちとの関係が深まったのではないのでしょうか。来年の学生の皆さんの更なる変容が楽しみです。

最後になりましたが、充実した活動の中に担任の私も参加させていただけることはとても勉強になります。今後もともに児童にとって有意義な楽しい活動ができればと願っております。宜しくお願い致します。

西愛宕小学校 松田 友歌里

## KEES教授法について

2011年度から新設された小学校外国語活動は、「第5学年および第6学年に対して年間35単位時間、原則として英語を扱う」となっており、その目的は「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」と謳われています。学習指導要領解説には「学習指導要領等についての理解を深め、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成実施されるようお願いしたい」とあり、小学校ごとに異なる取組が行われているのが現状です。

小学校1年生～6年生まで、年間30時間程度の英語活動を行うKEESにとっては、上記の目標を意識した上で、活動校の現状に合わせ、かつKEESとして同じ理念のもと指導案を作成し、複数の学校で活動を展開しています。

私たちがもっとも大切にしているのは、毎回の活動

に「テーマ」や「ストーリー」を持たせることで、子どもたちへのメッセージを込めた内容を準備し、展開しています。その基本になるのが、Story-based Approachという、絵本を中心とした指導法で、『英語ノート』の内容や言語事項と絵本を関連させて指導案を組み立てています。英語活動の基本構成要素は、PPP (Presentation, Practice, Production) とされますが、KEESではまず、スキットやクイズを使った導入で児童の関心を引きつけ、チャンツを使って楽しく言語事項を練習した後、実際に言語事項を使用したアクティビティを行い、盛り上がった後には、静かに絵本に耳を傾けます。絵本は全体に対して、あるいは少人数で読み聞かせたり、co-reading や shared-reading と言って、お話の一部を児童と声に出して読んだり、歌を取り混ぜた読み聞かせを行うこともあります。基本的に活動はすべて英語で行いますが、授業の終わりに記入してもらう「振り返りシート」を見ても、児童が楽しんで活動に従事したばかりか、伝えたいメッセージがしっかりと児童の心に届いている様子が伝わってきます。

### ●2011年度KEES外国語活動実践（多摩市立聖ヶ丘小学校の例）

日時	学年	テーマ	『英語ノート』関連事項	学習事項	絵本・歌	アクティビティ
5月25日(水) 1～4校時	5年	TPR(全身反応教授法)を使った英語活動基礎作り	英語ノート① Let's Enjoy 1	身体の部位を表す単語(head, shoulders, knees, toes, eyes, ears, mouth, nose など) 基本的な動作表現(stop, run, walk, jump, touch など)	From Head to Toe ♪If You're Happy / Head, Shoulders, Knees and Toes	Simon Says
	4年					
6月22日(水) 1～4校時	5年	動物	英語ノート① Let's Enjoy 2	What's this? を使った復習、動物名(bear, kangaroo, lion, monkey, panda, rabbit, sheep など) 動物の名称、鳴き声	Good Night, Gorilla ♪Going To the Zoo	インフォメーションギャップを使った動物園ワークシート
	2年					
7月6日(水) 1～4校時	6年	七夕		形(circle, triangle, square など)	Papa, please get the moon for me? ♪Star Light, Star Bright	短冊作り(アルファベット使用)
	3年					短冊作り(日本語で)
10月26日(水) 1～4校時	4年	誕生日	英語ノート② Let's Enjoy 1	季節と数字(1~13)の復習	Fortunately ♪Thank You! Song	Wow! Game
	6年			季節の月の名称(January~December)の復習		
11月30日(水) 1～4校時	5年	世界	英語ノート② Let's Enjoy 2	世界の国々と国旗	My Cat Likes to Hide in Boxes	国旗あてゲーム
	3年			世界の国の旗と色		
12月14日(水) 1～4校時	6年	クリスマス		What do you want? I want ...	Who Will Guide My Sleigh Tonight? ♪Jingle Bells	What do you want? ゲーム
	1年			絵本に登場する動物の名称		Animal Basket
1月18日(水) 1～4校時	5年	1年間の復習	英語ノート① Let's Enjoy 3	1年間の復習	Where the Wild Things Are ♪Days of the Week	すごろく
	6年					



●小学校英語活動指導案例②

多摩市立 小学校 英語ノート2 Let's Enjoy 1 英語活動指導案

- 日時： 平成22年 月 日
- 対象： 年 組 担任
- 題材： 英語ノート2 Let's Enjoy 1
- 目標言語： 季節や誕生日に関する表現 (1~13までの数と6年生はJanuary~Decemberの復習を含む)
- 目標と評価規準： (言語や文化) 季節を表す単語に親しむ。  
(コミュニケーション) 活動者の英語をよく聞き、目標言語を使って活動を楽しむ。  
(音声や表現) 英語音のリズムやイントネーションに親しむ。
- 使用教具： CD (Hello Song, Thank you! Song)、ピクチャーカード (季節、月の名称 (6年生のみ)、数字カード)、絵本 (Fortunately)、振り返りシート、電子黒板、小道具 (お面、笑顔+泣き顔)
- 事前準備： 日付を板書しておく、机の配置 (コの字)、ネームカード、担当教諭との打ち合わせ (一時間目)
- 授業内容：

過程 (分)	児童の活動	HRTの活動	ALTの活動	留意点	教材
①挨拶とウォームアップ: Greetings & Warm-up (3)	Yeah! (元氣よく反応)  Hello! (元氣よく挨拶する)  I'm fine, thank you. And you?  (元氣に歌う)	It's English Time! Are you ready?  Let's start. Hello! How are you?  I'm great, thank you.  : Now, let's sing "Hello Song". Stand up, please.  : Good job, everyone. Sit down, please.	Yes!  Hello! I'm happy, thank you. And you?  Hello, everyone!  How are you?  I'm happy, thank you.  That was excellent!	アイコンタクト、ジェスチャーをつけて元氣に挨拶する	
②導入: 新出語句の練習 Practice (7)	What's next?  Yes!  Wednesday.  October.  23 <sup>rd</sup> .  Yes!  My name is ( ) .	Let's move on.  It's Presentation and Drama Time.  Let's move on.  What's next?  Yes! First look at the blackboard. What day is it today?  Wednesday. Excellent. What month is it?  That's right. October. October is in autumn (秋). What date is it today?  Very good. 23 <sup>rd</sup> . It's Wednesday, October 23 <sup>rd</sup> . Who has birthdays in October?  What's your name?  Happy birthday, ( ) . OK. Now, it's drama time.	児童の中に入り英語を促す  序数が正しく書えることに留意		
		<p>【スキット】</p> <p>KT: Spring has come. (絵カード使用) 先生:(うきうき)お楽しみですか? Spring! I'm a rabbit. It's MY (動物) season! (うきうき)真似をしながら、ボンボン跳ねる。一歩退縮する。)</p> <p>KT: Summer has come. (絵カード使用) HRT(子ども): Summer! I'm a cicada. It's MY season! (せむぎの真似をしながら、ミンミン鳴きながら歌を歌う。一通り回ったら退縮する。)</p> <p>KT: Autumn has come. (絵カード使用) (きのこの真似をしながら、よきにききする。しぼりかして退縮する。)</p> <p>KT: Winter has come. (絵カード使用) 先生:(雪だるま役) お楽しみですか? Winter! I'm a snowman. Finally, it's MY season! (雪だるまの真似をする。そのまま跳ねる。)</p> <p>KT: Oh, spring has come again. (絵カード使用) 先生: It's my season again! 先生: Too hot! Aw (オー) (雪だるまが溶ける) 先生が溶けた雪だるまに何かがずり込んでしまう。 先生: Oh, sorry!</p>	四季のカード、小道具(こらんで用意します)の用意		
	What's next?  January/February/.../December. One/Two/.../Thirteen.  Spring/Summer/Autumn/Winter. (後につけて発音する)	Let's move on.  It's Practice Time.  (先生は、"What month?"、先生は、"What number?"の絵カードを、お持ちください)  (先生、先生、"Which season?"の絵カードをお持ちください)  That was (excellent)!	What's next?  Now let's practice. (6年生は月の名称、5年生は1~13の数を、それぞれ復習/練習する)  Now, let's learn the seasons. (チャンツで季節を練習する)  Good job!	発音に留意する  月・数のカード、四季のカード	

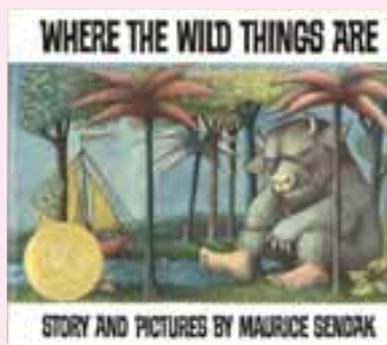
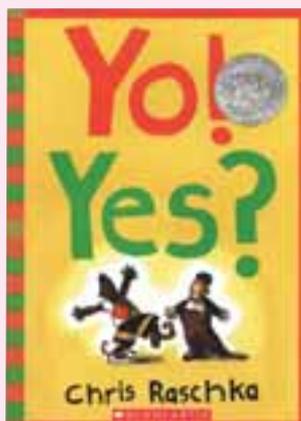
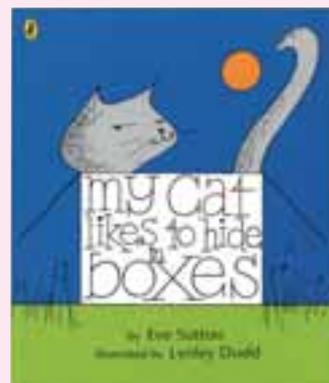
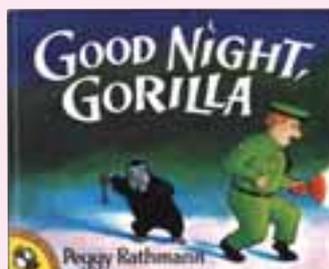
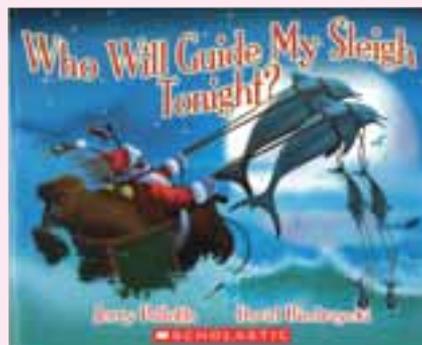
③展開: アクティビティ Activity (10)	What's next?  That's a good idea!	Let's move on.  It's Game Time!	What's next?  That's a good idea! Today's game is "Wow!" Game. First, we will show you how. Please watch us. (ゲームの例を示す)		
		<p>"Wow!" Game</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>児童を少人数のグループに分ける。</li> <li>順番に季節を言って、次の児童を指名し、最後の児童が "winner" と言ったら、両腕の児童が手を挙げて "Wow!" と言う。</li> <li>間違えた児童が出たら、そこから再度始める。</li> <li>季節以外にも 1~13 の数字を使って同様に行う。この際、児童の様子を見て必要に応じて、一度区切り、次に続ける等の工夫をする。</li> <li>決められた時間内でできるだけゲームを繰り返して楽しむ。</li> </ol> <p>【ゲームスキット】 Let's count from spring to winter. : Spring : Winter ( を指す) : Wow! : You (Ms. ) and you (Ms. ) say "Wow!" One, two, only two persons, but you (Ms. ) don't say "Wow!" ( は、"Wow!"と言わなければならないが、 言っていないというのをジェスチャーで伝える) 2回目は、間違えるゲームをさせる。</p>			
	(ABCDE/ABCD グループに分かれる)  Yes/No!	Good Job.	It's your turn. Please make 5/6 groups. I will count from A to E/D so please remember your number.  OK. Let's start!  Time is up. Did you have fun?  That was (wonderful).	6年: 3Gs 5年: 4Gs  A: B: C: D: E:	
④展開: 絵本と歌 Story & Song (11)	What's next?  Yes!  (絵本を楽しむ)  (歌を聞く)  (ジェスチャーをしながら歌を歌う)	Let's move on.  It's Story Time!  Now, it's singing time. Today's song is "Thank you! Song" First, we will sing the song. Please listen. (歌を歌う)  Now, it's your turn. Let's sing and do the gestures. Stand up, please. (ジェスチャーをしながら歌を歌う)  Well done!	What's next?  Yes! Look at the picture book. Please listen carefully. (絵本を読む)	名前: Ned ・ろうそくを飾めと飾り ・6年生は書き込む	絵本 Fortunately 小道具(笑顔と泣き顔) 電子黒板
⑤カルチャーとコミュニケーション: Culture and Communication (6)	What's next?	Let's move on.  It's Culture Time!	What's next?	カルチャー	カルチャー スタグロブ
		<p>【カルチャースキット】</p> <p>カルチャーの視点: 年度の始まりは国による! KT: 日本では spring(春)といえど季節は spring(春)である。出会いと別れの季節! 新しい学年や入学式がある季節でもあります。それは日本の文化であり、日本が誇る文化の始まりとしての日は輝いていますが、長い歴史の中で欧米に合わせた文化や季節の月としたりもしてきました。 今日はその活動からいくつかお話をしたいと思います</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>世界の国々で一番新年が始まるのが多い季節は spring(春)である。ケルカハバツカワ (ケルカハバツカワ) 一番多いのは autumn(秋)。秋のほとんどの国が9月はじまり。そもそも学校制度がほとんど同じが北半球で、北半球で始まるのは春(4月)か秋(9月) (春と秋) ため、違いがある。</li> <li>同じアメリカでも州によって新学期や夏休みの期間が違う。州は日本でもところどころ異なるが、日本のそれよりも種類があって、法律も立っている。そもそも学校によって違ったりもするほどです。</li> <li>オーストラリアの新学期は Jan(1月)や Feb(2月)からである。オーストラリアは南半球、つまり1月~2月(夏)の終わりにあたります。 日本: 3月5日~春 6月8日~夏 9月10日~秋 12月1日~冬 オース: 9月10日~春 12月1日~夏 3月5日~秋 6月8日~冬 だから欧米と同じような気候のとき</li> </ol> <p>※状況に応じて6年生のみも英語を教り入れる</p>			
⑥挨拶: Good-bye (3)	What's next?  OK. (元氣よく歌う)  Thank you.  You, TOO!  See you!	Let's move on.  It's Good-bye Time!  : Let's sing "Thank you! Song". Stand up, please.  : Very good. Sit down, please.  Thank you.  You, TOO!  See you!	What's next?  Thank YOU! Have a nice day!  See you!	笑顔で元氣よく挨拶する	
⑦振り返り (5)	振り返りシートに記入する	振り返りシートを配布する			振り返りシート

参加者の状態その他の要因によって構成や時間配分等が変わることがあります。

KEES英語活動で使用した絵本と教材

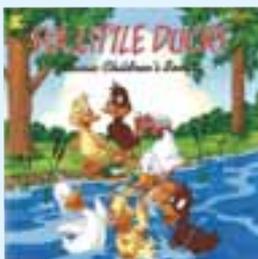
英語絵本

1. Where's the Fish?
2. The Gigantic Turnip
3. Yo! Yes?
4. 10 Trick-or-Treaters
5. Harvey Slumfenburger's Christmas Present
6. Fortunately
7. The Three Billy Goats Gruff
8. Mr. Gumpy's Outing
9. Dinosaur ROAR!
10. Good Night, Gorilla
11. Who Will Guide My Sleigh Tonight?
12. Papa, please get the moon for me
13. A Apple Pie
14. 12 Days of Christmas
15. From Head to Toe
16. Where the Wild Things Are
17. 10 Trim-the-Tree'ers
18. My cat likes to hide in boxes



CD教材

1. Six Little Ducks
2. Genki English
3. New Let's Sing Together
4. Wee Sing Children's Songs and Fingerplays
5. Wee Sing And Play
6. えいごであそぼ



## 作成した教材例





## 学生の報告書より

◆活動日：2011年6月22日 長谷川 愛香

まず、英語活動での良かった点は、“I spy game”だったと思います。児童が実際に体を動かすことによって、動物の名前を知るだけでなく、色も復習できてよかったという声をたくさんもらえました。また、ゲームをポイント制にすることで夢中になってゲームに参加していた様子が見えて、高学年はポイント制のゲームにすると積極的に参加してくれるということを学びました。また、チャンツでは、尾崎さんが上手く児童を惹き付けていてとても勉強になりました。まず、子どもたちにぐっと近づき、児童の反応を見ながらリズムや言い回しを変えていたところがとても良かったと思います。次回、私もチャンツをやるので、私のペースだけではなく児童のペースも大事にしていきたいです。また、自分が担当したカルチャーでは、準備段階で動物の鳴き声を紹介したところで高学年に楽しんでもらえるかととても不安でし

た。しかし、クイズ形式にしたことや実際に鳴き声をしてもらったことで楽しんでくれたようなのでとても安心しました。ただ、一時間目のカルチャータイムで時間が無くなってしまい最後までいかなかったのが少し残念です。また、授業支援では、6年生の算数を担当しました。主に、算数を苦手としている女の子二人を中心でみていたのですが、私自身が理解していても、私が教えた方法と先生の教えた方法が違っていたら混乱を招いてしまうと思って少し不安になりました。しかし、答えの正誤はアドバイス出来たので良かったと思います。参観活動では、低学年班のスキットが素晴らしかったです。リズムカルな動作や音声によって英語を楽しんでいた子どもたちを見て、こちらまで楽しくなりました。高学年と低学年では、レベル的な違いはあるけれどもとにかく英語を楽しもう！という気持ちで指導することが重要なのだということを今回学びました。

◆活動日：2011年7月6日 金子 陽香

今回、時間の重要性和子どもの意見を反映させる難しさを学んだ。

まずは時間に関してである。今回2クラスともフルーツバスケットに似たゲームをびっくりするようなエネルギーを出しながら楽しんでいた。大げさかもしれないがもしそのゲームの担当が私であったら、きっと時間を忘れてしまうかもしれない。そのようなときに、タイムキーパーは時間を見る余裕を持っているので、非常に役立つと気づけた。そう考えてみると、将来教師になった際に、時間を気にしながら授業を進める必要性が出て来て、教えることの他にも様々なことを考えなければならぬと学んだ。

次に意見を反映させる難しさである。私はカルチャータイムを担当し、子どもたちの反応を見てただただ嬉しかった。その一方で2コマ目の際に、「七夕がどのよう

な昔話か」という質問をしたとき、手を挙げていた子どもに当たるところ、予想ができないような私たちが知らない物語を時間をかけて話し始めたのであった。子どものお話を聞くことはとても楽しかったが、その一方で内面では「後で短冊に書く時間がない!!」と不安になっていた。そしてこのような状況を読み取る難しさを学んだ。

今回の授業は3ヶ月の中で全員の雰囲気を読み取りながら1番良かったと感じている。元々順位を付けるのに対してためらいを感じているので「1番良い」とは強調したくないが、一人一人の心がようやく一つになった気がした。そのような状態だからこそ、改めて「子どもたちとともに楽しんでいる」ということ以外の反省点を見直せたのかもかもしれない。そして、今後は「子どもたちと純粋に楽しんで授業をする」という心がけを忘れず、さらに磨き上げていきたい。

◆活動日：2011年10月26日 市川 友里絵

今学期初めての英語活動が始まった。久しぶりということもありとても緊張した。その中で私が今回学んだことと反省したことを述べたいと思う。

まず今回学んだことは、2校時の劇練習の時である。児童が劇の練習をしているときに、先生は色々な班に回り指導をしていた。その指導が、劇をより良くするための案を自ら演じていた。やはり児童には口で説明するよりも実際にお手本を見せた方がわかりやすいようだ。また、先生と児童でより良い劇を作り上げようとしていることが、ひしひしと伝わってきた。私も積極的に動いて、わかりやすく、なおかつ、よりよい授業をみんなと作れるように努力したいと思う。

次に反省点である。今回私はチャンツを担当した。し

かし、チャンツのリズムがわからなくなってしまい、手拍子など統一することが出来なかった。統一されていないと、児童もどれに合わせればよいのかわからないと思う。そのためには、やはりみんなて話し合い、統一してその担当の人がしっかり把握しなければならない。全体の練習ももう少しとれるようにしたいと思う。

最後に私が今回感じたことである。声に抑揚をつけてメリハリをもっとつけられたらな、と思う。自分自身が授業を受けているときにとても感じるのだが、声に抑揚のない先生の授業は、あまり記憶に残らないつまらない。だから私は特に大事なところ、さほど大事ではないところ、など分別してみんなの記憶に残るような授業を目標にしたい。

## KEES活動風景



意味理解はジェスチャーで



カルチャークイズ



楽しい絵本の読み聞かせ



チャンツによる練習



社会人受講生と一緒に





canを使って、「できること」を紹介



ゲームのデモンストレーション



学園祭にて



歌の指導



小グループでの活動



ICTを活用して



表現力に富んだ読み聞かせ

## 学生の報告書より

◆活動日：2011年7月6日 五十嵐 彩織

早くも今回が今期最後の英語活動となり、いつもより気を引き締めて臨んだ。私はPractice timeを担当したのだが、児童もこちら側も楽しく活動できたのではないかと思う。また、今回の活動が今までの活動の集大成であり、活動開始当時に比べると落ち着いて活動できるようになり、活動をするにつれて、いろいろな部分において改善されてきたように思う。しかしながら、今回の活動で自分の弱点などを知る機会ともなり、私個人としては少し悔いの残るものになってしまった。一番に挙げられるのは、“時間配分”ということである。何回か経験

している活動ではあったのだが、毎回緊張によって周りに気を配れなくなり、活動に没頭しすぎてしまう。それによって時間が前後していても臨機応変に動くことができなかった。毎回反省点が尽きることはないのだが、ここで反省できたことで成長でき、これからも成長し続けるように思う。よって、今回できなかったことは来期で改善できるよう練習を重ねていきたいと思う。また、社会人と大学生という特徴的な活動体制だったが、人生の先輩と仲良く楽しく活動でき、とても嬉しく、普通の生活にはない貴重な体験をさせていただいたと思う。

◆活動日：2011年11月30日 才丸 光

今回の英語活動はいつものような授業形式ではなく、12月14日の発表会のための準備として私たちによるデモンストレーションと、子どもたちの劇の練習のお手伝いを中心に行ったが、今日は特に今回のような時間の頂き方をした場合の時間配分と進行の仕方、そしてデモをやる際の私たち自身の心構えの2点を特に学ぶことができた。

まず、今回のような子どもたちの練習中心の予定を組んだときの時間配分や進行についてだが、今回はいつものように授業の進め方の大枠が定まっておらず、更にそれぞれ自分が担当するコンテンツを中心に考えていたため、誰がどこでどんな説明を入れるのか、子どもたちにとってどういう順序で説明を入れたほうが分かりやすいのかということ深く考えずに授業を進めてしまったことが言える。つまり、たとえ全員で揃ってする練習時間が限られていたとしても、せめて自分以外の学生が何をやるのか何を言うつもりなのかを確認する必要があると

痛感した。また、更にそうした上でも尚予想外のことが起きて、その場で誰が進行をするか、どういったフォローを入れるべきか悩んだときは、誰が動くかを決めておくのもひとつの手だとも感じた。そして今後はその役を班長と決めておくことによって、よりスムーズに質問が進むよう工夫したいと思った。

そして二つ目、私たちがデモなどをする際の心構えだが、これは練習を見てくださったときの森田先生のお言葉からである。前に出る人は恥ずかしがってはいけない。私たちがデモをやるときは、子どもたちに求めることの10倍くらいオーバーにやる必要がある。それでも実際子どもたちから引き出せるのは私たちがした10分の1程度なのだから、というのは本当にその通りだと思うと同時に、私たち自身がまだ無意識のうちに恥ずかしがっていたことを痛感し、今後はもっと恥ずかしさを捨てる努力をすべきと強く感じた。

次回の英語活動はまた引き続き練習のサポートなので、特にひとつめを意識して動きたいと思う。

◆活動日：2011年12月14日 伊丹 沙織

If you teach a man anything, he will never learn.  
(もしあなたが人に何かを教えようとすれば、彼は何も学ぼうとしないだろう。)

今回の合同発表は私たち西愛宕小班の活動の中でも一大イベントであった。合同発表会自体は成功という形に終わったが、これは私たちの指導が上手に出来たからではなく、担任の先生方が時間を割いて練習時間を割いてくださり、その時間で児童たちが練習に励んでくれた成果だと思う。本来ならば、先週の私たちに与えられた時間内で児童たちに指導しなければいけない内容を教えることが出来ず、この件に関しては、担任の先生方からご指摘を受けた。担任の先生方から「発表会のゴールを決めた際、残りの使用出来る時間を逆算し、その範囲内で指導プランを考える。その場その場で児童に指導する

のではなく、ゴールを見据えて指導する。」という言葉を受けた。今後の活動ではこの言葉を肝に銘じながら、活動に励んでいきたい。

先週から続いている活動を振り返り、担任の先生方から沢山の厳しいご指摘を受けた。自分自身の指導不足、児童たちの注意を惹き付ける力不足を感じた。またそれと同時に、先生方からのご指摘に心が折れそうにもなった。しかし、それ以上に、担任の先生方に感謝の気持ちでいっぱいになった。その理由は、先生方も私たちの活動に全力になってぶつかってきてくださる。私たちのことも、自分たちの教え子の様に私たちのことを指導してくださる。その向上心の高い“教師”として素晴らしい姿の先生方と一緒に活動することが出来る。その素晴らしい環境に感謝の気持ちでいっぱいである。

# 恵泉お話を語る会（恵話会）の 活動



### 恵話会活動風景



クリスマス会



合同発表会



白楽荘



城山小学校



こころ保育園



島田療育センター



## 恵泉お話を語る会(恵話会) 3年間の活動

●恵話会活動日程

	2009年度	2010年度	2011年度
定例活動日	毎週木・金曜日の昼休み (木)…13:00～13:30 (金)…12:40～13:10	毎週木曜日の昼休み 13:00～13:30	毎週金曜日の昼休み 12:40～13:10
行事など (KEES合同行事を含む)	5/30(土) スプリングフェスティバル 11/7(土) 多摩フェスティバル 12/10(木) こころ保育園クリスマス会 1/7(木) クイック・クリーブランド先生 合唱ワークショップ 1/9(土) 合唱発表 2/20(土) 活動報告会 2/26(金) ボランティア認定証書授与式	4/17(土) 松岡先生ワークショップ 5/29(土) スプリングフェスティバル 6/3(木) KEES&恵話会 合同お話し会① 7/1(木) KEES&恵話会 合同お話し会② 9/17(金) 第1回お話を楽しむ会 11/6(土) 多摩フェスティバル 12/16(木) こころ保育園クリスマス会 12/24(金) 第2回お話を楽しむ会 1/13(木) 合同説明会 2/19(土) 活動報告会 2/25(金) ボランティア認定証書授与式 3/24(木) 合同オリエンテーション	4/28(木) 新入生歓迎会&交流会 5/28(土) スプリングフェスティバル 6/25(土) お話し会 11/6(日) 恵泉祭 12/15(木) こころ保育園クリスマス会 1/20(金) 合同説明会 1/28(土) 活動報告会、ボランティア認定証書授与式

●地域奉仕活動の記録

活動先	2009年度	2010年度	2011年度
稲城市立城山小学校	6/19・26(金) (6/5には見学訪問) 10/9・16・23・30(金) 11/6・13・20・27(金) 12/4・11・18(金)	6/8・6/15・6/22・6/29(火) 10/26(火) 11/2・9・16・30(火) 12/7・14(火)	/
	朝の読書タイム(10分間) 担当と学習支援		
多摩市島田療育センター (日本心身障害児協会)	6/13(土) 13:30～15:00 第七病棟 第1回わくわく交流会 誕生会見学 西棟と東棟で「わらべ歌」	9/24(金) 13:40～14:30 厚生棟研修室 第2回わくわく交流会 「外郎売、語り(2)、わらべ歌」 (アンコール:語り) 2/4(金) 13:40～14:20 厚生棟研修室 第3回わくわく交流会 「わらべ歌、語り、詩(2)、語り」 (追加:外郎売、詩)	9/13(火) 13:30～14:30 交流会 「語り(4)、わらべ歌(2)、詩」
多摩市白楽荘 (高齢者福祉施設)	10/17(土) 14:00～14:30 第1回いきいき交流会 「詩(2)、わらべ歌」 2/6(土) 14:00～14:30 第2回いきいき交流会 「わらべ歌、語り、外郎売」	9/8(水) 14:00～14:30 第3回いきいき交流会 「詩、ことばあそび、わらべ歌、語り」 2/9(水) 14:00～14:30 第4回いきいき交流会 「外郎売、わらべ歌、語り、詩」	10/8(土) 11:00～11:30 交流会 「語り(2)、わらべ歌(2)、詩」
多摩市こころ保育園	12/10(木) 12:40～13:20 本学G103教室 クリスマス会(KEES・恵話会合同) 「歌(日・英)、絵本(英・日)、ゲーム」 (年長児招待)	7/6(火) 9:30～10:00 こころ保育園2F 第1回お話し会 「わらべ歌、絵本、詩、語り」 11/9(火) 9:30～10:00 こころ保育園2F 第2回お話し会 「わらべ歌、絵本、詩、語り」 12/16(木) 12:40～13:30 本学小体育室 クリスマス会(KEES・恵話会合同) 「歌(日・英)、絵本(日・英)、語り(日)、ゲーム」(年長児招待)	10/25(火) 9:30～10:00 奉仕活動 「わらべ歌(2)、語り、絵本、詩」 12/15(木) 12:45～13:15 本学多目的ホール クリスマス会(KEES・恵話会合同) 「歌(日・英)、絵本(日・英)、ゲーム」(年長児招待)

## 恵話会の活動を振り返って—外部からの評価として—

語り手・元多摩市立中学校図書館司書 伊東 陽子

恵話会の催しに、これまで数回参加することができた。サークル活動のひとつとして「語り」を行う大学は珍しい。学生は恵話会で身に付けた能力を使って、地域の社会貢献活動を実践している。学生と地域の大人や子ども、大学と地域を直接繋ぐ活動として素晴らしいサークルだ。私は一市民として、また一語り手として恵話会の活動を見守ることができたことを幸せに思う。

「語り」の魅力を経済化社会に生きる現代の学生が理解するのは、さぞ難しいことであろう。物語を覚えて話すといったアナログな作業は、膨大な労力と努力を要し、その割合に上達が分かりにくいからだ。活動のカリキュラム作成も相当苦勞されたことと思う。

2011年の6月に大学内でお話会があり、縁あって参加させていただいた。語りとは、語り手が物語を覚えて語り、聞き手と心の対話をするものである。親が子に語る場合は人間関係が確立されているので、どう語っても子は聞き取ってくれる。しかし、大勢の人に分かりやすく物語を伝えるには、語る技術が必要になる。発声、滑舌、速さ、声の高さ、アクセント等、基本的な技術の習得に励んでいた。恵話会の語りの魅力は、野球に例えると高校野球の魅力と似ている。レベルだけならプロのほうが高いが、初々しく純粋でひたむきで私達を感動させてくれるのだ。

8月に多摩市内のコミュニティーセンターでお話会が開催された。恵話会の学生達が自主的に参加されていた。いろいろな語り手の話を聞くことで、学び、自分の能力を向上させようとする意気込みが伝わってきた。語りを学んだことをきっかけに、地域の様々なお話会に参加されることで、学生達も見聞が広がり成長するだろう。また、お話会に参加される方は、小学生までの子どもと、親世代～高齢者が殆どで、大学生くらいの年代の人は非常に少ない。地域の活動に大学生が参加すれば、活動の活性化にも繋がる。

その学生達は、演目の中の影絵が印象に残ったようで、自主的に影絵を作り合同発表会で上演した。ちょっと昔の物語に若い大学生の感性が入り、今の物語に生まれ変わっていた。新しい世界観と美しい絵だった。物語が次の世代へ受け継がれた瞬間だった。

11月6日大学の学園祭で、恵泉地域言語活動研究会の合同発表会を拝見することができた。演目は、昔話・創作の語り、絵本、手遊び、詩、影絵で、日本語と英語が使われていた。様々な演目で、聞き手を疲れさせず楽しませる構成になっていた。学生達は皆よく通る声で堂々と聞きやすく語り、日頃の訓練の成果が出ていた。こうして身に付けた伝える力は、これから先ずっと彼女達を支え続けることである。

今年度、文部科学省の学習指導要領が改訂された。ある国語の教科書の小学校高学年の「聞いて楽しもう」という単元の中に「お話の大体を覚えて、だれかに語り聞かせてあげる」という内容が盛り込まれた。語る力は点数では表せないが、生きる上で「的確に相手に伝える力」は重要である。機械化が進み人と人とのふれあいが少なくなった現代だからこそ、コミュニケーション能力の育成は必要だ。昔から人々の暮らしの中で自然に行われてきた語りの教育的効果が、ここで改めて見直された。

昔話は長い年月をかけて、口から口へと伝えられて作られた伝統的な文学である。耳から聞いて楽しく分かりやすく出来ているものであり、多分に音楽的なものだ。人は大昔から営々と「語る文学」を語り継いできた。この壮大なりレーを、恵話会の学生達が繋いでいって欲しいと願う。

最後に、恵話会を設立された関係者の皆様に感謝を申し上げたい。恵話会の皆さんには、これからも地域や学校で、多くの人々に物語を届けていただきたい。若い語り手達の健闘を、心から祈っている。

「恵泉お話を語る会」図書リスト

絵本

1. おかあさんだいすき(岩波子どもの本)
2. まりーちゃんとひつじ(岩波子どもの本)
3. だいくとおにろく(福音館)
4. かさじぞう(福音館)
5. 三びきのやぎのがらがらどん(福音館)
6. くんちゃんのはじめてのがっこう(ペンギン社)
7. くんちゃんのにじ(ペンギン社)
8. ペレのあたらしいふく(福音館)
9. にぐるまひいて(ほるぷ出版)
10. 大型絵本 ひとまねごさるびょういんへいく(岩波書店)
11. 木はいいなあ(偕成社)
12. ピーターラビットのおはなし(福音館)
13. サンタクロースっているんでしょうか?(偕成社)
14. もちもちの木(岩崎書店)
15. はせがわくん きらいや(ブッキング)
16. めっくら もっくら どおんどん(福音館書店)
17. つるにようぼう(福音館書店ねん)
18. したきりすずめ(福音館書店)
19. うらしまたろう(福音館書店)
20. だごだご ころころ(福音館書店)
21. せかいいちうつくしいぼくの村(ポプラ社)
22. けちんぽおおかみ(偕成社)
23. かいじゅうたちのいるところ(富山房)
24. ロンドン橋がおちます!(富山房)
25. フレデリック(好学社)
26. 葉っぱのフレディーのちの旅ー(童話屋)
27. いちねんせい(小学館)
28. お友だちのほしかったルビナスさん(岩波書店)
29. そらいろのたね(福音館書店)
30. ぐりとぐら×2(福音館書店)
31. ぐりとぐらのかいすいよく(福音館書店)
32. ぐりとぐらのえんそく(福音館書店)
33. いそがしいよる(福音館書店)
34. ともだちはモモー(リプロポート)
35. 三びきのこぶた(福音館書店)
36. 100まんびきのねこ(福音館)
37. てぶくろ(福音館)
38. だろんこハリー(福音館)
39. げんきなマドレーヌ(福音館)
40. チムとゆうかんせんちょうさん(福音館)
41. 金のがちょうのほん(福音館)
42. どうながのプレツェル(福音館)
43. わたしとあそんで(福音館)
44. ことばあそびうた(福音館)
45. かしいビル(ペンギン社)
46. へびのクリクター(文化出版)
47. はらぺこあおむし(偕成社)
48. かにかむかし(大型絵本)×2(岩波書店)
49. パンはころころ(富山房)
50. 神の道化師(ほるぷ)
51. ほしのひかったそのばんに(こぐま社)
52. 絵本 ふしぎなオルガン(世界出版社)
53. ピロードのうさぎ(プロンズ新社)
54. 給食番長(長崎出版)



わらべうたや詩

1. わらべうた 日本の伝承童謡×2(岩波文庫)
2. わらべうたあそび×3(チャイルド本社)
3. のはらうた(I~II)(童話屋)
4. 版画のはらうたIII(童話屋)
5. 子どもがつくるのはらうた1(童話屋)
6. ポケット詩集(I~III)(童話屋)
7. 木はえらい イギリス子ども詩集(岩波少年文庫)
8. 幼い子の詩集 パタポン1(童話屋)
9. 幼い子の詩集 パタポン2(童話屋)
10. それほんとう?(福音館)
11. マローンおばさん(こぐま社)

語りのために

1. おはなしのろうそく(1~27)×3セット(東京子ども図書館)
2. 日本昔話百選×6(三省堂)
3. 子どもに語る日本の昔話(1~3)×2セット(こぐま社)
4. 子どもに語るグリムの昔話(1~6)×2セット(こぐま社)
5. 子どもに語るアイルランドの昔話(こぐま社)
6. イギリスとアイルランドの昔話×2(福音館書店)
7. 子どもに聞かせる世界の民話(実業之日本社)
8. 子どもに語る中国の昔話(こぐま社)
9. 子どもに語るアジアの昔話1(こぐま社)
10. 子どもに語るアジアの昔話2(こぐま社)
11. 子どもに語るモンゴルの昔話(こぐま社)
12. 子どもに語るロシアの昔話(こぐま社)
13. 子どもに語るトルコの昔話(こぐま社)
14. 子どもに語るイタリアの昔話(こぐま社)
15. 子どもに語る北欧の昔話(こぐま社)
16. 子どもに語るアンデルセンのお話(こぐま社)
17. 子どもに語るアンデルセンのお話2(こぐま社)
18. お話のリスト 第三版×3(東京子ども図書館)
19. かたれ やまんば(藤田浩子の語り 第一集~第五集)(アイムプリンターズ)
20. かたれ やまんば(藤田浩子の語り 番外編I~II)(アイムプリンターズ)
21. ふしぎなオルガン(岩波少年文庫)
22. 戦争童話集(中公文庫)
23. 怪談奇談(角川文庫)
24. 放課後の時間割(偕成社)
25. こぎつねコンとこだぬきボン(フォア文庫)
26. 風の又三郎(宮沢賢治童話集I)(岩波書店)
27. ストーリーテラーたち(大修館書店)
28. 声の文化と子どもの本×5(日本キリスト教団出版局)
29. レクチャー・ボックス お話について(東京子ども図書館)
30. お話とは×3(東京子ども図書館)
31. 選ぶこと×3(東京子ども図書館)
32. おぼえること×3(東京子ども図書館)
33. 絵本を読むこと×3(東京子ども図書館)
34. お話について(松岡享子レクチャー・ボックス1)(東京子ども図書館)
35. ことばの贈りもの(レクチャー・ボックス・松岡享子の本2)(東京子ども図書館)
36. よい語り一話すことI(レクチャー・ボックス・お話入門4)×8(東京子ども図書館)
37. お話の実際一話すことII(レクチャー・ボックス・お話入門5)(東京子ども図書館)
38. 子どもと本をつなぐあなたへー新・この一冊から(東京子ども図書館)
39. ストーリーテラーへの道ーよい おはなしの語り手となるためにー(日本図書館協会)
40. The Way of the Storyteller (Penguin Books)
41. マスター日本語表現(双文社出版)

## お話し会ポスター・プログラム

# みんなでお話を楽しみませんか？

日時・場所

11月6日(日)

13:00～15:00

G103 教室

恵泉地域言語活動研究会(恵話会、KEES、NEEDS)のメンバーで、日本語・英語による語り、絵本、詩などを発表します！

<内容>

ラフンツェル(語り)・不思議なオルガン(語り)  
David goes to school(絵本)・給食当番(絵本)  
朝のルー(詩)・一人は賑やか(詩) etc...

そして今回は初めて「**影絵**」にも挑戦！

ぜひ見に来てください♡

途中入場・退場 OK です

(主催:恵泉地域言語活動研究会)



## 第2回クリスマスお話し会 こころ保育園の子どもたちを迎えて



### プログラム



1. うた「あわてんぼうのサンタクロース♪」
2. えほん「てぶくろ」
3. かたまり「こびととくつや」(グリムのおかしぼなし)
4. ゲーム「クリスマスジェスチャー」
5. えほん「The Three Bears' Christmas」
6. うた「We Wish You a Merry Christmas♪」



2010/12/16

2011年恵泉祭・活動報告会 来場者より

感動しました。  
お話を聞いて流れていって、そのころのこと

とても楽しい発表会でした。  
皆さんの練習とたくさんあったことが、しるはかる  
素晴らしい発表でした。  
お話を聞きました。

暗記の朗読が、とても上手に行っている事、  
みんなを感激しました。  
いろいろ想いとお話を聴かせてくれたことに感謝です。

内容が変化に富んでいるので、  
長時間聞いていても、楽しく聞けました。  
学生さんらしく活気があって良かったです。

恵泉祭来場者より

恵泉地域言語活動研究会  
合同発表会 2011 恵泉祭

本日はご来場いただきありがとうございました。 Thank you very much for coming in today.  
皆さまのご意見を今後の参考にさせていただきたく We would be grateful if you could comment  
以下、アンケートへのご協力をお願いいたします。 your opinion.

① 該当する箇所を選んで必要事項を記入してください。

1 中学生以下 ( )	
2 高校生 ( )	
3 大学生 ( )	
4 恵泉女子園大学在学学生 (学籍番号 )	氏名 ( )
5 恵泉女子園関係者 ( 教職員・卒業生・その他 )	
⑥ 社会人 ( )	市在住 ( )

② 発表会をどのようにして知りましたか？

1 チラシやポスター	
2 多摩テレビの番組	
③ 恵泉の学生や教職員から	
4 その他 ( )	

③ 発表会について感想をお聞かせください。

大変感動しました。小学校でお世話になっている  
時もそうですが、練習は、さかしく大変だったことと  
思います。これから、より多く観たいです。

④ 今後聞いてみたい語りや演目がありましたら以下にお書きください。

～ご協力ありがとうございました。～Thank you very much for your cooperation.～

拝啓

報告会が成功のうちに終わり、本当にお  
疲れ様でした。良い会でした。

鈴木 文庫連

若人の語りを初めて聞きましたが、いいものですね。  
不思議な感じが、自分のものになりました。

関口 語時

遅刻したので、影絵から観たのですが、よくできて  
いました。良かったです。

鬼倉 三 (永山図書館長)

当日は用事があり参加できませんでしたが、是非  
聞きたいので、お話会のお知らせをご覧ください。

観客の方で、語りを聞きたい、語ってみたい  
と数名、多分 KEISEN の方だと思います  
が、言われました。熱意を感じました。  
やる気十分でした。

どこに出ても  
努力しました。  
す。価値あ  
るスピーチ  
ですね。  
導力が利ました。  
反社の言可  
れないと

るのですか。  
は増えて  
。、  
くなるかも  
いうことに  
ました。

お話しは、頑張ります。観客は、多分、盛り上  
がります。また、ご相談させてください。

寒いですが、お気をつけてお過ごしください。

かしこ

活動報告会来場者より

## 学生の報告書より

### ◆活動日：2011年6月25日 五十嵐 彩織

今回は恵話会が新体制となつてから初めて行われるお話会であり、伊東先生を講師としてお招きして行われたため、メンバー全員が2回目でありながらとても緊張した発表だったと思う。今回は参加できる人数も少なく、残念ではあったのだが、それぞれの発表を通して、改めてメンバーの良さや成長を感じ取り、私も嬉しくなり、メンバーの良い部分を吸収したいと強く感じた。また、伊東先生の素晴らしい語りやお話を聞くことができ、とても勉強になった。例えば、語りの初めに音楽を流し、周りの集中を促すという工夫はとても素晴らしいと思った。語り口調もその話に合っており、話によって口調を変えるというの必要であることを学んだ。また、お話にも個性があってよいということを知り、今までこうしなきゃならないという気持ちなどがどこかにあったため、気持ちが楽になったように思う。

お茶会での先生のお話もとても興味深く、お話はマイナーなものよりもメジャーなものを選び、基礎を固めたうえでどんどん広げていくと良いということを知り、メジャーなものほど間違いが許されなく、大変であるとは思っていたが、今後挑戦してみようと思った。また、完璧でなくてよいのだということ、覚えるのには誰でも苦労するのだということ、先生自身も緊張でお話が飛んでしまうことなど、些細なことかもしれないが、私はこの一日を通して学びることが多かった。

今回は恵泉祭での発表となるが、簡単に覚えられるからという理由でお話を選ぶのではなく、自分の語りた、伝えたいお話をじっくりと選べたらと思う。また、わらべ歌などにも興味があるので、そちらも並行して覚えていきたい。そして、現代のゲームっこにお話の大切さや楽しさを伝えられる大人になれればと思っている。

### ◆活動日：2011年10月25日 伊丹 沙織

私は初めてこころ保育園の奉仕活動に参加した。初めて訪問する“保育園”という空間にとっても緊張したが、園児たちが可愛い笑顔で私たちを受け入れてくれたことにより、当初の緊張感は和らいだ。

今回、わらべうたを担当するにあたり、前回とすべて同じわらべうたにするのではなく、何か変化をつけたい、という思いが私の中にあつたため、園児たちが観る番組である「おかあさんといっしょ」や「いないいないばあ」等の番組を参考にし、今回の「鬼のパンツ」を選んだ。しかし、身体を動かしながら歌うことにより、歌い終わった後、少し騒がしくなってしまう、次の「さよならあんころもち」にいくのに少してこずってしまった。園児たちの集中をどのように自分に向ければいいのか、クラス運営の難しさを感じた場面であった。こちらがどのような振る舞いを

すれば、園児たちがどのような反応をするのか。子どもたちは日々成長し、日々変化していくものであり、反応もその時その時で変化していく。その時その時の子どもたちの反応に対応するには、たくさん子どもたちと触れあい、私自身が子どもたちとの触れ合いの中で、さまざまな経験・学びをしていくことが大切だと思う。今回の活動経験を自身の糧とし、今後の恵話会の活動に活かしていきたい。

また、今回こころ保育園奉仕活動にあたり、意識をした点がある。それは『笑顔』と『視線』である。背の低い園児たちに『視線』を合わせ、『笑顔』で接する。すると園児たちも自然とこちらに心を開いてくれた様な気がする。今回のこころ保育園の園児たちとの交流は、私自身心がほっこりする、とても幸せな活動となった。

これから辛いこと・悲しいことがあつた時には、園児たちの笑顔を思い出し、何事も挫けずに頑張っていきたい。

### ◆活動日：2011年11月6日 市川 友里絵

11月6日に恵泉祭が行われた。午前中はあいにくの雨であったが、午後からは雨も止み、たくさんのお客様に来ていただくことができた。そこで今回の発表の感想や反省点などを述べたいと思う。

私は今回、谷川俊太郎の『私は私』という詩を発表した。まず、選んだ理由なのだが、私は谷川俊太郎の詩が好きである。詩は小説などと違い字数が非常に少ないため、読み手の感性や想像力により様々な解釈ができるので私は詩が好きである。しかし、『私は私』という詩は知らなかったために今回これを選んだ。最初は、読んでいてもあまり理解することができなかつた。谷川俊太郎の作品を読むと思うのだが、言い回しが非常に難しいと感じる。発表するにあたって自分なりの解釈をし、聞き手の方々にどのようにすれば伝わるか考えた。しかし本番はやはり緊張してし

まうので、自分が伝えたかったことは半減していたと思う。今回の発表が今までで一番緊張した。その緊張にも負けないような練習がもっと必要であったと感じる。覚えた文章を言うことに必死になってしまい、伝えるということができていなかったため、次回発表する機会があつたら、伝えるということを意識したいと思う。

今回の発表会では様々な作品を楽しむことができ、とても面白かつた。長い語りやストーリーテリングなどを発表している方がいて本当に素晴らしいと思う。私はまだ短い語りや詩、絵本しか経験がないので、今度機会があれば他のことにも挑戦したいと思う。特に興味深く感じたのが英語の詩である。日本語の詩とはまた違った雰囲気があるので、ぜひ挑戦したい。

今回学んだことや感じたこと、反省したことを今後の発表に生かして、様々なことに挑戦していきたい。

#### ◆活動日：2011年9月13日 ブラウン ともみ

今回の島田療育センターの訪問では班長を担当させていただいたので、奉仕活動に伺うだけではなく事前訪問や打ち合わせなど奉仕活動を行うための事前の準備なども担当させていただきました。初めての班長なので、みんなが奉仕活動を行うための事前準備を私だけで進められるかなどさまざまな不安がありました。島田療育センターの方達は私たちの活動をしたいということをお伝えすると、忙しいにも関わらず快く私たちのために予定を組んでくれ、また少ないながらも奉仕活動に参加できる恵話会のメンバーも集めることができました。

島田療育センターの方は私たちの訪問を訪問が決まってから私たちの訪問をとて楽しみにしてくれていたのので、私たちもその期待にこたえられるように、夏休みでなかなか時間が合わなく、少ない練習時間の中みんな練習を行いました。

今回は訪問日まであまり日数がなかったこともあり、メンバーみんなが過去に覚えたことのある語りを1人ずつやり、他には詩とわらべ歌をやりました。活動当

日は何人かの利用者さんとその中でもお話がとても好きな方がいて、その方のお母さんも私たちのためにわざわざ足を運んでくださいました。発表している最中は利用者さんの顔などを緊張してはつきり見ることはできませんでしたが、利用者さんの側についていた職員さんは、みなさんお話をうっとり浸っていたというのを聞き、とても語ったかきがあったと思いました。またわらべ歌ではみんなで触れ合って何かをしたいという希望が恵話会のメンバーの中であったので『なかなかホイ』『さよならあんころもち』をやりました。恵話会のメンバーもわらべ歌の最中はみなさんの輪の中に入り、手を握り合い、利用者さんと近くで触れ合うことができ、皆さん楽しんでくれたので、みんなで触れ合いながら何かをするのはやはり楽しいなと思いました。

会の最後には私たちのために小さな花束をわざわざ用意していただき、職員の方々からもまたぜひ来て欲しい、楽しみにしているというお言葉を伺い本当に嬉しかったです。

本当に今回の奉仕活動では素晴らしい時間を過ごすことができました。

#### ◆活動日：2011年9月13日 倉茂 美香

今回は先輩がいない自分たちのみの初めての奉仕活動で、色々不安があった。しかし、島田療育センターの班長であるブラウンさんがしっかりと連絡と対応してくれたので、上手くいったのではないかなと思った。以前に訪問させて頂いた時と違って、利用者さんの人数は少なく、大人数の時とは、また違った難しさがあった。人数が少なかった時がなかったので良い経験になった。今後このような場面があったら、今回のことを活かせる様にしたい。

始めたばかりの時は、利用者の方も私たちも少し落ち着きがなかった感じだったが、進んでいくにつれて話を聞く雰囲気になっていて、とても良い空間になった。お話を聞くという雰囲気をもっと作れるようになりたいと思った。

職員の方が、日本独特の方言の抑揚が、聞いていて良いものかもしれないとおっしゃっていた。やはり、方言は親しみやすいのかと思った。聞き手のときでも、方言の時は確

かに独特の聞きやすさがある。そして雰囲気が出るものだと思っていた。それを改めてほかの人から言われると、話を選ぶときには、方言や言葉の言い回しをどう使っているかも考えて選んだほうが良いと学んだ。今回の語りを選び、方言の言い回しを特に練習して良かったと感じた。しかし、さらに心地の良い、方言の使い方ができるようになりたい。

今回の課題は、語りが、怒鳴っているような、話し方になってしまった。大きく声を出そうすると、怒鳴るようになってしまうので、そこを直したい。話すスピードと声の大きさを部屋の広さや、人数を考えて、適切な語り方を考えて、練習していきたいと思う。

詩のほうは、初めて二人で挑戦した。他の人と合わせるのが難しかった。しかし楽しい面もあった。二人で一つのものをつくるというのも良いものだった。島田療育センターでの活動は、楽しい時間で、良い勉強になるものだった。

#### ◆活動日：2011年10月8日 神田 留合子

今回私は、「鶴と亀の旅」の語りを発表させていただいた。利用者の中には私の声がきちんと届いていなかった方がいたようで、マイクを使うようにとご指摘を受けた。私はしっかりと声を出しているつもりでも、聞き手の届いていなければ意味が無いと深く感じた会になった。マイクを通して聴く声よりも、そのままの声のほうが温かみを感じるの私は好きだ。そのためには、次回からはマイクなしで声が届くよう練習が必要だと思った。反省会では毎回、声だしのトレーニングを再開したらいいのではないかなという話が出た。施設の担当者の方からいただいたアドバイスとして、短い語りや詩、A4一枚程度の作品だったら、私たちが発表させていただくだけでなく、利用者さ

んと一緒に声に出してみるのもあったら楽しいのではないかなということであった。今まで、私の中にはこちらから一方的に発表をして、それを聞いていただくというスタイルのプログラムしか思い浮かばなかったので、次回訪問させていただくときはぜひ利用者の方と一緒に声を出すプログラムも新たに考えたいと思った。わらべ歌もあるがそれだけでは、物足りないと感じる方もいらっしゃるかもしれないと思った。また、何があっても動じない心というか、精神を身に付けることも必要だと思った。そのためには、場数をこなすことが大切だと思った。利用者さんとお話をしている中で、わらべ歌だけでなく、演歌も入れたらいいのではないかなというご意見をいただいたそうなので、それも次回、考えてみる余地があると思った。

◆活動日：2011年5月28日

才丸 光

今回は学内行事のスプリングフェスティバルに参加して、役員としての会の企画・運営と当日のMC、そして「さやの中の五つのエンドウ豆」という語りをやりました。その中で私が学んだ事は、準備の大変さとひとつのものを大勢で作りに上げていく事の楽しさと難しさです。

まず今回の発表の場は、そもそも会そのものの基盤作りと同時進行でやっていたことをあげる必要があります。というのも、今年の活動は去年とは全く違って、4月の段階でまずサークルとしての基礎を作る必要があったからです。というのも今まで先生やコーチの先生方に頼ってばかりいた部分をきちんと学生で引継ぎ、これから先私達が卒業しても会が続いていくためにルールを見直す必要がありました。また、新しいことにも挑戦していき、単なる内輪な団体で終わらないために部員全員の実力をつける必要もありました。そういったことを踏まえて私たち役員が提案したのは部員全員が語りに挑戦するという事です。これは来月に外部の先生をお呼びして会を開くためでもあり、震災ボランティアをするかもしれないとなったときにわらべ歌や絵本の読み聞かせしかできない人ばかりで参加したくないと思ったからという理由もあります。恵話会の歴史の中で語りだけの会をしたのは恐らく初めてのことだったと思うので、恐らく先生方も不安に思っていたらっしゃったと思いますが、結果としては大成功だったと思います。個人的なことをいえばもっと練習時間をとるべきだったと思うし、何回か

つかえてしまったところもあったのですが、会全体としては本当に大成功で、誰一人として失敗をした人がいなかったことは勿論、多くの先生方や地域の方々に見ていただけたことが一番嬉しかったです。恐らくこの経験が自信につながり、よりよい環境になるのではないかも思いました。一方準備に関しては少ない時間で進めていたとはいえ練習時間のスケジュール管理やポスター作りなど、色々と要領が悪くなってしまったように思います。ですが、この点も次回に活かし、頑張りたいと思います。

最後に今後の目標ですが、会全体を考えると二点あります。ひとつは6月末にあるお話を楽しむ会の企画・運営、準備に関して今回の反省点を活かしてきちんと回していくこと。そしてふたつ目は新入部員確保です。これに関しては今色々手段を考えている最中で、ピア配りやお話会でもなかなか新入生は集まらなかったのどうにかして1、2年生に語りを見てもらう機会を作りたいと考えています。先輩やコーチの先生方が築き上げてきたこの素晴らしい伝統を守るため、頑張りたいと思います。そして私個人のことについていえば、練習時間を多く取る事、その上で完璧を目指す事です。私は元来大雑把なところがあるので、今回の語りもよくて8割といったところでした。時間が無い事を言い訳にせず文を完全に暗記する努力をしたいと思いました。

これから一年間、本当に楽しみです。精一杯頑張ります。

◆活動日：2011年11月6日

戸谷 汐里

私は今回も、詩を発表しました。詩というのは、著者の想いが語りよりもぎっしりとつまっている気がします。短い数行の中にどんな気持ちでつくったのか、どんな人生の色がつまっているのか想像しながら選び、ぐっとくるものに決めています。茨木のり子さんの「一人は賑やか」を学祭で発表させていただいて緊張よりも楽しさが先立ちました。練習でも、すごく一回一回が大事で重みも感じていたし楽しかったです。この詩は、自分というものがどうあるべきか、またどうなりたいのかを見つめなおすことができる詩です。ふと立ち止まり、周りに流されてはいないか？賑やかなのは周りではないか？一人でも、ちゃんと人生を楽しんでいるか？と色々な問いを、私が私に投げかけていました。まずは自分という要をしっかり見極めて生きていこうよ、と茨木のり子さんが読む人たちに、私に、問いかけてくる気がしました。

さて、それをどう皆さんに表現しようか、どうすれば伝わるのか必死で考えました。声のトーンや色、スピードや間。詩を発表するときには、そのとき、その空間にある人から発している空気を感じます。だから、二度と同じ発表はできないのです。二度と同じわたしはいないのです。そんなことを思いつめすぎて、伝えたい気持ちが先走り、頭が熱くなってしまい、こころの深い部分から湧き出る想いを投げかけることができない日もありま

した。

そんな試行錯誤が続く中、当日になれば母が目の前に座っているのです。嬉しさ半分、恥ずかしさ半分です。母は下を向いていました。私にプレッシャーを与えないためですが、もう来場していること自体が緊張を駆り立てていました。しかし、不思議なことに前に立った瞬間、母と私との間に一本の線が結ばれていくのを感じられて、それからは緊張がなくなりました。静けさが私を包み、言葉の一つ一つが、「♪（音符）」と化して教室を駆けめぐっていくようでした。どんな風に伝わっているのか、何を感じているのか私は出来るだけみんなの顔を見つめました。笑っている人、真剣な人、下を向いている人、ぼーっとしている人、口をぽかーんと、開けている人と様々でした。あっという間の数分間で私の発表が終わりました。そして少しの間、なんともいえない静けさが残るのです。私がお辞儀を終えるまでのこの一瞬、この瞬間が一番好きなのです。この教室に詩の余韻と、みんながそれぞれに感じた想いがふんわりと教室を包んでいきます。私が顔をあげると、笑顔でみんなが拍手をくださいます。この一瞬のために、わたしはまた新しい知らない世界へみんなを誘える作品を選びたいと思えるのです。それになにより、仲間の努力から生まれたこの会にふさわしい、それぞれの語りや歌や絵本を味わえるからまたがんばろうと思えるのかもかもしれません。

# KEISEN小学校英語活動 指導者養成講座 の活動



## KEISEN小学校英語活動指導者養成講座について

2011年度より公立小学校において外国語活動が必修化されましたが、小学校英語活動に対応する教員や協力者の数は限られており、現職教員への研修とともに小学校英語活動指導者の養成が急務となっています。

そこで恵泉女学園大学では、「教員と地域住民を対象に、英語の発音と表現力に優れた英語活動指導者を養成すること」を目的として、KEISEN小学校英語活

動指導者養成講座を2008年度より開講しています。

(KEISEN小学校英語活動指導者養成講座は、恵泉英語教育研究会 (KEES)、恵泉お話を語る会 (恵話会) とともに、恵泉地域言語活動研究会を構成しています。)

この講座は2012年度より公開講座として開講を予定しています。

## 講座内容

### (1) 発音訓練 (8回16時間)

発音訓練では、英語の子音を明瞭に発音するための呼吸方法、発音に必要な器官や筋肉の使い方、英語音(子音と母音)の分析方法などを集中して学びます。とくに、カタカナ発音を矯正し、通じる音を自分で作ることを可能にする訓練として、呼吸法、口腔器官の動かし方、顔面の筋肉の使い方等も学び、アルファベット原音の作り方や語の連結やリズムを体得します。

#### <目標行動>

- ①アルファベット26文字の原音の作り方を、呼吸と口腔器官(舌、唇、筋肉)の動かし方や形などによって説明でき、明瞭に発音する。
- ②カタカナになっている身近な単語100語を明瞭に発音する。
- ③5行から10行程度の詩を暗誦し、自然な語の連結やリズムで表現する。

### (2) 読み聞かせ訓練 (10回20時間)

絵本の読み聞かせ訓練では、ストーリーやメッセージを効果的に表現するための姿勢と発声の仕方、発音、テンポ、声の大きさや間のとり方、表情、姿勢など「読み方」についての技術を習得し、聞き手と心の交流を可能にする読み手、語り手になるための基礎を学ぶ。さらに、児童に語りかけ、児童を惹き付ける読み聞かせができるように、褒め言葉を含むクラスルームイングリッシュが使いこなせる授業者を目指します。

#### <目標行動>

- ①課題絵本を暗誦する。
- ②児童が絵本をよりよく鑑賞できるような工夫(声の大きさや高低、読む速さ、表情、絵本の提示方法)に配慮して人を惹き付ける読み聞かせをする。
- ③クラスルームイングリッシュ50種類を適切に使う。

### (3) 合唱訓練 (3回6時間)

合唱や歌唱を通して、自他の音声を注意深く聴き、調和させる体験を重ね、英語音をリズムやメロディーとともに繰り返し歌うことによって、発音の定着と音の識別力を向上させます。歴史や文化を体感できる、人類に普遍的な価値やテーマを内包する楽曲を選び、楽器や譜面を用いずにアカペラで歌う。

#### <目標行動>

- ①繰り返し歌唱することによって音を定着させる。
- ②音の違いを識別し、自他の音を矯正する。
- ③合唱することで他者との調和や協調を楽しむ。

### (4) 授業実践 (6回12時間)

他の受講者と数名のチームを構成し、小学校で1クラス45分間の英語活動を担当します。事前に稲城市内の小学校で英語活動を行っているKEES (Keisen English Education Society) の英語活動を参観し、授業の流れや留意点を確認します。次に、指導案作成、教材準備、授業のリハーサル(クラスルームイングリッシュを駆使する)を行い、稲城市内の小学校での授業実践に臨みます。

#### <目標行動>

- ①児童の前で、明瞭な発音と自然なイントネーションで読み聞かせをする。
- ②45分間の英語活動の指導案を作成し、必要な教材を整える。
- ③クラスルームイングリッシュを効果的に使いながら英語活動を実践する。

### ●KEISEN小学校英語活動指導者養成講座シラバス

レベルチェックとオリエンテーション		
1	発音・読み聞かせ	受講者を小グループに分け、講師と授業補助学生を各グループに配属、ハンドアウトを各自読み上げて、録音。
発音訓練シラバス		
1	オリエンテーション:到達目標とその方法の説明 (音を作る概念、増幅法、集団訓練、責任分担)	基本運動:英語音を 作るための、口輪筋、 唇、舌の動きを滑らか にするための運動(口 の縦開き運動、唇を 震わす運動、唇の中 心に力を集める運動、 舌を震わす運動、舌 の根を鍛える運動)
2	ウォーミングアップ1:①簡単な柔軟体操。②呼吸の意識化。腹式呼吸の確認。③声の確認。 (息と声を同時に出す発声訓練)	アルファベットの音作り 1:唇と息で作る音(PBM, W の原音)、 舌で作る音(TDNL R)、口形と息で作る音(母音:AIEOU)
3	ウォーミングアップ 2:①+②+③+④アルファベットのまわし(集団でアルファベットを1音ずつ順番に発音する。音を聞くだけでなく、自分の番が来たら、瞬時に音を作るという集中力が必要)	アルファベットの音作り 2:唇と歯で作る音(FV)、歯と息で作る音(CSZJ)、口形と息で作る音 2(KGQ)、その他の音(HXYW)
4	ウォーミングアップ3:①+②+③+④+⑤単語まわし(集団で単語リストに掲載された単語104個を1個ずつ順番に発音する。自分の番が来たら瞬時に音を作ることが求められる。聞く、作るを同時に行う集中力が必要)	音の連結(①アルファベット5連:アルファベット5つ(例 ABCD E)を十分な子音と息を出して発音する②単語:park, bat, tiger 104語の発音訓練を通じて英語とカタカナ音の違いを学ぶ。 音の連結(②単語)
5	音の連結(②単語③短文:英語のリズムに欠かせない、文としての音の連結について、イギリスの童謡“Solomon Grunby”を通じて学ぶ)	音の連結(②単語)
6	音声表現(詩):課題の詞(Sing, Over the Rainbow 等)16のうち1つを英語で表現。詩の内容を解釈し、聴き手に伝えることが目的。クリアな子音と息のコントロールが必要	音声表現(詩)
7	リハーサル	詩の発表
8		
読み聞かせ訓練シラバス		
1	ハンドアウト(絵本から抜粋)	オリエンテーション、講師・受講者自己紹介の後、4つのグループに分かれ、受講者は読みやすい絵本の一節を選択する。グループごとに講師がつき、読み聞かせの指導をする。
2	Yo! Yes? ・友情、基本的な挨拶の表現 ・TPR を使った読み聞かせ(言葉と身体 の動きを連動させる)	新しいグループに分かれて(毎回異なるグループを構成)教材分析:テーマやメッセージ、読み聞かせのポイントを設定し、それに従った読み方について検討する。各自読み聞かせ練習をした後、Yo! Yes? のどちらかの役を選び、暗唱するように練習。
3	Dinosaur ROAR! ・形態を表す語と反対語 ・繰り返しの表現に変化を持たせる ・動き・音・速さに工夫した表現	前時の復習後、グループに分かれてペアでロールプレイ。講師が読み聞かせのポイントを発音、イントネーション、アクセント、顔の表情や声の出し方などから解説。さらにペアで練習。グループ内でペアに分かれて発表する。(発表はペアで→グループで→全体で)
4	学園祭発表(リハーサル含む)	グループに分かれて前時の復習後、講師が読み聞かせのポイントを解説。グループごとに教材分析をした後、各自練習。各グループに講師がつき、指導にあたる。
5	Papa, please get the Moon for me ・家族愛・他教科との関連 ・学習者の知的レベル vs 英語レベル	グループに分かれ、カードを使ったアクティビティに続き、さらに練習、輪読をする。その後グループで全体発表。学園祭での発表に備える。
6	全教材	前時のグループで、これまで扱った教材やその他の絵本から、発表のための1冊を選び、輪読できるように練習をする。講師と補助の学生がつき、指導にあたる。⇒グループごとに、聴衆の前で絵本を読み上げ、これまでの学習してきた成果を披露するとともに、今後の学習へとつなげる。
7		新教材の提示。グループに分かれて教材分析、その後各自読み聞かせ練習。
8		前時の復習後、グループに分かれて読み聞かせ練習。最後に全体発表(発表はペアから、グループへ、最後に全体で発表できるようにすることを目指す。)
9		絵本や使用教材復習後、各自が選定した絵本を全員の前で読み聞かせをする。最終の課題。
10		
合唱訓練シラバス		
1	“Sarasponda”, “All Night, All Day”,	呼吸法や調音について学び、声楽的な音声の作り方(子音や母音を強調して発音、音を識別するとともに同じ音を作る等)を習得する。大きな声で英語の歌を歌えることで、英語指導への自信へつなげるとともに、メロディーやリズムに合わせて繰り返し自己訓練を継続できる。
2	“Swing Low, Sweet Chariot”	
3	練習・発表	
授業実践シラバス		
1	長峰小学校参観実習	「参観実習」教育現場の実態に触れ、外国語活動(英語)の現状を参観するとともに、実習の対象(児童)を把握し、教育実習へつなげる。「授業リハーサル」教育実習の心構えや、基本的な知識を得て、実習に望むための実質的な準備をする。小学校外国語活動の目的と内容について理解を深めた上で、模擬授業を行い、実習に備える。「教育実習」受講者で数名ずつ実際のクラスに入り、小学校外国語活動の授業の一部を担う。これまでに講座で学んだことを発表するとともに、第三者(児童)から成果を評価してもらう。
2	授業リハーサル	
3	長峰小学校教育実習	
4/5	授業リハーサル	
6	長峰小学校教育実習	
6		
認定試験とまとめ		
1	認定試験	与えられた課題に関する実技試験で80%以上の達成度が認められれば合格となる。また、レベルチェック時の録音と比較し、講師と他の受講者による評価も鑑み、認定とまとめを行う。
2	評価とまとめ	

●受講生による小学校英語活動指導案例

THE GIGANTIC TURNIP 日井作成						
<p>稲城市立長峰小学校 KEES “THE GIGANTIC TURNIP” 指導案Ⅰ 2011/02/16</p> <p>1. 対象： 年 組 ( 名 ) 授業実施日時： 年 月 日 校時</p> <p>2. 授業者： 先生 KEES 主活動者</p> <p>3. テーマ： 『お互いに興味・関心を持とう』 『協力して一つのことを成し遂げよう』</p> <p>4. 目標言語： a turnip, Grandma, Granddaughter, a dog, a cat, a mouse Please help me. OK</p> <p>5. 本時の目標と評価規準： ① グループで協力して、楽しんでゲームを行う ② 自分のできることを、恥ずかしがらずに表現しようとする ③ 絵本を通して、童話の楽しさに触れ、次に何が起こるか予測するのを楽しむ</p> <p>6. 絵本： THE GIGANTIC TURNIP</p> <p>7. 使用教具： ①絵本 ②今日の予定表 ③ビクチャーカード ④ロールプレイ用カード (前下げ式) ⑤カブ (実物) ⑥カブ (ビニールボール製)</p> <p>8. 授業前の準備： ①先生にお願ひして授業前に「机を全部、廊下に出して」教室を広く使えるようにする。 ②6人で1グループの班を決めておいてもらう (※6人×5班程度) ③名札をつける ④マッグネットの確認 ⑤KEES 外国語活動振り返りシートと学級用にビクチャーカード集合版</p>						
過程 (分)	児童の活動	HRT の活動	ALT の活動	サポーター	留意点	教材
挨拶とウォームアップ: Greetings & Warm-up (5)	Yes! (元氣よく反応) Yes! (元氣よく挨拶する) Hello! I'm fine, thank you. And you? (ジェスチャーしながら元氣よく歌う)	It's English Time! Are you ready? Let's start. Hello! How are you? I'm hungry, thank you. Hello, everyone! How are you? I'm happy, thank you. Let's sing "Hello Song." Stand up, please. Good job! Sit down, please.	Hello! I'm happy, thank you. And you? Hello, everyone! How are you? I'm happy, thank you. Good job!	(黒板に曜日などを板書 音楽の準備)	活動者は笑顔、アイコンタクトで、ジェスチャーをつけて元氣に挨拶、1人でも多くの児童が元氣に声を出せるように働きかける	今日の予定表 音楽の準備

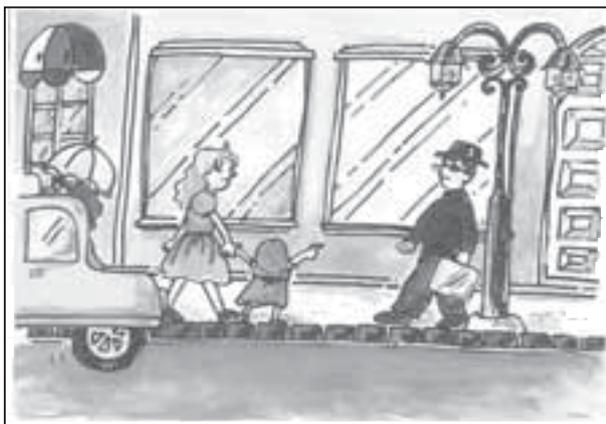
THE GIGANTIC TURNIP 日井作成					
<p>導入と練習: Introduction &amp; Practice (10)</p> <p>What's next? Yes! I know! (挙手) Tomozou. I don't know. I know! (挙手) Maruko. I know! (挙手) A dog. I know! (挙手) A cat. I know! (挙手) A mouse.</p> <p>Let's move on. It's Quiz Time. ALT: I'll give you six quizzes! Who am I? Look at these pictures and listen carefully. (Question1) Hint No.1. I am an old man. Hint No.2. I love Maruko. (Question2) Hint No.1. I am an old woman. Hint No.2. I love Maruko, too. (Question3) Hint No.1. I am a girl. Hint No.2. I love my grandpa and grandma. Who am I? (Question4) Hint No.1. I am an animal. Hint No.2. I love bones. (Question5) Hint No.1. I am an animal. Hint No.2. I love bones. (Question6) Hint No.1. I am an animal. Hint No.2. I love cheese.</p> <p>What's next? Yes! What can you do? I can swim. Kitaimai! (ジェスチャーをつけて表現練習)</p> <p>Let's move on. It's chants time! Let's play chants. We'll show you how. Please watch us with these pictures. (Chants 1) [Tomozou's picture] "I am Tomozou. Maruko's grandpa." ×4 (Chants 2) [Kotake's picture] "I am Kotake. Maruko's grandma." ×4 (Chants 3) [Maruko's picture] "I am Maruko. Tomozou's granddaughter", "I am Maruko. Kotake's granddaughter." ×2 (Chants 4) [Bow-wow's picture] "I am Bow-wow. Maruko's dog." ×4 (Chants 5) [Mew's picture] "I am Mew. Maruko's cat." ×4 (Chants 6) [Squeak's picture] "I am Squeak. Maruko's mouse." ×4</p>					
What's next?	Let's move on.	What's next?	What's next?	What's next?	ビクチャーカード
What's next? Yes! What can you do? I can swim. Kitaimai! (ジェスチャーをつけて表現練習)	Let's move on. It's Quiz Time. ALT: I'll give you six quizzes! Who am I? Look at these pictures and listen carefully. (Question1) Hint No.1. I am an old man. Hint No.2. I love Maruko. (Question2) Hint No.1. I am an old woman. Hint No.2. I love Maruko, too. (Question3) Hint No.1. I am a girl. Hint No.2. I love my grandpa and grandma. Who am I? (Question4) Hint No.1. I am an animal. Hint No.2. I love bones. (Question5) Hint No.1. I am an animal. Hint No.2. I love bones. (Question6) Hint No.1. I am an animal. Hint No.2. I love cheese.	What's next? Yes! What can you do? I can swim. Kitaimai! (ジェスチャーをつけて表現練習)	What's next? Yes! What's next? Let's play chants. We'll show you how. Please watch us with these pictures. (Chants 1) [Tomozou's picture] "I am Tomozou. Maruko's grandpa." ×4 (Chants 2) [Kotake's picture] "I am Kotake. Maruko's grandma." ×4 (Chants 3) [Maruko's picture] "I am Maruko. Tomozou's granddaughter", "I am Maruko. Kotake's granddaughter." ×2 (Chants 4) [Bow-wow's picture] "I am Bow-wow. Maruko's dog." ×4 (Chants 5) [Mew's picture] "I am Mew. Maruko's cat." ×4 (Chants 6) [Squeak's picture] "I am Squeak. Maruko's mouse." ×4	What's next? Yes! What's next? Let's play chants. We'll show you how. Please watch us with these pictures. (Chants 1) [Tomozou's picture] "I am Tomozou. Maruko's grandpa." ×4 (Chants 2) [Kotake's picture] "I am Kotake. Maruko's grandma." ×4 (Chants 3) [Maruko's picture] "I am Maruko. Tomozou's granddaughter", "I am Maruko. Kotake's granddaughter." ×2 (Chants 4) [Bow-wow's picture] "I am Bow-wow. Maruko's dog." ×4 (Chants 5) [Mew's picture] "I am Mew. Maruko's cat." ×4 (Chants 6) [Squeak's picture] "I am Squeak. Maruko's mouse." ×4	ビクチャーカードを見せながら、スムーズに質問する。答えの部分は強調して発音する。 チャンツでテンポよく練習 目標言語を強調して、ちの学習につなげるよう留意する。

THE GIGANTIC TURNIP 白井作成				
展開： 絵本とコミュニケーション (10)	What's next? Yeah!  (慣れてきたら、目標君語の部分を一緒に発音する)	Let's move on. It's Story Time.	What's next? Let's listen to the story in groups. Look at the picture book. What can you see? Yes, Grandpa, Grandma, Granddaughter, a dog, a cat, a mouse. How about this? Yes, a turnip What are they doing with this turnip? Please listen! (読み始める) THE GIGANTIC TURNIP GIGANTIC means "Very, very, very big." (読み聞かせる)  Excellent!  Excellent!  Thank you.	各自、グループボールを渡しながら絵本を眺め聞かせる。
展開： Story				
展開： Communication Time				
展開： Good-bye (2)	What's next? OK. (元気よく歌う)  (挨拶をする) Thank you, Mr./Ms. _____ You, TOO! See you!	Let's move on. It's Good-bye Time! Let's sing "Good-bye Song." That's all for today. Thank you, Mr./Ms. _____ You, TOO! See you!	What's next? What's next? Thank YOU! Have a nice day! See you!	笑顔で元気よく挨拶する
展開： 振り返り (5)	振り返り： 「振り返りシート」に記入する。	授業前に先生にお渡ししておいた「KEISEN外国語活動振り返りシート」に感想を記入してもらおう。	What's next?	振り返りシート

原簿の状態その他の要因によって構成や時間配分等が変わることがあります。

THE GIGANTIC TURNIP 白井作成				
展開： ゲーム Game (13)	What's next? Yeah! That's a good idea!	Let's move on. It's Game Time.	What's next? That's a good idea!	ローリングカード(書下げ式)
展開： リレーゲーム	#1 ~ #6 "I am Tomozou. Maruko's grandpa." "Who are you?" ~ Finished!  (カードを隣の前に掲げて、大きな声で自分の役割を言う)	Let's play Relay Game! (「質問」→「回答」→「質問」のりレー) ALT: First, let's play "Who are you?" Relay! We'll show you how. Please watch us. (HRTと学生で列を作る) I'll give you some cards. Please choose one card. EX:#1-#6: #1. "I am Tomozou. Maruko's grandpa." "Who are you?" #2. "I am Kotake. Maruko's grandpa." "Who are you?" #3. "I am Maruko. Tomozou's granddaughter." "Who are you?" #4. "I am Bow-wow. Maruko's dog." "Who are you?" #5. "I am Mew. Maruko's cat." "Who are you?" #6. "I am Squeak. 全員: Finished! (全員返る)  Let's make 5 groups. Group J. line up here and sit down. (From Groups) ALT: Let's practice together.  ALT: Now, let's start. Are you ready? 3,2,1 go! (ゲームを始める) HRT & ALT: Good job!	That's a good idea!	一人一人が順番を守り、きちんと発音できよう、聞きかけるよう、働きかける
展開： ローリングカードゲーム	#1 ~ #6 "I am Tomozou. Maruko's grandpa." "Who are you?" ~ Finished!  (カードを隣の前に掲げて、大きな声で自分の役割を言う)	Let's play Role Play Game! (「質問」→「回答」→「質問」のりレー) ALT: Second, let's play "Role Play Game". Before playing this game. Look at this. This is a turnip (実物) And this is a big turnip. (ビニールボール製) O.K. We'll show you how. Please watch us. (HRTと学生で列を作る) EX:#1-#6: #1. "I am Tomozou. Maruko's grandpa." "I'll pull it up. I can't. Please help me." #2. "O.K." "I am Kotake. Maruko's grandpa." "I'll pull it up. I can't. Please help me." #3. "O.K." "I am Kotake. Maruko's grandpa." "I'll pull it up. I can't. Please help me." #4. "O.K." "I am Maruko. Tomozou's granddaughter." "I'll pull it up. I can't. Please help me." #5. "O.K." "I am Bow-wow. Maruko's dog." "I'll pull it up. I can't. Please help me." #6. "O.K." "I am Mew. Maruko's cat." "I'll pull it up. Yes, I can. Yes, we can! 全員: Finished! (全員返る)  ALT: Let's play together. ALT: Now, let's start. Are you ready? 3,2,1 go! (ゲームを始める) HRT & ALT: Good job!	That's a good idea!	一人一人が順番を守り、きちんと発音できよう、聞きかけるよう、働きかける
展開： リレー				ローリングカード(書下げ式) カブ(実物) カブ(ビニールボール製)

●受講生による小学校英語活動教材例



## 受講者報告書より ～授業実践を終えて～

◆活動日：2009年2月18日

新沼 真理絵

第一の感想は、チームティーチングはすごいなと実感したことです。メンバーに恵まれ指導案の検討から作製そして練習にいたるまで頼ってしまいましたが、力を合わせて無事に活動を終えることができました。

当日、6年3組の子どもたちから予想していたような反応がまったくなく、もし一人で飛びこみ授業をしていたら転覆していただろうと思います。しかし、チームティーチングのよさは、メインの活動者をサポートしている時に子どもたちの表情をよく読みとることができた点にもありました。全体を見渡して「この子なら声を出してくれそうだな。」「この子は消極的な気持ちでいそうだからゲームの時に支援しよう。」などと考えることができました。

これは一人で前に立つ時にも少しでも気持ちにゆとりを持って是非とりくむべき技能だと感じます。声かけだけでなく目線での励まし、肩に手をおき“やろう”というよ

うに促がす身体接触も活動を支える大切な柱だと思えます。

そして何よりこの恵泉で学んだ笑顔で子どもたちの前に立つことの大切さを実感しました。子どもたちが少しでも自己を解放し、楽しいな、やってみようかなと感じられないと、言葉を、まして英語をひきだすことは難しいと考えるからです。

次に自らの英語での指示やかたりかけについてですが、やはりスムーズには出でこず練習の必要性を感じています。声を発する前にどうしても1、2拍間ができ目も泳いでしまいました。最後のGood bye songの時にも子どもたち同士での動きは引き出せませんでした。歌いかけた子どもたちはみな笑顔を見せてくれ、とても嬉しく充実感がありました。

すばらしい機会を与えていただき心より感謝申し上げます。

◆活動日：2010年2月3日

渡邊 順子

2月3日(水)2校時、高山さんと大滝さんと共に私は、6年2組で英語活動を行わせていただいた。6年2組は、クラスの雰囲気明るく、元気な児童が多いという印象を受けた。授業開始時間になると、担任の先生の“it's English Time!”の声に“Yes!”と大きな声でほとんどの児童がすぐに答えられていた。

## 1.良くてできた点

- ・私達のグループは、活動を(挨拶担当、skit担当、story time担当など)主な活動者とその補助的役割にはっきり分けていたため、混乱せず自分が担当した部分は責任を持って主体的に活動できたことが良かった。また、主な活動者に完全に任せるのではなく、補助的役割は児童から見た印象、活動の流れの整合性など客観的な意見を出したので、内容の深まりに繋がった。
- ・準備の段階で、いい授業を作り上げるために活動者同士が正直な意見を出し合い、活動者全員が妥協しなかったことが、授業本番で相手任せにならない自信をもった活動に繋がった。
- ・活動者全員が授業案を暗記していたので、あわてることなくスムーズに活動できた。

## 2.改善点

- ・活動中、どうしても活動者のClassroom English特に褒め言葉が1人“Great!”と言えば他の活動者もつられて同じ表現になっていた。児童を褒める時は、応用した

複数の表現を児童に聞かせたい。そのためにも、場数を踏み、日頃から英語表現を聞く時間を積極的にもつ必要があると感じる。

## 3.全体の感想・発見

- ・授業を作る段階や準備段階で、どんな活動にしたいかを活動者同士が正直に意見を出し合い、1つひとつ細かな修正をしていかなければ、よい授業は作れない。学生時代は、同世代の仲間たちと多少きびしくても正直な意見を出し合って授業案を考えていたが、この正直な意見を出し合うという過程は、活動者同士が共通理解を図れていけば年齢を超えてわかりあえると実感した。
- ・授業直前、私たち活動者は、明るい雰囲気クラス全体を盛り上げて行こうと話していた。その意気込みと伊藤先生が作り上げてきた6年2組の雰囲気がマッチして楽しい活動ができた。担任が1日1日の活動の中で、児童とどう関わり、児童を尊重しているか、児童の発言をどうすくいあげているかというクラス経営の部分が、自主的な発言やコミュニケーションを大切に英語活動に現れることを発見した。
- ・Game Time は楽しく英語をどんどん使う時間。児童にやらせて、それをただ見ている活動者では、児童と活動者の距離感や隔たりを感じてしまう。むしろ、英語を話せる活動者が積極的に児童の中に入り、児童に楽しく英語を使える場や雰囲気を味わう時間が必要だ。

◆活動日：2010年2月12日

大西 恵理子

## 1 本時の目標より成果と課題

①自分から進んで話しかけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。

高学年ということ、初対面のゲストティーチャーということで、児童に照れがあり全体で歌ったりジェスチャーする場面では積極性は見られなかった。ゲストティーチャー

は継続して関わり、信頼関係を築いた上で授業をしていくことが望ましいと考える。HRTがもっとALTと児童の間に入り、児童理解、把握の中心になった方が初対面のゲストティーチャーともスムーズにいくと思う。

しかし、今までの外国語活動の積み重ねの成果か、内容はほとんどの児童が理解しているようでゲームの時には、尋ねられるとしっかりと手本のように答えていた。個々

には、コミュニケーションに対する積極性が見られた。楽しんで、たくさん名前を獲得しようと話しかけている児童も多かった。サポーターが中に入ること、やり方や目標言語に対して不安のある児童の理解を促し、言ってみようやってみようという勇気を与えたと思う。

②目標言語を使って自分の行動を相手に伝え、理解しようとする。

目標言語を使って伝え合っていた。しかし-ingの意味や使い方をどこまで理解していたかは疑問が残る。今までの積み重ねはあるものの、小学生の内は単語や基本的な表現を多くインプットしていくことの方が大切なように感じる。

スキットタイムでの劇は、-ingのニュアンスを分かりやすく伝えていたと思う。

スキットタイムでの言語を練習でもう一度反復させた方が、より理解が深まるように感じた。

③絵本やクイズを通して異文化を知り楽しもうとする。

難しい単語や言い回しも多いにもかかわらず、絵本の中に吸い込まれるように見入っていた。知っている話ということもあるが、役に別れて読んだり、語りかけるように

読んだりしたことは効果的だったと思う。さらに、本を見なくても読めるほど暗記した方がよりアイコンタクトが取れたと思う。

異文化理解は児童の知的好奇心を刺激するものとなった。毎回少しずつだがこの積み重ねは、英語を単なる言語として吸収するのではなく、文化や国民性を知ることによって国際理解への第一歩となると思う。

## 2 感想

一つの授業になんとたくさんの方の知恵と努力が結集されていたことか、みんなで作り上げる作業は楽しいと共にその責任の重さも感じた。このフレーズをどのように子供達に投げかけるとより意欲が湧くのだろう、あーでもないこーでもないとグループで意見を出し合い、何度も試行錯誤した。完璧とは行かないが、子供達が笑顔で授業後に席に着いたのは、私にとって何とも言えない充実感となった。教える側の学び合う喜び、大切さを再認識した授業づくりだった。この機会を与えてくださった先生方、学生さんに本当に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

### ◆活動日：2011年2月16日 富崎 まどか

「指導案は生き物」とのコーチのお言葉どおり、作成段階から指導案は常に検討を重ね、当日も授業直前まで改良が加えられました。にもかかわらず、案の定、授業開始直後から指導案のとおりには進行することができないという現実と直面。それが逆に功を奏し、グループメンバー同士の緊張がほぐれ、楽しい授業展開をすることができました。そしてHRT主導で授業が進行すると、当然、時間配分など気にはなりましたが、まずはHRTがどのような外国語活動を目指しているのかを理解し、それを尊重した形で授業を進行する必要があるということを感じました。また、クラスごとに児童、HRTの外国語活動への取り組み姿勢も異なるので、指導案にしばられた画一的な活動は困難ということを体感しました。

なんといっても衝撃的だったのは、絵本よみ聞かせタイムでのハプニング。(よくよく考えたら、サポーターに登場人物の役割を確認し忘れた私の痛恨のミスでした。)

“Granddaughter! Help me!”と呼んでも誰も登場しない…(あれ、誰が孫の役だっけ?…そういえば誰にも頼んでいなかったかも…しまったー!)と呆然と教室を見回すと、なんと!手を挙げている男子が!!!まさにHELP MEの状況を救ってくれました。「児童に登場人物役を演じてもらう、さらにHRTも登場してもらう」という案は指導案検討の際に出ていました。しかし、あんなに盛り上がるとは。児童、HRT、ALT、サポーターが一体となり生き生きとした活動ができたことと実感できた瞬間でありました。

今回の目標である「会話表現をジェスチャーと気持ちを込めて表現する」については、児童の積極的な参加姿勢が見られ、KEESが継続して英語活動を行ってきた成果をみることができました。特に、skitの練習や発表時に児童が表現することを臆することなく、コミュニケーションをとりながら行っていたことに大変感心しました。

児童のユーモアたっぷりのアイデア満載のskitには大爆笑! Help me./OKをしっかりと自分のものにし、想定場面に応じた表現が見事にできていました。3分という短い

時間内でskitを考えられるかと心配していたのですが、子どもの持つ能力を軽く見積もったことを反省しました。

時間配分に余裕がなくなり、skit発表の時間をカットすべきかどうか、進行役のメンバーは大変な決断を迫られたと思います。その後に残っているカルチャータイムの時間を確保しようとしてくださいました。小道具等を準備していることなどに配慮してくださったのだと思います。

私は自分が担当したカルチャータイムのために、実際にロシア料理を食べに行ったり、ロシアの方に会いに行きました。私自身関心のなかったロシアについて学ぶ機会となり、また、初めて耳にするロシア語は本当に難しく、英語を学ぶ児童の立場を感じるいい機会にもなりました。

カルチャータイムの際、一応ロシア語で「ストラストヴィーチェ(こんにちは)」、「スパシーヴァ(ありがとう)」を言ってみました。すると、なんと、授業が終わった時、児童の一人が「ストラストヴィーチェ」と私に話しかけてくれたのです。きっと勇気を出して話しかけてくれたでしょう、これには本当に驚きました。その時は授業が無事終わった安堵感いっぱいだった私は、「ストラストヴィーチェ」と答えるのが精いっぱいでしたが、もしかしたらロシア経験のある子だったのかしら、もっと反応してその子に何か話をきいてみたらよかった、と反省、後悔しています。英語というと、つい英米中心になりがちですが、このような形で少しでもほかの国について紹介する機会をつくることができよかったですと思います。

これまで私がやってきた英語活動は自己流で迷いながらの孤独なものでした。もちろん何度も授業をした経験もありました。しかしながら、今回本講座で発音訓練を受けたことで多少なりとも自信をもち、きちんと指導方法や指導案作成を学び、仲間と共同で行うことで、1コマの授業がこんなにも盛り多く、刺激と感動を得ることができるとは! 半年間、温かく支えてくださったコーチの皆さまには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

# 活動の展開をめざして

### 奉仕先開拓調査

恵泉地域言語活動研究会では、海外での奉仕活動も視野に入れ、活動先の開拓を行ってきました。

#### ハワイ調査出張報告書

1. 出張者：岩佐玲子（人文学部教授 恵泉地域言語活動研究会責任者）・須藤桂子（言語活動アドバイザー）
2. 出張期間：2010年3月2日（火）～3月8日（月）
3. 出張先：米国ハワイ州 ホノルル、パールシティ、ワイパフ
4. 滞在先：シェラトンワイキキリゾート Sheraton Waikiki Resort
5. 日程

3月2日（火）	16:30（日本時間）発 07便で成田より出国 08:30（現地時間）ホノルル着 13:30 ホテルチェックイン 訪問先への電話連絡 周辺環境確認
3月3日（水）	12:30 クアキニ病院堀説の高齢者ホームを訪問 13:00～14:00 施設利用者（日系高齢者）との交流 14:00～15:00 打ち合わせ
3月4日（木）	10:00～13:30 ハワイ日本文化センター訪問 ハワイ日系人の歴史と文化を辿る
3月5日（金）	09:30～12:00 クアキニ高齢者ホームで奉仕グループ・カトリア会の活動を参観し、情報交換 12:20～13:30 ハワイ日本文化センター見学、ハワイ在住のたいらさんと面談 14:00～16:00 ハワイ大学訪問 学生センターにて学生の日常や活動の調査
3月6日（土）	10:00～ アメリカ軍ミズーリー艦記念館訪問（パールシティ） 12:00～16:00 ハワイ砂糖耕地村見学（ワイパフ）
3月7日（日）	09:30 ホテルチェックアウト 12:30 ホノルル発
3月8日（月）	16:30（日本時間）成田着

#### 6. 調査・下見結果

##### ① 治安と安全性

ハワイ、特にホノルルには日本からの観光客が毎日数百人も訪れている。整備された観光地であり、日本語の通じる場所も多く、治安の面でも心配のない環境と言える。公共の交通機関（バス）もルートが明確で、運転手や乗客も、観光客に対して親切で、穏やかな雰囲気が車内に漂っている。アメリカ本土の都市のバスとは趣が異なっており、初めての海外を経験する学生にも安心して過ごせる環境であると判断できる。

##### ② 文化的多様性

英語が共通語として使用され、他民族による文化の融合が日常の中に見られる。ハワイ人、日系、中国系、フィリピンなどのアジア系の民族をはじめとし、南米、欧米系の多様な民族によって文化が形作られている。多様であることが当たり前で、外見からは国籍も言語も推測できないほど、様々なルーツを持つ人々がともに暮らしている。言語と文化、民族と歴史など、すべてが関わりを持ちながら現在に至っていること、新しい時代に平和を築くかについて学ぶには適切な場所だといえる。日本文化センター、ハワイ砂糖耕地村、ハワイ大学などは歴史や文化を理解する上で意義深い場所でもある。

##### ③ 言語活動のニーズ

日系人2世が60代から70代後半となり、現在は3世や4世の時代になっている。その為、日常言語は英語を使う人が大半を占めるが、日本文化を懐かしむ人や親しみを持っている人が多く、わらべ歌やお話は歓迎されている。既に同様の活動をおこなっている婦人グループ「カトリア会」（ハワイ駐在者の妻の会）が高齢者施設での奉仕活動を30年間継続しており、この会と共同での催しを企画することによって、学生が海外に住む日本人の社会貢献についても認識を新たにできるのではないかと期待できる。

##### ④ 訪問先の受け入れ体制と教育的意味

Kuwakini Homeは、病院に併設された高齢者施設であり、定期的にボランティアを受け入れており、そのための部署も確立されていることから、学生が訪問した際にもスムーズに交流が図られる環境が整っている。10名以下の高齢者との触れあいに適した部屋と、100人規模の観客を前にして発表できる講堂もあり、プログラムの内容や目的によって使用できる場所の選択もできる。

英語科と国語科の学生が協力して会を進行することも可能になる、マネジメント能力育成にとって有効な環境と設備を有する施設であることが確認できた。

#### 7. 今後の検討事項

- ① 訪問に適切な時期はいつか。（下見時期の3月または夏休み中の9月など）
- ② ニーズ講座、地域の人々にも呼び掛けるかどうか。（学生のコミュニケーション能力や社会性の向上のためにも同行のメンバーに社会人や退職者などが含まれていることが、望ましい。）
- ③ ハワイ大学で日本語を学ぶ学生と恵泉の学生との交流をどう図るか。（カトリア会の五十嵐さまにご紹介いただけることになっているが、どのような目的と場所で、交流するかを明確にして、紹介を依頼する必要がある。）
- ④ 5泊7日の1週間の短い旅行ではあるが、一人二十五万円ほどの費用が見込まれる。観光はほとんどなく、奉仕活動と交流が中心の場合、学生がどの程度関心を示し、参加を希望するか、行くことを価値づける何らかの仕組みが必要かもしれない。
- ⑤ 報告会での報告を意識した記録の作成、メディアへの宣伝
- ⑥ その他（時差が17時間あり、昼夜が逆転しがちとなることから、帰国後は2～3日静養できるスケジュールでの引率が必要。引率者は最低2名確保が必要。）

#### 8. 総括

5泊7日間にわたる下見・調査は様々な意味で有意義であった。恵泉地域言語活動研究会がその活動範囲を「地域」としているように、地球規模で「地域」ととらえることができるよう、学生の視野を広げる上で、海外奉仕の旅は新しいカリキュラムとして将来性を持つものである。生涯にわたって地域社会つまり地球全体を視野にいれながら自分の使命を自覚して社会貢献しようとする意志、就労への意欲は、学生時代の豊かな経験によって育つのではないだろうか。「国」「言語」「歴史」を超えて、人々がつながり、社会を形成し、発展させるためには、一人でも多くの民間人が一人でも多くのバックグラウンドの異なる人々と出会い共感する経験が重要だ。それがあって初めてともに働く基盤が形作られる。そのために、日本の文化を伝えながら、英語を標準語としてコミュニケーションできる学生を育て、世界のどの場所でも就労を可能にする、基本的な生きる力を培うことに、この言語活動研究会の使命があると確信する。今後は地域の方々にも学生と学ぶ場を開き、ともに学びともに奉仕する仕組みを整えていくことが、本研究会の使命の一つとして浮かび上がってきている。学生への説明、学内や学外への周知などの際に、どのような教育的・社会的意味があるかについて、論理的で説得力のある説明と検証を、教育理念との関係から着実に積み重ねていくことが、今後の課題であると考えられる。（文責：岩佐玲子・須藤桂子）

## 就職支援活動

### ●2010年8月31日「新卒者雇用に関する緊急対策について」及び「経済対策の基本方針」による追加支援による活動

2010年度後期には厳しい雇用情勢を踏まえ、本補助金に対して追加配分があり、本学ではこの補助金を利用して専門的知識を持った就職支援担当職員を雇用し、学生指導を強化するとともに、以下のセミナーを開講して学生の就業力の向上を図りました。

実施日	タイトル	内容	ディスカッション・テーマ
10月7日	導入ガイダンス	企業の求める人材(採用選考について)の理解	求められる人材とは
14日	ロジカルシンキング	無駄なく漏れなくわかりやすい面接会話の構成	学生と社会人の違い
21日	プレゼンテーション演習	効果的な自己PR(全員実習)	働くとは
28日	グループ・ディスカッション演習	チームの中での意志決定・自己主張スキル	大学生のキャリアとは
11月4日	企業・社会研究	会社の仕組み、仕事に関する法律の理解	フリーター・派遣労働・内定取消について
11日	グループ・ディスカッション演習	他大学生とのディスカッション(ゲスト学生)	女性のキャリアとは
18日	業界研究	ホテル業界の理解(ゲスト講師)	有望な業界とは
24日	企業訪問研究	製造業(産業用機器)	日本企業の強味とは
12月2日	ビジネス文書演習	履歴書・エントリーシートの書き方	大学で学んだことは
9日	ビジネスマナー演習	電話・電子メールの注意点、OG訪問の仕方	エチケットとビジネスマナーの違い
16日	業界研究	ブライダル業界の理解(ゲスト講師)	未婚・晩婚について
22日	企業訪問研究	流通・小売業	接客業で求められるものとは
1月6日	プレゼンテーション演習-2	採用面接デモンストレーション(ゲスト学生)	ビジネスモデルを考える
12日	グループ・ディスカッション演習	他大学生とのディスカッション	資格・学歴について
19日	業界研究	商社業界の理解(ゲスト講師)	会社の利益とは
20日	実践面接マナー演習	入退室・着席から面接における自己紹介までを解説・実践演習	
22日	集中講義・実技演習 (選考の重要点確認)	自己PR、グループ・ディスカッション、模擬面接のポイント	
2月3日	集中講義	10月～1月の内容のダイジェスト(履歴書&ES&業界研究)	
4日	集中講義	10月～1月の内容のダイジェスト(自己PR&グループ・ディスカッション&面接のポイント)	
5日	業界解説・模擬面接	業界解説(製造業)、グループ面接、クラス別面接演習⇒外部面接講師参加	
10日	業界解説・模擬面接	業界解説(生保業)、グループ面接、クラス別面接演習⇒外部面接講師参加	
11日	面接アドバイス・模擬面接	採用担当者の視点解説、グループ面接、クラス別面接演習⇒外部面接講師参加	
17日	面接アドバイス・模擬面接	採用担当者の視点解説、グループ面接、クラス別面接演習⇒外部面接講師参加	
24日	質疑応答・模擬GD&模擬面接	面接の対策相談・解説、代表者GD演習(1回)＋模擬面接(2回)	
28日	質疑応答・模擬GD&模擬面接	面接の対策相談・解説、代表者GD演習(1回)＋模擬面接(2回)	
3月4日	質疑応答・模擬GD&模擬面接	面接の対策相談・解説、代表者GD演習(1回)＋模擬面接(2回)	
16日	質疑応答・模擬GD&模擬面接	面接の対策相談・解説、代表者GD演習(1回)＋模擬面接(2回)	
17日	質疑応答・模擬GD&模擬面接	面接の対策相談・解説、代表者GD演習(1回)＋模擬面接(2回)	
23日	質疑応答・模擬GD&模擬面接	面接の対策相談・解説、代表者GD演習(1回)＋模擬面接(2回)	

●卒業生の就職状況について

		2010年3月卒 就職率	2011年3月卒 就職率	2012年3月卒 就職内定状況
全体の傾向 (厚生労働省および文部科学省調べ)	大学	91.8% 前年同期比 3.9ポイント減	91.0% (暫定値91.1%) 前年同期比 0.8ポイント減	59.9% 前年同期比 2.3ポイント増
	男子	92.0% 前年同期比 3.9ポイント減	—	—
	女子	91.5% 前年同期比 3.9ポイント減	—	—
	短期大学 (女子学生のみ)	88.4% 前年同期比 6.1ポイント減	84.1% 前年同期比 4.3ポイント減	22.7% 前年同期比 0.2ポイント増
	高等専門学校 (男子学生のみ)	99.5% 前年同期比 0.5ポイント減	98.7% (暫定値98.5%) 前年同期比 1.2ポイント減	93.9% 前年同期比 0.1ポイント増
	専修学校 (専門課程)	87.4% 前年同期比 4.4ポイント減	86.2% (暫定値86.1%) 前年同期比 1.2ポイント減	40.2% 前年同期比 2.3ポイント増
恵泉女学園大学		72.6%	65.4%	—
恵泉 地域言語活動研究会		91%* うち教育関係：42%	100%* うち教育福祉関係：90%	— **
				— **

\* これらの数字には、大学院進学も含まれています。  
\*\* 報告書作成段階では未定。(2011年10月1日現在)

## 卒業生より

## 相澤 美希 (2010年卒) 航空関係

私とキーズとの出会いは大学2年生の春でした。元々、教育に興味があり、子供が好きという事もあって、専攻している英語を通して地域に恩返しをしたいという思いでキーズに加わりました。初めは人前に出ることに慣れず、教える大変さを痛感する日々でした。しかし、ふと振り返ると、子供たちだけでなく、学校の先生方、また地域の方々などたくさんの方々に支えられている事に気付きました。それからは、教えるという事だけに夢中になるよりも、感謝の気持ちを忘れず、たくさんの方々と触れ合う楽しさを実感しながら活動することを心掛けました。その中で、老若男女問わずたくさんの方々と触れ合うコミュニケーション力が身に付きました。就職活動にもたくさんのお出会いがあります。また、仕事をしていても、老若男女問わずたくさんのお出会いがありますが、キーズで得たコミュニケーション力を活かし、一期一会の出会いを大切に仕事をしています。

## 壺内 恵実 (2010年卒) 教育

私がKEESを通して、就活や仕事に生かしたことは、「ほう(報告)れん(連絡)そう(相談)」です。特に、班長になった活動2年目のときは、顧問や学校の先生方、班のみんなや同級生に、報告、連絡、相談をよくしていました。個々でやってきた英語活動が、2年目から班員全員で授業をする体制に変わり、後輩も新しく加わり、新しくなること、変わることに不安がありました。不安があるからこそ、何とかできないものかと、その時々いろんな人に話しました。活動をよりよく発展させるには、一人で抱え込んだり、溜め込まず、人に話すことだと、社会人になった今、当時のことを思い出しながらそう思います。KEESも今の仕事もチームワークでやるものなので、職場内外問わず「ほうれんそう」なしでは仕事になりせん。会議、保護者からの連絡、研修等で得た情報を「ほうれんそう」によって皆で共有することは、大切であると実感しています。

## 江夏 舞 (2011年卒) 教育

私は現在北海道教育大学教職大学院へ通っています。再来年から小学校の教員になることが決まり、現在は授業開発のゼミで“わかる授業”の研究に励んでいます。

今の私があるのは、研究会の全ての活動によります。大学時代、休み時間を返上して活動に打ち込んだことが、教師になろうとしている今大きな財産となっています。大学2年時から授業経験ができたので、教師としての姿勢や子どもとの向き合い方、社会的なマナーについて学びました。更にチームとしての活動から、学校現場で必要とされている協働遂行力もつきました。大学院の実習では、外国語活動も行いKEESで培ったノウハウをそのまま活かすことができました。効果的なゲームや絵本を取り入れたことで、児童の興味関心を引き出し、楽しんで学ぶ授業が展開できたように思います。また国語で物語文を音読したり絵本を読む時には、恵話会での活動が役立ちました。

この研究会に出会わなければ小学校教師を目指していなかったのも、今とても感謝しています。今後は学んだことを十分に生かして小学校教育に貢献し、子どもの未来を拓いていきたいと思っています。

## 千葉 綾佳 (2011年卒) 教育

私は恵話会の第一期生として活動し、現在では特別支援サポート教員として小学校で勤務しています。経験もないまま、小学校で働くということで不安はたくさんありました。しかし、「先生、先生」と笑顔で話しかけてくれる子供たちが愛しく、不安はすぐに楽しさへと変わりました。

このように日々、小学校で過ごしていると恵話会の経験が生かされていると感じることが多々あります。例えば、絵本の選び方や読み方です。小学校(特に低学年)では自分たちで絵本を読む機会があります。また、先生が読み聞かせるという場面もあります。その時に私は恵話会で扱った様々な絵本を思い出し、選定することができるのです。自分自身の思い入れがある絵本を子供たちと共有することが出来る、これは恵話会に入っていたからこそ出来る経験です。

来年は小学校教諭として、学級の子供たちが素敵なお話に会えるよう積極的に読み聞かせを取り入れていきたいです。

### 小山 麻菜美 (2011年卒) 教育

私は小さい頃から英語を習っていたので、大学入学前から英語を通じて何か社会に、人のために役に立てる仕事に携わりたいと考えていました。大学入学時に恵泉地域言語活動研究会が本格的に始動し、2年生から3年間所属しました。

私が研究会を通じて学んだことは2つあります。1つ目は、「ことばの魅力」に気付いたことです。「絵本の魅力を通じてことばの魅力を子供たちに伝えること・メンバーやコーチと一緒に新しくことばを作り出すこと。」研究会を通じ改めて日本語の魅力や音の魅力に気づきました。

2つ目は「自分に自信がついたこと」です。研究会では言葉を自分から発信しなければ、そもそもことばの魅力は伝わりません。どんなに綺麗な日本語であろうと、綺麗な発音で英語を使っている、その発信する人が気持ちを持っていないければ意味がありません。言葉の意味や伝えかたなどを仲間やコーチの先生方と一緒に考え、一緒に練習をしました。どんなときでも仲間やコーチの先生方は指導やアドバイスをしてくれました。

私は現在、学校関係の広告代理店の営業職をしています。なかでも私は東京23区の高校を担当しており、ときには高校生へ対し進路のアドバイスをするときもあります。この研究会の活動を通し、自分のことばで通じ合う経験があったからこそ現在自分が自信を持って高校生へ接することができるのだと思います。研究会に出会ってなければ、何も気づかないまま心のないことばを使っていたでしょう。相手の立場に立ってことばを選ぶことやことばを伝えることなどしなかったでしょう。

現在の仕事や日々の生活を通じ、ことばの魅力伝えていけるような人物になっているように、そして研究会に関わる仲間に恥ずかしくないように、自信を持って会えるように日々頑張っていこうと思います。

### 村上 はるな (2011年卒) 福祉

恵泉地域言語活動研究会の活動から、今の仕事にいかされていることは声かけと観察力です。今、福祉施設で働いているのですが、利用者とのコミュニケーションが重要です。コミュニケーションで互いの信頼関係を築いていきます。一言の声かけから相手の心理がわかる場合もあります。KEESの活動では、クラスの生徒に挨拶など声かけをすることで、生徒に発語を促していきます。次に観察力です。英語活動では、生徒の様子やクラスの雰囲気な細かな事も見ていきます。この福祉の仕事も、どれだけ利用者の状態を観察していけるかが鍵となります。

この二つの学びが今の仕事にいかされていると思います。

### 高橋 美晴 (2011年卒) 教育

私たちが普段使う言語とは、単に相手に伝達するためだけではなく、相手と心を通わせるとも大切な手段であると、私はこの言語活動研究会で学びました。お話を語ったり、絵本を読んだりする中で、話し手と聞き手との間に心の交流が生まれます。この活動を通して、『言語』の本当の意味に触れることができました。

今、学校で子どもたちの会話に耳を傾けてみると、言語が乏しくなっていることを痛感しています。乏しい言語は相手に意見を伝えきれないだけでなく、相手を簡単に傷つけてしまいます。私たちはこの言語活動を充実させ、その能力を高めていくことで、本当のコミュニケーションを図れるのではないのでしょうか。

言語とは、相手と心を通わせる大切な手段であると同時に、気持ちをコントロールするものです。私自身も、相手に対し常に愛情のある言葉で接していくと同時に、一教師として、一社会人として、生徒の手本となる言動、行動を心がけて参りたいと思います。

### 森田 麻美 (2012年卒) 教育

恵泉を卒業するにあたり、最も記憶にあるのがKEESの活動です。児童から「将来、英語や絵本に関わる仕事に就きたい」「いつも楽しく真剣に教えてくれて、こんな人間になりたいと思った」と手紙を頂きました。一生懸命に取り組む自分たちの姿を見て、児童たちが夢を持ってくれたことに感動しました。その貴重な関わりと経験は、今も私の原動力です。声や表情、コミュニケーションに自信が付き、心が豊かになったことを実感しています。本当にありがとうございました。

## 第2章 3年間の活動と学び

### 2009～2010年度 活動風景



2009年度 第一小



2009年度 長峰小



2009年度 第三小



2009年度 クリーブランド先生と



2009年度 スプリングフェスティバル



2009年度 白楽荘



2010年度 クリスマス会



2010年度 松岡享子先生ワークショップ



2010年度 城山小



2010年度 城山小



2010年度 第1回お話を楽しむ会



2010年度 第一小



2010年度 第一小



2010年度 長峰小



2010年度 島田療育センター

# 第3章

## 活動報告会の記録



2009年度活動報告会ちらし



# 地域に広がる「ことば」の花畑

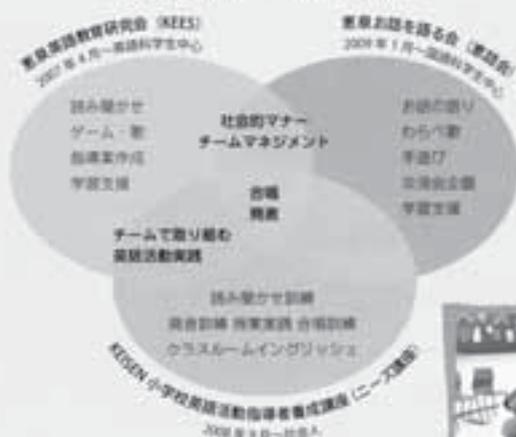


2010年2月20日(土) 13:00 ~ 15:00 (12:30開場)

恵泉女学園大学 G103教室

恵泉女学園大学は、人文学部の教職課程履修者を中心に、課外活動としての「恵泉言語活動研究会(KEISEN ANGELS)」を組織しています。地域の学校や福祉施設などをチームとして訪問し、専門性を生かした言語活動(小学校英語活動、絵本の読み聞かせやわらべ歌、手遊びでの交流)による地域貢献を継続的にを行い、正課授業を補完して、学士力の確保と就業力の育成をはかり、生涯を通して社会に貢献できる人材を育成しています。

恵泉地域言語活動研究会の構成



13:00 ~	挨拶	木村 利人 (恵泉女学園大学)
13:15 ~	全体報告	恵泉地域言語活動研究会について 前住 翔子 (東京大学教育学部 教職研究科)
	活動報告	恵泉英語教育研究会 (KEES) の活動 ～小学校外国語活動での実践～ 恵泉英語を語る会 (英語会) の活動 ～社会福祉施設等での実践～ 小学校英語活動指導者養成講座の活動 ～社会人による活動～
14:15 ~	教育現場からの助言	授業としての語り 伊藤 陽子 (東京都立清江中学校校長)
	講評と助言	山口 順一 (東京都立清江中学校教員)
14:55 ~	謝辞	大石 由布子 (東京大学教育学部 教職研究科)



恵泉女学園大学

〒206-8586 東京都多摩市南野 2-10-1 <http://www.keisen.ac.jp>

## 2009年度活動報告会プログラム



### 恵泉地域言語活動研究会 活動報告会

#### プログラム

2010年2月20日

司会：伊藤 真希子

(英語コミュニケーション学科3年)

13:00~	挨拶	恵泉女学園大学学長 木村 利人	
13:05~	全体報告	人文学部教授/恵泉地域言語活動研究会取組担当者 岩佐 玲子	
	活動報告	恵泉英語活動研究会 (KEES)	<u>体験発表</u> ・ 岡地 里奈 ・ 中澤 深雪 <u>絵本</u> : <i>Mr. Gumpy's Outing</i> (by John Burningham) ・ 上倉 しおり ・ 江夏 舞 ・ 大熊 亜由美 ・ 双木 麻琴 <u>歌</u> : Sailing ・ 伊藤 真希子 ・ 小山 麻菜美 ほか
		恵泉お話を語る会 (恵話会)	<u>体験発表</u> ・ 千葉 綾佳 ・ 高橋 なつみ <u>発表</u> : 「歌舞伎十八番の内 外部売の口上」 ・ 高橋 美晴 ・ 林 沙恵子 ・ 井戸 なつみ <u>語り</u> : 「なら梨とり」(『日本昔話百選』) ・ 飯塚 実香 <u>わらべうた</u> : 「あんたがたどこさ」 ・ 村上 はるな ・ 中村 聡美 ほか
小学校英語活動指導者 養成講座	<u>体験発表</u> ・ 菅野 江里香 <u>詩</u> ・ 大西 恵理子 (How Deep Is the Ocean) ・ 大滝 明美 (Over the Rainbow) <u>絵本</u> : <i>The Three Billy Goats Gruff</i> (by Marcia Brown) ・ フジオカ 鶴子 ・ 大滝 明美 ・ 高山 秀美 ・ 横井 明子 <u>合型</u> : Let Us Sing Together 全員		
14:15~	教育現場からの助言	授業としての語り	多摩市立落合中学校図書館司書 伊東 陽子先生
		講評と助言	多摩市立落合中学校校長 山口 順一先生
14:55~	謝辞	人文学部助教/恵泉地域言語活動研究会取組補佐 大谷 由布子	

第1回活動報告会



木村学長の挨拶で開会



岩佐教授による全体報告



小学校での英語活動を再現



小学校での嬉しいエピソードを披露



「なら梨とり」の発表



日ごろの活動を紹介



わらべ歌は全員で



社会人受講生による発表



伊東先生の授業としての語り



大谷助教より謝辞



山口先生による講評



無事報告会を終了して

2010年度活動報告会ちらし

# 恵泉地域言語活動研究会 活動報告会

文部科学省平成21年度「大学教育」学生交流推進事業（学生支援推進プログラム）採択  
～ 専門性を生かした正真正正の国際化活動によるマネジメント力の育成～



## 2011年2月19日(土) 13:00～15:00 (12:30開場)

### 恵泉女学園大学 G103教室

恵泉女学園大学は、人文学部の教職課程履修者を中心に、課外活動としての「恵泉地域言語活動研究会」を組織しています。地域の学校や福祉施設などを訪問し、専門性を生かした言語活動（小学校英語活動、知本の読み聞かせや語り、手遊びやわらべ歌による交流）による地域貢献を継続的に行い、正課授業を補完して、学士力の確保と就業力の育成をはかり、生涯を通して社会に貢献できる人材を育成しています。

#### 恵泉地域言語活動研究会の構成

**恵泉英語教育研究会 (KEES)**  
2007年4月～英語科学センター

- 読み聞かせ
- ゲーム・歌
- 指導実践
- 学際支援

チームで取り組む英語活動実践

**恵泉お話を語る会 (恵話会)**  
2009年1月～英語科学センター

- お話の語り
- わらべ歌
- 手遊び
- 交流会企画
- 学際支援

社会的マナー チームマネジメント

読み聞かせ訓練  
独自訓練 授業実践 合同訓練  
クラスルームイングリッシュ  
KEES 小学校英語活動指導者養成講座（二回講座）  
2009年9月～社会人

13:00～	挨拶 本村 利人 (恵泉女学園大学)
13:10～	全体報告 恵泉地域言語活動研究会について 大谷 由布子 (本学人文学部助教)
活動報告	恵泉英語教育研究会 (KEES) の活動 ～小学校外国語活動実践～ 恵泉お話を語る会 (恵話会) の活動 ～学校・福祉施設等での実践～ 小学校英語活動指導者養成講座の活動 ～社会人による活動～
14:35～	教育現場からの助言 山口 穂一 (東京都立駒宮小学校校長)
14:55～	講師 村岡 有香 (本学人文学部助教)



**恵泉女学園大学**  
〒206-8586 東京都多摩市南野 2-10-1 <http://www.keisen.ac.jp>

## 2010年度活動報告会プログラム



2011年2月19日(土)  
13:00～15:00 G103教室

**恵泉地域言語活動研究会**  
**2010年度活動報告会**  
**～平和につながる言葉の力～**

司会：飯塚 実香、伊丹 沙織

13:00～	挨拶	木村 利人 (恵泉女学園大学学長)
13:10～	全体報告	大谷 由布子 (本学人文学部助教)
	活動報告	恵泉英語教育研究会(KEES)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体験発表～稲城市立長峰小学校、稲城市立稲城第一小学校、多摩市立西愛宕小学校における活動報告～</li> <li>● 授業における絵本「The Gigantic Turnip」の読み聞かせ 双木 麻琴、阿部 玲子、五十嵐 彩織、戸谷 沙里、ブラウン ともみ、中澤 深雪</li> <li>● 授業における歌「Grandpa on the Farm」の指導 金子 陽香、市川 友里絵、向山 沙樹、長谷川 愛香、才丸 光、伊丹 沙織</li> </ul>
		<p style="text-align: center;">恵泉お話を語る会(恵話会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 体験発表 <span style="float: right;">神田 留合子</span></li> <li>● 歌舞伎十八番の内「外部売の口上」 <span style="float: right;">高橋 美晴、上倉 しおり、飯塚 実香</span></li> <li>● 詩「自分の感受性くらい」 <span style="float: right;">伊丹 沙織、才丸 光</span></li> <li>● 語り「猫糧家」 <span style="float: right;">井戸 なつみ</span></li> </ul>
		<p style="text-align: center;">KEISEN 小学校英語活動指導者養成講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 体験発表 <span style="float: right;">フジオカ 鶴子、神山 和子、大滝 明美</span></li> <li>● 詩「How Deep is the Ocean」の暗唱 <span style="float: right;">伊藤 佳代</span></li> <li>● 絵本「Fortunately」の読み聞かせ <span style="float: right;">森田 真好、大澤 照子</span></li> <li>● 詩「You Are My Sunshine」の暗唱 <span style="float: right;">三原 愛子</span></li> <li>● 絵本「Dinosaur ROAR!」の読み聞かせ <span style="float: right;">古海 節子、富崎 まどか</span></li> <li>● 詩「Over the Rainbow」の暗唱 <span style="float: right;">馬場 久美子</span></li> </ul>
14:35～	講評と助言	山口 順一先生 (多摩市立聖ヶ丘中学校校長)
14:55～	謝辞	村岡 有香 (本学人文学部助教)
		歌「幸せなら手をたたこう」 <span style="float: right;">倉茂 実香</span>

(プログラム作成：向山 沙樹)

第2回活動報告会



木村学長の開会挨拶



大谷助教より全体報告



担当学校ごとの体験発表



小学校の英語活動ハイライト



恵話会体験発表



履修証明書を取得して



社会人受講生による詩の暗誦



社会人受講生による絵本の読み聞かせ



山口先生からの講評と助言



村岡助教による謝辞



報告会終了後の茶話会にて

2011年度活動報告会ちらし

# 恵泉地域言語活動研究会 活動報告会

文部科学省平成21年度「大学教育・学生支援推進事業(学生支援推進プログラム)」採択  
～専門性を生かした正課外地域貢献活動によるマネジメント力の育成～

2012年1月28日(土)午前10:00～12:00(午前9:30開場)

恵泉女学園大学 G103教室

恵泉女学園大学は、人文学部の教職課程履修者を中心に、課外活動としての「恵泉地域言語活動研究会」を組織しています。地域の学校や福祉施設などを訪問し、専門性を生かした言語活動(小学校英語活動、絵本の読み聞かせや語り、手遊びやわらべ歌による交流)による地域貢献を継続的に行い、正課授業を補完して、学士力の確保と就業力の育成をはかり、生涯を通じて社会に貢献できる人材を育成しています。



恵泉地域言語活動研究会の構成



●プログラム

10:00～

挨拶 恵泉女学園大学長 木村 利人  
全体報告 人文学部助教 取組担当 大谷由布子

10:25～

活動報告 恵泉英語教育研究会(KEES)の取り組み  
～小学校外国語活動実践～  
KEISEN 小学校英語活動指導者養成講座  
修了生の取り組み  
恵泉お話を語る会(恵話会)の取り組み  
～福祉施設等での実践～

11:35～

教育現場からの助言 元学校司書・語り手 伊東 陽子

11:55～

謝辞 人文学部助教 取組担当補佐 村岡 有香

恵泉女学園大学

〒206-8586 東京都豊島区南野2-10-1 <http://www.keisen.ac.jp>

## 2011年度活動報告会プログラム



### 恵泉地域言語活動研究会

#### 活動報告会

専門性を生かした正課外地域貢献活動によるマネジメント力の育成

2012年1月28日(土)  
10:00～12:00 G103 教室

司会：五十嵐 彩織、倉茂 美香、ブラウン ともみ

10:00	挨拶	木村 利人（恵泉女学園大学学長）
	全体報告	大谷 由布子（本学人文学部助教 取組担当）
10:25	活動報告	恵泉英語教育研究会(KEES)の活動
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● KEES 活動の進め方について <span style="float: right;">才丸 光</span></li> <li>● 季節をテーマにしたスキットによる英語活動 <span style="float: right;">梅木 まりや、大井 彩奈、鶴谷 菜々子、前田 ひとみ</span></li> <li>● 歌「Going to the Zoo」を取り入れた英語活動 <span style="float: right;">五十嵐 彩織、金子 陽香、長谷川 愛香</span></li> <li>● 絵本「Fortunately」の読み聞かせと英語活動 <span style="float: right;">伊丹 沙織、市川 友里絵、山口 友梨香</span></li> </ul>
		KEISEN 小学校英語活動指導者養成講座修了生の取り組み
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講座終了後の活動と学生の指導について <span style="float: right;">大滝 明美、井村 紀子</span></li> <li>● 絵本「Dear Zoo」の読み聞かせ <span style="float: right;">神山 和子、フジオカ 鶴子</span></li> <li style="text-align: right;"><span style="float: right;">大滝 明美、井村 紀子</span></li> </ul>
		恵泉お話を語る会(恵話会)の活動
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 恵話会の活動について <span style="float: right;">五十嵐 彩織</span></li> <li>● 詩「朝のリレー」 <span style="float: right;">ブラウン ともみ</span></li> <li>● 語り「喧わず女房」 <span style="float: right;">倉茂 美香</span></li> <li>● 詩「ひとりは賑やか」 <span style="float: right;">戸谷 汐里</span></li> <li>● 影絵「ピロードのうさぎ」 <span style="float: right;">神田 留合子、才丸 光、長谷川 愛香、市川 友里絵</span></li> <li>● 語り「不思議なオルガン」 <span style="float: right;">伊丹 沙織</span></li> </ul>
11:35	教育現場からの助言	伊東 陽子 先生（元学校司書・語り手）
11:55	謝辞	村岡 有香（本学人文学部助教 取組担当補佐）

（指導：須藤 桂子、飯塚 実香、川名 仁美 事務担当：小関 毅彦）

第3回活動報告会



季節をテーマにした導入で



1年間の活動を振り返って



聞き手と一緒にのshared reading



特別支援学級での活動例



恵話会の活動について



初めて挑戦した影絵



「不思議なオルガン」は恵話会の定番に



伊東先生による講評と教育現場からの助言



司会の大役を果たした三人



3年間の活動のしめくくり



ボランティア認定証書授与



このプロジェクトに関わってくださった全ての皆さまに感謝して

## 第4章

# 外部評価委員会の記録

本取り組みでは、評価の一環として外部評価委員会を設置し、プログラム全体の評価と改善策の査定を行ってきました。

### 評価委員の紹介

#### ●2009年度

山口 順一先生（多摩市立聖ヶ丘中学校校長）

手塚 裕子先生（稲城市立城山小学校校長）

村岡 有香助教（本学人文学部）

#### ●2010年度

山口 順一先生（多摩市立聖ヶ丘中学校校長）

手塚 裕子先生（稲城市立城山小学校校長）

村岡 有香助教（本学人文学部）

#### ●2011年度

山口 順一先生（多摩市立聖ヶ丘中学校校長）

手塚 裕子先生

長阪 朱美教授（本学人文学部）

2009年度 文部科学省「学生支援指導プログラム 選定事業」

## 恵泉地域言語活動研究会 第1回外部評価委員会

日時：2010年6月26日(土) 10:00~12:00

場所：恵泉女学園大学 多摩キャンパスA206

## I. はじめに

## 1. 取組担当者挨拶

《岩佐》では、第1回目ということで、外部評価の先生方にお集まりいただきました。外部評価委員会を始めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

このプログラムは既に先生方に資料としてお送りさせていただいた申請書にございますように、文部科学省の学生支援推進プログラムという選定事業に採択されたものです。ですので、これについては昨年の9月からプログラムとしてスタートいたしました。その取組の担当者として一言ご挨拶させていただきます。私は取組の担当の責任者で、英語コミュニケーション学科教授の岩佐玲子と申します。よろしくお願いいたします。こちらの申請プログラムをご覧いただきながら、一言ご挨拶させていただきたいのですが、この大学教育・学生支援推進事業というのは、今、ニートや中途退学者など、若い世代の就労に関する問題が社会的に大きく取り上げられている時代の中で、大学の学生に、将来を見通しながら、在学中に就業に対する意欲や技能をどのように付けていくことができるかという問題提起の中から生まれた公的な支援事業です。

これについては恵泉女学園大学として、やはり学生が大学で学んでいること自体を生かして、それを磨くために、学びながら、かつ、まだ完成はしていないけれども学んでいることを共に地域の方と分かち合うような場を通して、社会的コミュニケーション能力を高めたり、その技能を、専門性を高めるといった目的で、大学の中で正規の授業ではない、しかし学生だけの趣味のサークルではない、もう一つ別の教育的な取組があってもいいのではないかと考えて始めたものです。

ですので、取組の名称は、「専門性を生かした正課外地域貢献活動によるマネジメント力の育成」と書いております。本日はこの取組に基づいて、これまでどのように私たちが学生とのかかわりをはぐくんできたか、そして地域の皆さんとどのような協力関係を築かせていただいているか。そういったことを、途中経過ですが、評価委員会の先生方にご理解いただいて、ご意見をちょうだいし、またさらに学生の教育に生かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 2. スタッフ自己紹介

《岩佐》今日の資料の1ページ目をご覧いただきまして、このプログラムに従って進めさせていただきます。次にスタッフの自己紹介をさせていただきます。スタッフはもう1名、馬郡がおりますが、本日はこの場にいらることができません。私以下4名、合計5名のスタッフの自己紹介を短くさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

《大谷》本日はおいでいただきまして、ありがとうございます。英語コミュニケーション学科の大谷です。村岡先生とは同期で、同じ時期に恵泉に来ました。私はこのプログラムで副顧問を務めさせていただきます。先生方にはいつも、学生の活動に対するご理解と、活動の場を与えていただきまして本当にありがとう

## I. はじめに

1. 取組担当者挨拶
2. スタッフ自己紹介
3. 外部評価委員紹介

## II. 取り組みについて

1. 委員会の目的と流れについて
2. プロジェクトの概要説明
3. 質疑応答
4. 活動報告（現在までの活動内容と今後の課題）
5. 質疑応答
6. KEES・恵話会報告
7. 質疑応答

## III. 懇談

1. 評価と助言
2. まとめと日程調整

ございます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

《須藤》KEES（恵泉英語教育研究会）のコーチ、それから恵話会の方もお手伝いさせていただき、ニーズ講座の方も講師としてお手伝いさせていただいている須藤桂子です。恵泉の学生のときに岩佐先生と出会いまして、そして、この研究会で活動をさせていただいています。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

《佐藤》恵泉地域言語活動研究会のコーチをさせていただいている佐藤智子です。よろしくお願いいたします。私は産休をいただいておりますので、今年度からあらためて復帰いたしました。少しですが、自分自身の出産と子育ての経験を通して、学生とのかかわりがさらに深くできるようになったかなと実感しております。よろしくお願いいたします。

《小關》小關毅彦です。私は事務方として、主として資金を調達してくれるのが仕事になっております（笑）。この申請も、岩佐先生、大谷先生に無理を言いまして、何とかお金を取りたいから書類を一生懸命作りましょうよということで作り、幸いに採択されて、資金的な裏付けができて活動ができているということです。先生方、コーチの皆さんにかなり無理をいろいろお願いしてやっておりますが、学生に大きな成果が出ていることを見ますと、苦労のこいはあるなと思っております。

《岩佐》ありがとうございます。実は先生方のお手元にオレンジのパンフレットがございまして、こちらに私どものプロフィールがございまして、こちらでもまたご覧ください。この中の馬郡が八王子市に住んでおりまして、特に今、城山小学校の手塚先生の下で



学生が読み聞かせのボランティアをさせていただくことと、馬郡自身も、小学校の先生方の英語活動の支援をさせていただいています。このようなスタッフで運営しております。

私自身は、こちらの1ページ目に書いておりますが、この取組に対して顧問と書いているのは、会社の顧問のような立場ではなく、学生主体のサークルということですので、部活動の顧問のような位置付けで、あえて顧問と書かせていただいております。このスタッフで昨年からはじめたので、今後また、いろいろと先生方に直接ご指導をいただくことになるとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3. 外部評価委員紹介

《岩佐》それでは私どもの紹介が終わりましたところで、先生方をご紹介したいのですが、まず私がご紹介した後で、先生方にも自己紹介をお願いしてよろしいですか。

では、山口順一校長先生でいらっしゃいます。落合中学の校長先生でいらっしゃったところから、教職課程の学生の学校訪問などで大変お世話になりまして、今は教職課程のそのときの学生が、ピアティーチャーとしてまた受け入れていただくことになりました。さらに先月、スプリングフェスティバルの暗唱コンテストの審査員をご依頼したところ、快くお引き受けいただきまして、またさかのぼりますが、今年の1月も、この言語活動研究会の1回目の報告会に講師としておいでいただきました。そういう形で、非常に恵泉の学生の成長を間近にご覧いただいている先生のお一人です。どうぞよろしくお願いいたします。

《山口》多摩市立聖ヶ丘中学校の校長の山口です。どうぞよろしくお願いいたします。岩佐先生からご紹介いただきましたが、3月まで落合中学にありまして、一番近くの中学校ということで、先生にいろいろ無理をお願いして学生を派遣していただいたり、助けてもらいました。現在は聖ヶ丘中学校ですが、同じく、これから朝の学習会があるのですが、そこに2名の学生をまたお願いしています。

この活動との出会いはもう2年ほど前からでしょうか。多摩市の英語科の先生たちの研修会で、小学校英語活動のことを知りたいということでおいでいただきました。落合中でしたが、そのときに岩佐先生ご自身にいろいろお願いしたのですが、そこで学生の模擬授業をやっていただきました。そのときの学生のレベルが高いなと思ったのです。ここまでどんなふうに教育しているのかなということにすごく興味を持ちました。それが出会いだったのです。正直、学生でここまでできるのだと感動したことを覚えています。そんな出会いでした。

今回は外部評価委員ということで、どんなことができるのか分からないのですが、自分も勉強するつもりで参加させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

《岩佐》よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

次に手塚先生をご紹介いたします。手塚先生は若葉台小学校で校長先生をされ、小学校英語活動の先進的な学校として、広く外部からもたくさんの学校が研究に来られるような、先進的な取組をされた校長先生でいらっしゃいます。現在は城山小学校で、道徳教育についての研究校として、またさらに先生方にも、私どももいろいろと学ばせていただいているところです。では手塚先生、お願いいたします。

《手塚》お世話になります。今ご紹介いただいた城山小学校の手塚と申します。

岩佐先生にお会いする前、実は小関先生に既にお会いして、



聖ヶ丘中学校・山口 順一校長先生



城山小学校・手塚 裕子校長先生



本学・村岡 有香助教

実は若葉台小学校は恵泉と似たようなレンガ造りで木造でという、すごくすてきな建物の校舎なのですが、そこで何とか環境整備をしようということで、花をたくさん植えていい環境にして子どもたちに生活してもらいたいというところで、教育委員会の方でもお話しいただきまして、小関先生に入っていたいて、園芸科ですかね、樋口先生においでいただいていたところからスタートしたかなと思っています。

そうしているうちに岩佐先生とご縁がありまして、本校は道徳をしているのですが、言葉ということで、私自身、子どもたちにさまざまな詩とか論語とかを与えていまして、何とか子どもたちの心の中に響くような教育をしたいなということでやっていたところ、昨年朝の時間を利用して学生ということで、本年度は毎週火曜日になっていまして、お世話になっていまして。

その活動を見ていく中で、学生が本当によく変わってきているというか、変容しているなという姿を見ることができましたし、子どもとかかわりも随分深くなってきているなということがあります。だから本年度また1年、とても楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

《岩佐》ありがとうございます。では、大学内の外部評価委員会ということでお引き受けいただいた村岡助教です。村岡先生は、大谷先生と私は英語コミュニケーション学科に所属しておりますが、その英語コミュニケーション学科の中で教職課程の科目も担当していただくお立場で、しかもKEES、恵話会の学生たちと大変近く接して下さっていまして、昨年2月の報告会もすべて見ていただいて、その後の学生の成長についてもいろいろと励ましをいただいている同僚の一人です。先生も自己紹介をお願いいたします。

《村岡》3年前から恵泉に入りました村岡と申します。よろしくお願いいたします。私も大谷先生と同期です。今、入試広報の仕事をしておりまして、その関係上、大学を広報するとき、または英コミを広報するときに、一体どういう魅力があるのかと考えたときに、やはり岩佐先生がやっていらっしゃるKEESというのが、本当に英コミの大きなアピールポイントだなと思いついて、その辺から何をやっているのだろうという感じで興味を持って、見学をさせていただいていたのですが、そこに入っている学生が、やはりほかの学生と違うなというのを本当に私は感じて、なぜ違うのだろう、なぜなのだろうと。そこがすごく知りたくて、顔を出したり、学生から様子を聞いたりしています。本当に日々の活動の訓練の積み重ねが学生の成長につながっていて、自信も付いている。そういうところから違いが出てくるのだなということが最近分かってきて、今後はこれを恵泉の良さということで、もっと広報活動に活用できたらなと思っております。

## II. 取組について（説明と報告）

### 1. 委員会の目的と流れについて

《岩佐》次の「取組について」の説明と報告に移りたいと思っております。いろいろと先生方が、学生の成長についてお褒めの言葉をく

ださしまして、本当にありがたいことだと思います。それもやはり、私どもは日々、授業だけでは何か足りないかもしれない、人とかかわりを何とか学びにつなげることができないかということで、今回のような申請をしたので、まずはこの評価委員会の目的についてご説明させていただきまして、次にプロジェクトの概要にいききたいと思います。

本日は第1回目ということで、顔合わせと今後の方向性について共有するというのがまず一つの目的です。2点目の「評価の観点と方法」ですが、このプログラムの目的ですね。申請書にもございますが、こういった目的についてどのようにお考えになるか、実施体制ですとか、教育の内容や方法、このような八つの観点からいろいろなお意見をいただきたいと思っております。

例えば3番目にあるような「教育内容および方法」については大変ご足労をおかけいたしますが、学生の生の活動をご覧いただいて、例えば城山小学校ですと、手塚先生には、学校の中で学生がどのように活動しているかをご覧いただく機会を通して評価していただければと思います。できましたら施設や大学内での発表などにもおいでいただけると大変ありがたいと存じます。これについては年間の予定をまた別途お知らせするので、最後の報告会以外にも、先生方にご覧いただきたいと願っております。

4番目は「教育の成果」として、です。これは活動を視察していただくことに併せて、学生とじかにお話ししていただけると、学生にとりましても大学の中で引き出されるものとは別のものが引き出されるのではと思いますので、ぜひともそうした面談の機会を持っていただければと思います。

5番目としては、学生の支援体制として、私どもの働きかけがどのように有効であるか、あるいはどのような点を改善すべきか、ということについてご意見をいただき、改善のためのシステムとして組織化をどのようにすべきか、管理運営についてはどうか、最後には情報公開は適切かどうか、頻度ですとか、その内容や方法などについてご意見をいただきたいと思っております。

この評価していただいた結果なのですが、1.から3.までござい

## 外部評価委員会 評価計画について (案)

### I. 外部評価委員会日程 (2010年度)

- |                    |                            |
|--------------------|----------------------------|
| 第1回：2010年6月26日 (土) |                            |
|                    | 評価委員会 10:00~12:00          |
| 第2回：2011年2月19日 (土) |                            |
|                    | 恵泉地域言語活動研究会報告会 13:00~15:30 |
|                    | 評価委員会 16:00~18:00          |

### II. 評価の観点と方法

1. プログラムの目的
2. 実施体制
3. 教育内容および方法 ⇒ 施設や学校での言語活動および大学内での発表会を視察
4. 教育の成果 ⇒ 活動視察と学生への聞き取り
5. 学生支援
6. 改善のためのシステム
7. 管理運営
8. 情報公開

### III. 評価結果の整理と最終報告書の作成

1. 上記8項目について、2月19日の委員会にて資料を参考とした懇談により評価と助言を行う。
2. 懇談内容を文章化し、報告書にまとめ、改善点を明確にする。
3. 改善への助言を評価以降のプロジェクトに反映させる。上記1~3.に準じて2011年度も評価活動を継続する。プロジェクト最終年度末である、2012年3月に、3年間のプロジェクト評価を行い、報告書を作成する。

ます。これは案ですが、この評価委員会で、それまでの資料を基に、このような懇談の形でご意見をいただいて、その助言内容をまた文章化し、報告書にまとめたいと思います。その中に、助言の内容を次年度に向けてどのように反映させていくかということ、何を明記した上で、それを基に次の年度また活動を継続するといったことで、このプロジェクト自体は2012年3月に終了いたします。

イメージとしては、先生方のお手元にお配りした資料の中に大学の、また別の、特色GPに採択された体験学習のプログラムがあるのですが、この報告書のようなものを作るということを最終的な目標にしたいと思います。この報告書の79ページをご覧いただきたいのですが、外部評価委員の方々と恵泉の教職員がこのように一堂に会して、懇談のときを持って、そこで評価を終了すると。こういった懇談の場面もすべて記録として残したいと思いますが、このような流れで評価を行いたいと思います。大まかな部分について、もしご賛同いただけましたらこの方向で行きたいのですが、何かご意見なりご質問なりございますか。

《一同》結構です。

《岩佐》では、日程についてはまた先生方のご都合を伺いながら、報告会と評価委員会を別にすることも含めて考えたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

## 2. プロジェクトの概要説明

《岩佐》では、「プロジェクトの概要説明」に移らせていただきたいと思います。それについてはこの文部科学省に提出しました申請書をご覧いただきたいのですが、先ほどご説明したように、取組の代表者は学長の木村利人として、その取組の期間が21年から23年度まで、名称が「専門性を生かした正課外地域貢献活動によるマネジメント力の育成」ということです。この担当の教員の責任としては岩佐玲子、事務の担当の責任としては小關毅彦です。

取組の概要は、教職志望の学生をまず中心に考えております。それはこのプログラム自身、就業支援ということが視野に入っているので、教員志望の学生が教員になれるような成果を出したいということを目指して始めました。しかし最終的には、この大学全体の学生たちがそれぞれの目指す方向に向かって自主的・主体的に進めるようにということを目指しております。

教職志望の学生を中心にして、地域に出かけていく。その地域に出かけていく際に、特徴としてはチームで出かけていくということではなく、単独で施設でのボランティアをして帰ってくるということではなく、あらかじめ計画を立てて、何をやるか、目的をはっきりとさせた上で、チームの中で役割を共有しながら、あるいは分担しながら、目的を明確にして、継続的に地域に出かけていく。そして何をやるかということ言語活動。つまり教職の学生は、英語を教えるにしても国語を教えるにしても、いずれにしても言葉を使って言葉を教えますので、まず自分が使っている日常の言葉を磨いていくこと。そしてその言葉を通して、先ほど手塚先生もおっしゃいましたように、心に響く言葉、あるいは自分自身が発した言葉によって、どなたかが何か明るい希望を持つ。そういう言葉の力というものを自分の力の中心に据えることができるように、それによって社会貢献ができるのだということを自覚できるような活動。しかも社会に出たときに全く違う価値観の方々、あるいは境遇の全く異なる方々とも共に生きていく人間的な力を養うために、「マネジメント力」という言葉を使いましたが、このマネージというのは、もともとは馬を手なずけるという言葉が語源にはあるそうなのです。ですから何とかやっつけていく、何とか困難を乗り越えながら共に進んでいく力として、ここではマネジメント力と使っております。

そのために学生は、日英両語で明瞭に発音できるような言葉の練習、読み聞かせ練習、さらに指導案や企画書を作成する、会場

を設営して司会をしたり、その裏方を担ったり、初めて出会った方とどんな温かい交流ができるのか。そういったことを繰り返し繰り返し行いながら、自立できる社会人に育てることが目的になっています。

そして最終的には、反省会も含めて、組織の運営にかかわりながら、質の高い言語活動や交流会を創造して、地域で活動することに喜びを見いだすような学生を育てたいと考えております。そのために1年間で、ここには12回の活動を目標として掲げました。さらにA4サイズ1枚に毎回報告書をまとめて、それを3分以内で口頭で伝えるということを繰り返し行います。このA4サイズ1枚の報告書については報告書の書式を決めて、訪問したらその3日以内ぐらいに、各コーチの方にまずメールで報告書を提示します。その繰り返しで表現力と行動力を養成するという行っております。

これが全体の取組の概要です。取組の実施体制としては、言語活動研究会としての大きな枠がありますが、そこにかかわっていただいている地域の施設としては、ご覧のように島田療育センターですとか、多摩市の小学校、稲城市の小学校などがございます。

今後は海外の日系の施設を訪問して、今磨いている、今喜んでいただいているものを、またさらに、日本の昔話やわらべ歌などを海外の日系人の方にも喜んでいただけるようにという視野の下でやっております。

最後に、申請のための経費ということで、設備用品費から、人件費、旅費などの内訳が入っております。取組全体に関してこのような補助金を頂きながら、この公的な支援を、学生の成長と地域の活性化、そして地域の学校の教育の支援に生かしていきたいと考えております。以上がプロジェクトの概要です。

何かもし先生方からご質問がございましたらお答えしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

### 3. 質疑応答

《手塚》質問というよりは、学生に毎日来ていただいています、私などは学生が来てくれたら、朝、子どもたちにとってはいい時間になるという。それから若い先生にとっても、例えばわらべ歌とかを歌うというのは、なかなか現場の新卒の先生は、ほとんど身に付けていない状況で教員になっている人もいます。だから、逆に学生から、先生たちがとても刺激というか、学んでいるなどという部分もあって、その裏にはこういうような狙いがあったと、なかなか共感したというか。やっていて、毎回レポートをこれだけやっているというのは、すごいな、だから力が付いていくのだろうと、今、本当にそう思いました。

《岩佐》ありがとうございます。実はこのプログラムはあくまでも地域貢献であり、奉仕活動と位置付けておまして、これを行ったことによって単位がもらえるとか、そういうことはつながっていないのです。あえてそれを切り離しております。もちろん大学の中にはコミュニティ・サービス・ラーニングというキャリア教育がございます。ですから、それとの連動も今後考えていかなければいけないのですが、今回、この学生たちの活動の出発点が、先ほどご覧いただいた恵泉と稲城市の教育委員会との教育提携がございます。稲城市の教育委員会のご理解で、学生が少しでも育つような場を提供しますとご提案くださりまして、それによって教職に就こうとする学生たちが、教育実習に行っただけでは教育というものについて、あるいは自分の適性について十分に考えることが難しいので、できるだけ大学に入学した直後くらいから少しずつ現場にということで始まりましたので、単位というよりは自分の勉強のため、その場をいただくという方向性でまいりました。

《山口》私は報告会や英語の先生たちの研修会で学生の活動を見せてもらうのですが、それはもう報告会など、成果の発表ですよ

ね。その過程の部分があまり分からないのですが、そこで、先ほどの説明にありましたが、活動の仕方とか、ぜひ見せていただきたいと思うのですが、恐らく学生の活動が終わっての感想でしょうか、その中に、「KEESの英語学習をして私が学んだことは、事前準備と練習量の重要さ」と。ここにすごくポイントがある、ここにきつと力を注いでいるのだろうと思うのです。そうでなければ、あれだけの質の高いものにはならないと思うのです。

もう一つは教職を志望している学生ということですが、例えば一番大事なミッションになったときに、いわゆる精鋭だけでやっているのか、または広く教職を希望している学生にこういう活動をやらせているのか、そのあたりをちょっとお聞かせいただきたいなと思ったのですが。

《岩佐》こちらの、先生がご覧いただきました学生のスケジュールというページがあるのですが、学生が事前にどれだけ練習しているかということについてなのですが、今、学生は、やはりアルバイトをしたり勉強したりということで、かなり忙しい学生生活を送っております。さらに、例えばチアリーダー部や音楽関係のサークルに入りながらこの活動をしている学生もいるので、そういった自主的に始めたアルバイトやサークルはやめなくて、何とかこれもできるような体制を考えました。

そのために何を考えたかということ、お昼休みなのです。このスケジュールにありますように、お昼休みのところにKEESトレーニングが2回、この年度は火曜日と木曜日にやっております。現在もKEESについては2回やっておりますが、できるだけ短い時間で、限られた時間で集中して、その時間内で何とかやっていくという習慣付けをしております。限られた時間でしか集まれないので、ここでしっかりと集まって、打ち合わせをして、さらに役割分担をして、次のときまでにそれぞれが準備してくるという、そういったことを繰り返しております。

もちろんこれだけでは足りませんので、足りないと感じたら、では自分のチームはいつ集まるかというのをそのチームごとに調整して、放課後ですとか、学生たちがそれぞれ自主的に時間を練り合わせて、この指導者がその時間に合わせていくという。指導者の時間に合わせて学生が集まるというよりは、学生の時間に合わせてアドバイザーたちがそれぞれチームを見るという形を取っています。

ですから、事前準備の時間は、やはりそれなりにかけております。ミーティングについても、流れをあらかじめ会長が決めるのです。それで黒板に、今日は何と何をどういう順番で何時までにやると書き出して、それに合わせて学生たちが動くということで、たかだか30分なのですが、かなり中身の濃いトレーニングができます。あと、打ち合わせが大切ですので、そういったことで時間はそれほどなくても密度の濃い時間を過ごし、あとはそれぞれの時間をという意味でやっていますが、実際には、学生は本当に大変な思いをしているようです。

この大学の教職課程は卒業に必要な単位以上に教職の単位を取らなければいけないのです。ですから一般の学生よりはかなり忙しい上に、この活動が入りますから、それは大変なようですが、仲間がいるということと、地域に行けば子どもたちや先生方いろいろと教えていただけるということで随分励みになっています。

少数精鋭なのかどうか(笑)、見ていないのですが、やはりモチベーションの高い学生が集まりますので、そういう意味では精鋭になると思います。しかし、その学生たちの様子を見て、教職に就こうか、あるいはどんな職業に就こうか、まだ決まっていない学生たちも、学生生活を充実させたいから入らせてくださいという学生が、特に今年になって増えてきて、本来は2年生からではないと始められない仕組みになっていたのですが、1年生が今年は随分見学に来て、見るだけでもいいので入れてくださいと

いう学生が増えてきました。

そして、後ほどまたご説明しますが、留学生もこの活動に関心を持っていて、中国ですとか韓国の留学生が、日本語を勉強したいので、日本語でお話が語れるようになりたいということが入ってきました。

《手塚》今、留学生の話が出て、ちょっといいですか。せっかく韓国の方だったので、担任が国際理解にとっても関心がある先生だったので、すかさず、「韓国では、『ありがとう』とか、どういう言葉を使うのですか」と言ったのです。だから、せっかくそういう方が、日本語を学んでいる方だと思うのですが、自国の言葉で何か語りをしてくれたり、本を読んでくれたら、多分子どもは韓国語など全く分からないのですが、リズムで、「ああ、そういうリズムなのか」というようなことが理屈抜きで入っていくかなと思って。ちょっと本人とも話をしたりもしたのですが、逆にリクエストもできるといいなと思っています。

《岩佐》やはりリズムを体験するというのが、特に外国語を学ぶときに重要な点だと思うのです。中国語のリズムとか、韓国語のリズムとか、大学の中にはアジアのほかの国々からの学生がいますので、できればそういう形で参加できるといいかと思います。

《岩佐》では、この後、まだ活動報告ですとか、KEES、恵話会からのそれぞれの報告がございますので、先に進めさせていただいてよろしいですか。

#### 4. 活動報告

《岩佐》それでは全体を映像でご覧いただきたいと思います。最初に、多摩テレビのスクール通信に、この3年間の学生の地域の言語活動が合計5回ほど番組化されています。その中の幾つかから3分ほどダイジェスト版をご覧いただけます。

\*\*\*ビデオ上映\*\*\*

《ナレーター》恵泉女学園大学の英語サークルKEESは、発足して3年目を迎えます。その始まりは、稲城市内の小中学校の英語教育を補助するボランティアというものでしたが、活動を重ねていくうちに、今では稲城市以外の学校からも要請が来るようになり、学生たちはより良い英語活動に向けて修練を積んでいます。

恵泉女学園大学の昼休み。いつもなら昼食を取りながらくつろいでいる学生たちですが、この教室では少し様子が違います。ここに集まっているのは、この春発足したサークル、恵泉お話を語る会、通称恵話会のメンバーです。メンバーとなるのは、恵泉言語活動研究会、KEESの学生と、小学校英語活動の指導者を養成するニーズの修了生、そして国語科教員免許取得を目指す学生たちです。週二日、昼休みの時間に活動を行っています。昼休みの時間は限られています。食事もしこそここに活動が始まりました。(中略)

《ナレーター》恵話会は日本語の言葉の温かさや豊かさを身に付け、その楽しさを地位の学校や施設に届ける活動を行っています。とはいえ、この春発足したばかりなので、ただ今そのプログラムに合わせて、施設訪問に向けた練習の真っ最中です。(中略)

《学生》忙しいのは忙しいのですが、大学生はやはり休み時間もいっぱいあるので、その時間をすごく有効に使うことができるのと、たくさんの人とかかわることができたり、地域の方々といろいろなコミュニケーションを取って、いろいろなお話を聞かせていただくことができるので、すごく充実しています。(中略)

《ナレーター》言葉の温かさが、温かな人間関係をつくり、平和の実現に貢献しているという意識を多くの方に実感してほしい。そんな思いで発足した恵話会は、現在、地域の子どもたちを対象にした活動を行っています。これからの活動では、高齢者や海外

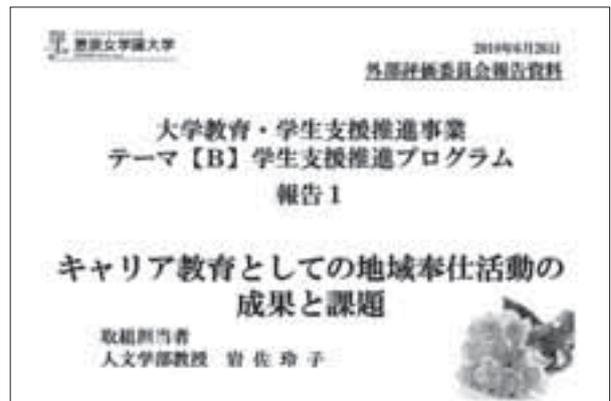
に住む日系の方にもお話を届けていきたいという考えもあり、生まれたばかりの小さな泉が描いていく波紋は、大きな広がりとなっていきそうです。

\*\*\*ビデオ終了\*\*\*

今ご覧いただいたように、学生たちがお弁当を食べたり、何かをしながら話し合いをし、その後すぐに輪を作って練習をするといったトレーニングを昼休みに行っています。

次に、このプログラムについて5分ぐらいでご説明させていただきます。

《以下、スライドを見ながら説明》



専門性を生かした、正課外で、地域貢献活動によってマネジメント力を育成するというプログラムです。

三つのサークルから成り立っています。KEES、恵話会、そして小学校英語活動指導者養成講座（ニーズ講座）の社会人の皆さんです。小学校の先生方が多いのですが、2008年9月から開講さ



れました。

この三つのプログラムの中で、特に学生の二つのプログラムでは、社会的マナーやチームマネジメント力を育成する、チームで取り組むということが重要なポイントになっております。



KEESの活動は、これは長峰小学校の校長先生がギターを持って登場していただきまして、英語活動の中でビートルズをやりました。このようにして学生たちがチームで子どもたちと触れ合っています。



恵話会は、多摩市にある白楽荘で高齢者の皆さんとわらべ歌やお話を楽しみ、その後はグループに分かれてお茶を一緒に飲みます。そこでいろいろなお話を楽しみ、最後に施設の担当者の方と反省会をいたします。次回はこういうようなところに気を付けた方がいいというようなアドバイスをいただきます。



ニーズ講座では、地域の英語活動の専門家であり、しかもさらに勉強したいという方々と一緒に学生が活動するので、プロの技を近くで見せていただきながら一緒に目的を達成するということ

をしております。



私たちは名称が長いものですから、恵泉地域言語活動研究会をKEISEN ANGELSという一つの愛称にまとめました。平和の天使という意味なのですが、八王子市、多摩市、稲城市の3市にまたがって、15の小学校、中学校、施設に、いろいろな形でかかわらせていただいております。

### 地域奉仕活動を通じたキャリア教育 (2年間)

- 社会的マナー**
  - 挨拶、服装、礼状の書き方、電子メールの常識
  - 報告書作成の基本、正しい履歴書の作成
  - 報告・連絡・相談(ほうれんそう)の習慣
- コミュニケーション能力**
  - 表現力、理解力、想像力、交渉力
- 人間性**
  - 協調性、自主性、柔軟性
  - ファシリテーター型リーダーシップの涵養

このキャリア教育は三つの柱がありまして、2年間にわたって社会的マナーをしっかりと身に付ける、コミュニケーション能力を高めていく、さらにそれによって人間性を豊かにするという事で、社会的マナーの部分はスキルが多いのですが、挨拶から服装、礼状の書き方、電子メールの常識。例えば自分の名前を名乗らずにメールをただ送り付けるということから始まりますが、相手の名前、挨拶を入れて要件をと。そういったことをできるだけ詳しく行っていきます。

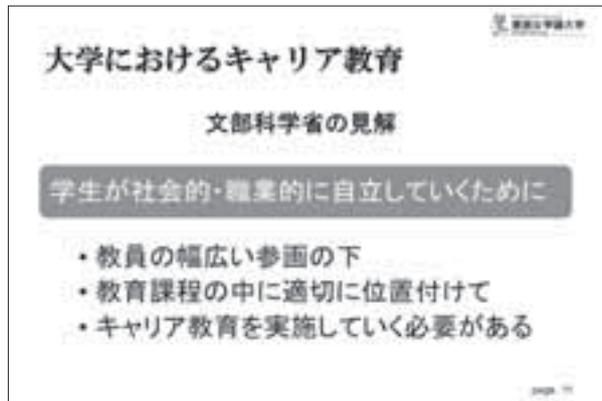
### 恵泉地域言語活動研究会の理念

**愛 平和 感謝**

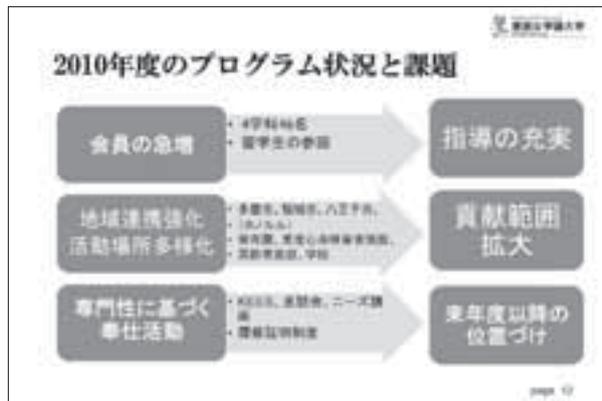
伝える力、つながる力  
奉仕者として世界に貢献する人財の育成

この活動研究会の理念は、恵泉の大学の建学の理念、学園の理念と一致しております。愛と平和と感謝を、言語活動を通して実

践する、これが最終的な目標なのだということを繰り返し伝えます。それによって学生たちは、自分の思いを伝える力や人々となつながら力、仲間となつがっていく力を見つける。最終的には奉仕者として世界に貢献する人材となることを目標にしています。たとえ地域で活動していても、それはささやかではあっても確実に平和を作っている仕事なのだという自覚を、一つ一つの異なる活動の中に感じ取るようにしています。

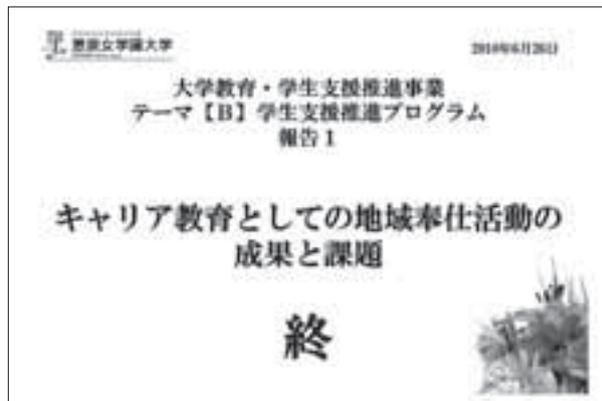


大学におけるキャリア教育の必要性が文部科学省から明確に示されています。自立していくために、教員の幅広い参画の下に行う必要があると。



2010年度のプログラムは会員が急増しました。当初1学科13名から始まりましたが、4学科26名、留学生も含まれます。地域の連携が強化され、活動場所も多様化しました。専門性に基づく奉仕活動として会がどんどん大きくなりまして、それが大学の履修証明制度というカリキュラムにも連動していきました。

最後の2010年度のプログラム状況と課題なのですが、今後、指



導をさらに充実させなければいけないということ。地域貢献の幅が広がってまいりましたので、さらにそれを、必要とされるところでできるだけたくさんの方が学生がかかわることができるようにと考えております。最終的には、これは大学内の問題ではありますが、来年度以降、これをどのように実際のカリキュラムと連動させていくのか。あるいはさらに多くの大学の教員が、どのようにすればかかわっていくことができるのかというような位置付けについても今、課題が浮かび上がってまいりました。

ということで、これが成果と課題という部分でのご報告です。

次にKEESと恵話会それぞれの会から報告してもらいまして、その後質疑応答に入り、少し休憩を挟んでまた懇談に移りたいと思います。ではKEES、恵話会の報告をお願いします。

## 5. KEES・恵話会報告

《須藤》では、KEESについて須藤からご報告させていただきます。お手元の資料に、「2009年度 学生と社会人による学習補助および英語活動コンビネーションスケジュール」ということで、学生が2009年度に活動していた稲城の長峰小学校、それから第一小学校、第三小学校、第七小学校の、13回、もしくは12回の中で、学生は学習補助と英語活動の支援ということで活動しました。それに当たってトレーニングということで、先ほどご説明したお昼休みに、週に2回、火曜日と木曜日ということで、2009年度の春学期と秋学期の「年間トレーニング合計時間」が右の最後に書いてありますが、これをトータルしますとおおむね58.5時間。年間にこれだけのものをしていただけだと、私も発見しました。

今年度は2010年度ということで、稲城市は長峰と第一小、そして今回初ということで多摩市の西愛宕小、こちらの3校に学生が学習支援と英語活動でお伺いしています。そして、それに向けてのトレーニングということで、この最後のページがひとまず今年度のトレーニングの内容と日程になっております。

最後に、学生が提出してきた報告書の例が少しあります。そこを少しお伝えしたいと思うのですが、その中に「この活動を通して自分を大きく変えてくれる学校という大きな存在に、私はあらためてすごい場所なのだと思います」。こういった感想もあります。そして、その次の報告書、こちらは最後の英語活動を終えて書いたところで、「最後の英語活動は児童と一体になって授業を作り上げたという実感があった」「授業は教師と児童の信頼関係がなくては実現しないのだと感じた」「これから教師を目指すに当たって、もっと英語活動について学び、自身の勉強も深めていき、将来は必ず教壇に登りたいと強く感じた」とまとめておりまして、本当にコーチとしても、現場の先生方にもお世話になり、こういう思いにまでつながられた、喜びです。以上です。

《岩佐》ありがとうございます。引き続き恵話会の方の報告をお願いします。

《佐藤》通常、恵話会は主に馬郡が担当させていただいておりますが、今日は私、佐藤が代わりにご説明させていただきたいと思っております。

「内容」の1番目、「毎回の活動」についてですが、先ほどの説明にもありましたように、好きな絵本、わらべ歌、詩、お話を毎回交代で発表し、みんなで一緒に楽しむという内容です。そして勉強会として、作品研究や絵本やお話についての参考図書レポート、意見交換などを行っています。勉強会というとちょっと固い感じがするのですが、そういう固い感じではなく、みんなが円になりまして、奉仕活動先で発表する際の練習などを今はしております。そして学生自身が、ほかの学生のお話を聞いてどう感じたのかといったことをみんなの前で口頭発表する場を設けています。また、自分の意見を相手にどう伝えるのかというの

も言語活動の大切な要素の一つと考えて、私どもコーチと併せて取り組んでおります。とにかく楽しむということがまず第一だと思っているので、カジュアルな感じで行っています。こちらには書いていないのですが、恵話会も学生が会を運営しているのので、文科省に提出させていただいた申請書にもありましたが、学生が会の準備や運営を行っております。

そして、「内容」の2番目なのですが、「奉仕活動、発表」として、2009年度は四つの場所で学生が奉仕させていただいております。先ほどお話にもありましたように、今日は手塚先生にもお越しいただいておりますが、城山小では昨年度も、今年度も、春学期には6月、秋学期には10月から12月にかけて、毎週学生が小学校に行かせていただきまして、朝の読書タイムと学習支援などをさせていただいております。

最後に報告書がありまして、この学生は城山小の3年生の女の子に、「いつになったら城山小の先生になってくれるの」と言われて、それがとても心に残っていて、彼女の成長にもつながっているのではないかと感じております。ですので、また報告書もご一読いただけましたらと思います。そのほかにも多摩市の白楽荘、多摩市の島田療育センター、こころ保育園なども、地域奉仕の場所として伺わせていただいております。

2010年度の内容は、2009年度と内容はほぼ変わらないのですが、今年も四つの場所で地域奉仕をさせていただくことになっております。今年度は恵話会が発足して2年目になり、2年目の学生が18名、1年目の学生が28名ということで、4学科を越えて留学生も合わせて合計46名の学生が活動しております。恵話会の内容にもありましたが、お話や語りなどを通してみんなで一緒に楽しむということを根底に置いて、さらに充実した活動を今年度も行ってまいりたいと思っております。以上で説明を終わらせていただきます。

## 6. 質疑応答

《岩佐》どうもありがとうございます。資料が大量になりましたので、先生方にお目通しいただくのにかなりお手数をおかけしますが、何かご質問などございますか。

《手塚》どれを語ったり、暗唱したり、読み聞かせるという、そのセレクトは誰がなさるのですか。

《岩佐》学生ですね。ただ、例えばこの間、今年4月に入ったばかりの、読み聞かせを初めてする学生が城山小学校へ行ってさせていただくときには、まずは学生が選んで持ってくるのです。ところが、経験がないとどんなものがいいかが分かりませんので、ある学生は赤ちゃん向けの絵本のようなものを持ってきているそうです。3年生は低学年ということで、大体これがいいのだろうと選んできたようなのですが、コーチがそれを見て、これは就学前の子どもさん用だから、これはどうかと、幾つか選択肢を与えて、その中から学生が選んでいます。

《村岡》小学校とかからリクエストはないのですか。こういうのをやってもらいたいとか。

《岩佐》それは英語活動でもありますよね。何かこういうテーマとか、そういうのは特にはないですか。

《須藤》英語で絵本をたくさん読んでほしいという希望はよく上がります。

《佐藤》KEESについては目標言語があらかじめ学校の方で決められていることが多いので、例えば『英語ノート』を順守して、4月だったら、今日は「How are you?」にしましょうとか、そういうのがあるので、それに沿った絵本を選ぶということでは、こちらの方であらかじめ合わせていただいております。

《岩佐》それから、この後多摩市のこころ保育園での読み聞かせの会をするのですが、それについては事前の打ち合わせの中で、

園長先生からアニメのようなものではなくて、どちらかという心に残るようなものを厳選してほしいというご要望があったようです。基本的には、あまり戦うものとか、そういう子どもたちがテレビで親しんでいるようなものではないものをお願いしたいというようなご要望はあったようです。

《手塚》今の話に関連するのですが、私などは逆に日本の良さとか、文化を伝えていく場所にもぜひ使っていただけるとありがたいかなという思いですね。わらべ歌とか手遊びとかは、今の若いお母さんたちはもうほとんど知らない。学生の方がきつと練習してご存じだと思うのです。だから、ぜひそういう伝承遊びみたいなものはぜひ、なるべく欲しいなと思います。

《岩佐》確かに学生が恵話会に入って、短い時間の中で新しいわらべ歌をするのですが、例えば「ずいずいずいころばし」は聞いたことはあるけれども、どういうふうにするかがよく分からないという学生が何人かいました。そうすると、人に教えたり、人の前ですることは、やはりトレーニングが必要なのだなと。

《手塚》余談ですが、つい先日、道徳の時間に自然愛護の価値ということで、尾瀬ヶ原の風景からその話に入って行く中で、担任が最初の導入で、「夏が来れば思い出す」をずっと流したのです。子どもに「この歌を知っていますか」と言ったら、知っていたのは30人の学級で1人だけでした。しかも、そのときは研究授業の事前授業で、たまたま恵泉の学生がいらっしやっているときに、他大学のサービスマーケティングの男子学生たちも同じ日なのです。その彼と、クラス担任と、学年の担任と、私と、副校長と、ゲストティーチャーも呼んでいたのがゲストの方もいて、私たち年配者はみんな知っていたのですが、20歳の学生も知りませんでしたね。

《岩佐》そうですね。「夏の思い出」という曲ですよね。

《手塚》はい。だから、逆に学校はいろいろなことを伝えていく義務もあるかなとあらためて思ったのです。ポピュラーな曲ですら学生は知らないのだということを認識しました。ましてやわらべ歌とか手遊びなどというのは、20代、30代のお母さんたちはもっと知らないかなと思って、そういう前提でやっていかなければいけないかなと思っています。

《岩佐》恐らく誰かに歌ってもらったことがあれば分かるのだと思うのですが、ただ通り過ぎる音楽の中に入っている分らないかもしれませんね。ですから、生の音声でじかに伝えるということがとても重要ですね。その先生の授業の取組も素晴らしいですね。最初に音楽から導入を。

《手塚》尾瀬の美しい自然、それで物語が始まるのですが、さらに地域のボランティアで、地域で自然を愛して、野草を育ててという会の、八十幾つのおばあちゃんですかね。自分たちの思いを語っていくのです。

《岩佐》では、最後に大谷から、全体をもう一度まとめの形でご報告させていただいて、その後は懇談に入りたいと思うのですが。

《大谷》3人のプレゼンテーションの後ですので、そんなにお話しすることはないので、私は地域言語活動研究会のプログラム開発を担当しています。今日は3冊、先生方のお手元に用意させていただきました。これまでのお話と重なっていない部分ということで、大学と地域がどういうふうに関係しているのかとか、社会の方が大学に勉強にみえていますが、社会人と学生がどういうふうに関係を深めていくか、そういった観点から少しお話をさせていただきたいと思います。

まず地域の方についてです。このパンフレットの一番後ろに、勝俣ご夫妻というお二人のメッセージをいただいているのですが、地域言語活動研究会の地域というのは、地域に学生がボランティアで何うということもありますし、地域の方に来ていただいてお話を伺う、講師を務めていただくというようなこともしています。勝俣ご夫妻は海外で紙芝居を読んだりという活動をされていて、

講師として来ていただき、お話を伺いました。また、長崎の被爆体験された地域の方にも、お話をさせていただいたこともございました。

さらには、KEISEN小学校英語活動指導者養成講座（ニーズ講座）を修了された方の中で、さらに大学で児童英語の授業を受け、トータル120時間を修めると文部科学省の履修証明書を取得できるのですが、その目標に向けて勉強している3名が、今週城山小学校に伺って、英語活動をさせていただきました。このような社会人の人たちは、学生が受ける児童英語の理論や実践の授業と一緒に受けながら学んでいっています。

山口先生のところでは今度、学生ボランティアがお世話になりますが、そのうちの一人は今教育実習中として、私も授業を見に行ってきたのですが、生徒との距離の築き方がとても上手でした。彼女の担任だった先生にちょうどお会いしたのですが、高校のときはそんなに人と付き合うのが得意ではなかったというか、「苦手だった」とははっきりおっしゃったのですが、その彼女が大学に入って随分変わった、ということでした。彼女も、KEESの活動で長峰小学校に行き、そういった活動の中で、どうやって子どもと接すればいいのかわかってきた、それが生かせてうれしいというようなことを口にしていました。

このように地域の学校に学生を派遣させていただくことで、学生は学びを深めて、それをまた大学の勉強とリンクさせて、目標に向かって頑張っているというのを感じています。

《岩佐》ありがとうございます。

では、先生方も少し休憩していただいて、残りの時間は自由な懇談の時間にしたいと思います。

### Ⅲ. 懇談

#### 1. 評価と助言

《岩佐》では、後半が始まりましたが、どうぞまたよろしく願いいたします。懇談ですので、先生方のご感想や率直なご意見などをお願いしたいと思いますので、どうぞご自由にご発言をお願いいたします。

《手塚》では、最初に。去年から来ていただいた学生ですが、何とも雰囲気のある方で、「ああ、コミュニケーションは大丈夫かしら」と。ところが、今年、「外郎売（ういろうり）」を教室でやったら、人間誰しもそうですが、いろいろな面を持っているのですが、「へえ、全然去年の印象と違うな」という印象を受けたのです。だから人前で何かを自分でやると決めたときに、自分の良さを出せるというのは素晴らしいなと思って。すごくその姿を、子どもの前だとすごく堂々とやれているなと今回は驚きました。あれだけできる人が、これからどんなふう豊かにしていけるのかなと、とても私は興味があります。

《岩佐》ご覧いただいて、ありがとうございます。

《手塚》良い面を見たなと思って。それが自分の生きる力として日常的に、社会人になったときに、どういうふう育っていくのかなというので、すごく面白いなどと言うと失礼ですが、成長がとても楽しみです。

《大谷》それで、「外郎売」を聞いた児童の反応はどのような感じでしたか。

《手塚》子どもたちはこんな感じでしたよ。ただ、全然分からないのです。全くゼロのところではぼーんと入ったときに、それなりの時代考証とか、その辺はあった方がいいのか、それこそぼーんと出してしまった方がいいのか、その辺はこれからの課題かなとは思っています。特に3年生でしたので。

《岩佐》では説明はなしに、いきなり。

《手塚》私は途中の場面だったので。時間の設定だと、多分なか

ったのかなと思うのです。できたら、せっかくあれだけの口上は楽しいので、最初に彼女がぱっと全部やったとしても、少しずつに区切って、子どもたちに練習させながらやって、最終的に子どもができるようになったら、子どもがもっと受け身ではなくて楽しくなるかなと言って、そのゼロの子どもができるようになったというプロセスが彼女にとって、指導的な立場であるべき姿も一緒に学べるのかなと思いますね。

《岩佐》なるほど、指導者としてのかかわりへの意識ですね。山口先生は、いかがでしょう。

《山口》言語活動の報告会がありましたよね。学生が堂々と演じていたというのですか。それが大したものだと思います。あの堂々とした態度というか、それはどこから来るのかなと思って、やはり練習だと思えますね。今日は先ほど、学生が生き生きと活動していたと。それも全部つながっていくのだらうと思うのですが。

そして、普段の生活はまだまだということだけれども、きつとこの活動を通して、学生が人としても成長してきているのだらうと思うのです。

もう一つは、最初のところになると思うのですが、意欲というか、この取組そのものの質の高さを感じるのですが、学生の意欲の高さ。これもどこから来るのかな。報告会と一緒に参加しましたね、同じ学校の図書館司書の伊東先生と。後で二人で「これはどこから来るのでしょうかね」などと話していたときに、岩佐先生や先生方、スタッフの方の情熱であったり、お人柄であったり、そこも大きいのではないかななどと、二人で道々帰りながらそんな話をしたことがあるのです。

それがなければ、学生だけのサークルでしたら自己満足で完結してしまっておしまいなのですが、そうではない、もう少し先の高いところを目指すのだという先生方の意欲が乗り移っているのかなと感じます。

それとやはり、やってみて、例えば白楽荘へ行って喜んでもらえた。小学校へ行って、先ほどの、子どもたちが声をかけてくれると。そういう何か、やってきた成果が自分で実感できるものがあるから続けていける。それをどんなふうにとらえておられるのか、お聞きしたいなということと、村岡先生が広報担当ということですが、これだけ学生が生き生きとやっている活動は、そうなのではないですか、こういう形で。もう地域に出ていることそのものが、広報活動だと思います。そんなことを感じました。

《岩佐》ありがとうございます。小關さん、うれしいですね（笑）。

《小關》そうですね。確かに岩佐先生をはじめ、スタッフ、実際に学生たちを教えている人たちの意欲というのは、とても学生に伝わっている。それが学生を引っ張っていく力になっていると思っていますね。本当だと思います。けれど、どうやったらこの活動に関係ない学生をリクルートできるかが。大学の面白さ、良さを十分に利用していない学生たちに、どうやってもっと大学を利用してもらえるだろうかというところは、すごく思い悩むところですね。ちょっと話がずれてしまいましたが。

《岩佐》いえいえ。恐らく学生は意味を求めていると思うのです。その意味付けのときに、恵泉の理念はこういう理念で設立されていると。それは本当に普遍的な、大切な、高い次元のものだと。それが今やっている、プランを作ったり、ポスターを作ったり、みんなにピラをまいたり、平和だとか、愛だとか、感謝とか、そういったことにつながっているということを超えず伝えることで、学生は自分の中で価値を高めていくのかなと感じるときがあります。ですから、私たちの仕事は意味付けというか、言葉で何とそれをラベリングするか、それがとても重要なかなと。

それを感じるの、例えばマナーの訓練の部分に履歴書を書くというのがあります。学校に学生を送り出す前に、履歴書をま



ず鉛筆書きをさせて、それを修正するのですね。そのときに、例えば学生は自分の趣味などをカラオケと書いてしまったりするわけです。そうすると、それは正直で分かりやすいのですが、履歴書には歌唱とか、あるいは音楽とか、そのような書き方がありますよね。それと同じように自分の性格を書くときも、ポジティブと片仮名で書いてしまうのではなく、肯定的なものごとをとらえ、最後まで粘り強く取り組むとか、そういう言葉を与えると気付きがあるのです。ですから、こちらも言葉を与えながら、自分をどう新たに見直すかという伝え方をした上で送り出すと、やはり肯定的なという自分になって先生に接するような気がいたします。

その意味付けというのでしょうか、言葉によって顔が変わる瞬間があるのです。特に城山小学校に今年送っている低学年担当の学生は、教職の学生ではないのです。日本語教師になりたいという学生なのですが、最初に履歴書を持ってきたときに、「日本語教師になりたいので」としか書かなかったのです。それだと学校の先生はどう受け止めていいか分からないのではないかとこのことを言いました、子どもは好きですかと言いましたら、大好きです。では「子どもたちと接することを通して、将来どのように日本語を教えたらいいか学びたいので」と書いたらどうかと言いましたら、それがやりたかったのですと。

ですから、そういう形での学内でのサポートはとても重要です、そうやって送り出すことで、先生方がまた意味を付与してくださる。そういうやりとりがあることが重要なこと、今お話を伺って新たに発見しました。ですから言葉は大切です。

《村岡》恵泉の学生がこのように活動できるのは、やはり受け入れ先があることが本当に重要というか、受け入れ先がないと、いくら活動したくてもできないですよね。だから受け入れてくださっているというのは本当に感謝だと思います。でも、少し心配なのが、こういうふうに入れられることによって学校側の負担というのがありますか。それはいかがですか。

《山口》中学などは、いわゆる小学校の英語活動のようなものは違いますので、むしろこちらがお願いしている立場ですので、負担などは全然ないのですが、一つ、小学校の言語活動の中に入るときに、もちろん担任の先生がいるわけで、その担任の先生との連絡だとか打ち合わせとか、そのあたりを。もう45分の授業は全部学生で、一つの指導案の中でやってしまうのか、担任の先生と一緒に打ち合わせをしながらやるのか、そのあたりはどうでしょうか。

《岩佐》担任の先生ができるだけかわりながら、最終的には担任の先生をこちらがサポートするようなプログラムに作っているのですが、先生の取組によっては、ほとんどお任せしますという場合もあるので、やはり担任の先生との連携は今後重要なポイントになると思いますね。それがあれば担任の先生にとっても、ある意味やりがいのある学生受け入れの活動になっていくように、例えば報告書を担任の先生にお届けするとか、こまめに大学が連絡を取り合うというのが負担軽減になるのかなと思うのですが、先生はいかがでしょう。

《手塚》ほとんど負担感はないですね。むしろ学生に来ていただくことで、特にうちなどは終わった後、学習支援をしてもらっていますので。

今はもう小学校はいろいろなお子さんが入ってきているので、一人でも二人でも学生がいると、先生がとても助かるという状況です。朝の時間も、先生も一緒になって喜んで、わらべ歌や手遊びも一緒になってやりながら、それこそ先ほど言いました、若い先生が学んでいる状況もあるので。今はもう、昔と違って学校は開かれているし、逆にどんどん入ってくれることで先生たちも刺激を受ける部分があるかなと思っていますし、それはむしろありがたいと思っています。ただ、それが軌道に乗るまで、打ち合わせするところがなかなかあれですよ。軌道に乗ってしまうと全然、負担感はないですね。

《岩佐》やはりコミュニケーションが大切だということですね。

《村岡》先生たちが、例えばこのプログラムを利用するというか、受け入れたりするときに、例えばこういうものを読み聞かせますみたいなリストとかがあると、入試広報的に言うと、出前講座はパンフレットのようなものがあって、これと選べるようになっていないですか。ああいうものがあると現場の先生にとっては、これをやってほしいとか、見られて。そういうのがあると少し不安というか、多少はやはりあると思うのです。

《岩佐》それは確かに、やはり学校で行うことは教育活動ですから、授業との連絡がちゃんとできている方がいいですよ。

《村岡》何をという、その情報がゼロだと、探すのに苦労するというか。リストとかがあるとそこから選べる。先生が自分の教室や生徒に合わせて選べる、そういう何かがあるといいのかなと、ちょっと思ったのですが。

《岩佐》なるほど。そうすると学校のニーズに合わせた奉仕活動というところを、もっと意識化した方がいいということでしょうか。今はまだ、こういうものができますよと見ていただいている段階ですが、ではこんなことが教育には必要だから一緒にやりましょうと学校から提案していただいと。そのためにもレポートリストみたいなものですね。

《手塚》それはいいですね。うちは今年2年目なので、特に中学校の先生になりたいという方がいるので、できるだけその方には6年生に入ってもらおうと。そうすると小中の連絡が見られるでしょう、育ちが分かるでしょうということ、少し副校長が意図的に、その人たちは高学年に入ってもらおうという話もしているのです。逆に言うと、その人たちが高学年向けに何かできるものがあると、より意図的にかかわってもらえるのかなと。今、「ああ、本当にそうだな」と思ってお話を伺っていました。これと、これと、では計画的にやってくださいと言うこともできると思うのです。

《岩佐》計画的にというところも重要ですね。

《手塚》今のところは、今日は何をやってくれるのかなというのを楽しみではあるのですが。

《岩佐》どうもありがとうございます。リストですとか、いろいろな教育活動に計画的にかかわっていけるような準備ですね。そういったことも、今まで私たちの発想の中にはなかったかもしれません。

《山口》リストというのは面白いですね。レポートリストのような考え方というのは。でも、それは、それだけの、学生に価値観を与えておかないと。

《岩佐》今はどんな仕事に就くに当たっても、まず人物重視になってきましたから、試験でふるい分けるといよりは、面接が先にある企業も増えてきています。採用試験も、確か神奈川県は一次試験から面接が入ったと聞きました。ですから、どんな文章が書けるかということも大切ですが、まず人と最初に会ったときに

どう行動できるのかということも磨いていきたいと思います。

そういう意味でも、この言語活動は学生の成長のためにも生かしていきたいと思いますが、やはりそれを喜んで一緒に育てようとしてくださる地域があって初めて成り立つことなので、地域の方々がこの活動を理解できるような形での広報というのでしょうか、それがもっと必要なのかなと、今お話を伺って感じました。

新しい恵泉のパンフレットには、この活動を恵泉の特色の一つに加えていただきました。特徴として、一つ目が生活園芸、二つ目がフィールドスタディということで、主にアジアの国々に滞在して、現地の方々と生活や仕事を共にすると。そして三つ目が、KEES、恵話会の地域での言語活動ということです。こういうページの中に、ちょうど平和という言葉フラッシュカードで掲げているところが写真で載っていますが、こういう理念を大切にしながら、今後ともこの活動を深めていきたいと思っています。

今日は10時から12時ということで、既に時間が過ぎておりますが、本当にありがとうございました。貴重なご意見をいただき、

私どもはこのようなプログラムを、しかも外部の評価の委員の先生方からご意見をいただくというのは初めてでしたので、いろいろと準備の上でも不手際がございましたが、今回は率直なご意見をちょうだいできて、また次の展望が開けてきたという実感がいたします。本当に今日はどうもありがとうございました。また次回、よろしく願いいたします。



## 2009年度 文部科学省「学生支援指導プログラム 選定事業」 恵泉地域言語活動研究会 第2回外部評価委員会

日時：2011年2月19日(土) 15:30~17:30

場所：恵泉女学園大学 多摩キャンパスA203

### I. はじめに

#### 1. 取組担当者挨拶

《小關》今回の恵泉地域言語活動研究会、特に学生たちの活動についての外部評価委員会ということで本日第2回目を開催いたします。お忙しいところをご出席いただきましてありがとうございます。

既に皆さんそれぞれお名前、前回は一緒にしたから分かっているかと思いますが、一言ずつご挨拶ということで、最初に取り組の中心というか、前回までは岩佐が直接の担当者ということで活動しておりましたが、今回から大谷が中心担当者になって活動を計画しておりますので、まず大谷から一言ご挨拶をさせていただきます。

《大谷》本日はお忙しい中ありがとうございます。また、報告会に引き続いての外部評価委員会となり、長時間お付き合いいただきまして大変恐縮です。今、小關から説明させていただきましたが、岩佐が本年度でこの会を離れることになりまして、私の方で引き続き担当させていただくことになりました。この件では、先生方には大変なご迷惑とご心配をおかけすることになりましたことをまずお詫び申し上げますとともに、引き続き、この研究会を見守っていただきますようお願いいたします。

学生についても、責任者の交代や新しい体制を公表するまで、学内の調整に時間がかかりまして、そういったこともあって少し動揺が走ったように見られましたが、今年度も、こちらに座っているコーチの指導を十分に反映して、先ほどの報告会でもそうでしたが、本当にいい活動をしてきているように思います。

来年度については村岡助教が、今度はこの恵泉地域言語活動研究会に内部からかわってくれるということになりまして、新たな外部評価委員を学内で募って、新しい体制で臨みたいと思っておりますので、引き続き先生方にはご指導をよろしくお願いいたします。

### I. はじめに

1. 取組担当者挨拶
2. スタッフ挨拶
3. 外部評価委員から一言

### II. 取り組みについて

1. 資料確認
2. プロジェクト2010年度実施状況
3. 活動報告：
  - ・恵泉英語教育研究会 (KEES)
  - ・恵泉お話を語る会 (恵話会)
  - ・KEISEN小学校英語活動指導者養成講座 (NEEDS)
4. 質疑応答
5. 2011年度について

### III. 懇談

1. 評価と助言
2. まとめと日程調整

#### 2. スタッフ挨拶

《小關》ではスタッフ挨拶ということで。

《須藤》恵泉地域言語活動研究会のコーチの一人の須藤です。今日は主にKEESを担当させていただきますので、よろしくお願いいたします。

《馬郡》馬郡敏美と申します。今日は主に恵話会の方を担当させていただきます。ご指導よろしくお願いいたします。

《佐藤》コーチの佐藤智子です。よろしくお願いいたします。私はニーズ講座 (KEISEN小学校英語活動指導者養成講座) と学生とのかわりという観点から述べさせていただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 3. 外部評価委員から一言

《小關》スタッフの挨拶も終わりまして、次は、「外部評価委員

から一言」となっております。一言ずつご挨拶いただければと思います。

《山口》外部評価委員でしたが、特別なことは何もできておりません。先生方が1年間ずっとご指導されてきて、学生も言っていましたね。成長がよく見えるのだと。それがもうすべてではないでしょうか。

《村岡》1年目というか、去年は外部評価委員として前半かかわらせていただいて、後半から少しずつ内部の側から支援させていただいています。来年はもっと正式な肩書を持って支援していきたいと思いますので、今後ともよろしくお祈りします。

《手塚》城山小学校の手塚です。よろしくお祈りいたします。現場に何人かの学生が来ておりますが、すごく成長が見られて、私としてはとてもうれしいし、逆に現場もたくさん学べるかなと思っています。またよろしくお祈りいたします。

## II. 取組について

### 1. 資料確認

《小關》ありがとうございます。では、実際に今年1年間の取組の内容についてご説明し、その後、懇談ということにしたいと思います。最初に資料の確認ということで。

《佐藤》では、説明をさせていただきます。まず会の流れが最初に來まして、その後、目次があります。その後、大谷から活動報告会でご説明させていただいたパワーポイントの2枚の資料ですね。その後、恵話会&KEESの行事予定があります。そしてKEESの名簿などが入って、KEESの取組についての資料がございます。

そして恵話会を語る会（恵話会）の2010年度認定者の名前が挙げてあります。その後、恵話会活動報告など、恵話会の資料がございます。恵話会で取り組んだイベント、お話を楽しむ会などの事業予定などがありまして、学生の報告書。そして今度はKEISEN小学校英語活動指導者養成講座、2010年のスケジュール、そして受講者の報告といった内容となっております。

《小關》では、最初に「プロジェクト2010年度実施状況」ということで、お祈りいたします。

### 2. プロジェクト2010年度実施状況

《大谷》それでは本日、先ほどの報告会でお話しさせていただいた内容と重複するところがあるのですが、パワーポイントの資料2ページ目のところを開いていただけますでしょうか。特に外部評価委員会は学生の活動を中心に見ていくということで、最初のページには研究会の構成、そしてそれぞれの会の写真などを載せていただいております。

そして、「2010年度年間スケジュール」というところをご覧いただきたいのですが、ここでは「スケジュール」と書いていますが、実際には実践報告です。実際に行った活動を並べています。繰り

KEES	恵話会
5月 スプリングフェスティバル	4月 松岡先生ワークショップ
6月 英語活動、学習支援(3校)	5月 伝える力コンテスト
7月 合同お話し会	6月 読み聞かせ、学習支援
8月 多摩市教育研修会	7月 合同お話し会
9月 英語活動(1校)	8月 地域福祉施設ボランティア
10月 英語活動、学習支援(3校)	9月 第1回お話を楽しむ会
11月 英語活動、学習支援(3校)	10月 読み聞かせ、学習支援
学園発表会	11月 読み聞かせ、学習支援
12月 英語活動、学習支援(3校)	学園発表会
クリスマス合同お話し会	12月 クリスマス合同お話し会
2月 英語活動、学習支援(1校)	第2回お話を楽しむ会
	2月 地域福祉施設ボランティア

返しになりますが、KEESは毎週お昼休みや自主的に放課後や空き時間に集まってトレーニングを行っています。

詳しく、KEESと恵話会について見ていただくと、本年度は稲城市の稲城第一小学校、長峰小学校、多摩市立西愛宕小学校の3校で活動してまいりました。英語活動が6月、9月、10月、11月、12月と入っていますが、年間に10回程度の英語活動を、そして学校によって違うのですが、5～6日の学習支援を担当させていただきました。こういった英語活動だけではなく、7月の合同お話し会、これはKEES・恵話会合同の会ですが、ここで英語のお話、ストーリーを発表したり、それから8月に「教員研修参加」と書いてありますが、自治体で開く教員研修のお手伝いとして参加したり、また11月には学園祭の発表。そして12月にはこころ保育園の園児を招いてお話し会を開きました。

恵話会は、4月の松岡先生のワークショップで今年度の活動を始めました。学生の語りを聞いて講評していただくだけでなく、松岡享子先生自身がお話を聞かせてくださり、とても素晴らしい会になりました。その語りも、先生は当日ここにいらっしゃって、恵話のチャペルを見てお話が「降りてきた」ということで、「ふしぎなオルガン」というお話を語ってくださったのですが、本当にそれは素晴らしい語りでした。このワークショップで今年度の活動を4月にスタートをしましたが、実際には学生は春休みも返上でお話を覚えて、先生に聞いていただくということで練習しました。5月の「伝える力コンテスト」、これはスプリングフェスティバルと違って暗唱コンテストですが、英語で発表する学生、そして日本語の語りもございまして、このときは山口先生にジャッジをお願いしました。ありがとうございました。6月の「読み聞かせ、学習支援」というのは、これは手塚先生の城山小学校でお世話になりました。7月の「合同お話し会」、これはKEESと恵話会合同で開催しました。こういったお話し会や学園祭といったことにも、イベントによっては、それぞれ使用する言語は違うのですが、互いに発表し合って、学び合い、お互いの言葉の力を高める活動をしています。また、「地域福祉施設ボランティア」では、先ほどのお話にもありました白楽荘や島田療育センターへ行って福祉活動をさせていただいたり、9月「第1回お話を楽しむ会」、10月、11月では、小学校での学習支援、読書会など、本当に1年間たくさんの活動を地域でさせていただきながら、学生は学びを深めております。

また、KEESの学生が活動している小学校では、先ほどお話に出てきましたニーズ講座という、社会人の講座を修了された方がいらっしゃる学校からご縁をいただいて、学生が今度は英語活動ボランティアとして伺う、というように、この三つの会の活動がそれぞれリンクして、全体で力を高めたと感じております。

では、それぞれの会の詳しい実施状況については、各コーチからお話をしていきます。お祈りします。

### 3. 活動報告：KEES、恵話会、ニーズ

《須藤》では、KEESから報告させていただきます。「2010年度KEES&恵話会活動スケジュール」で、全体のスケジュールを理解していただけるかなと思います。学生名簿が次のページにありまして、学生、大学1年から4年まで、それぞれの学校に分かれて班長・副班長、担当を決めて活動しました。ただ、1年生の参加については、授業の関係もあつたり、学校の方には訪問せず、トレーニングのみの参加となりました。合計18名です。

次のページには、「小学校別 学習補助、外国語活動支援」、「集中活動記録」、があり、どのようにそれぞれの学校で学習補助があり、外国語活動があつたかを見ていただけるとと思います。

トレーニングは4月から2月まで、先ほど大谷からもご報告がありましたように、お昼休み30分を使ってトレーニングをしたり、



それぞれの学校の活動の打ち合わせ、教材の準備などに使ったり、あとは合同の行事もあるので、そういうときは合同でミーティングを行ったりする時間として使いました。

次のページは、学生がそれぞれの3校に行ったときに、どのように外国語活動を行ったかの詳細です。使った絵本、目標言語、それぞれの学級の状況、先生のお名前や担当の学生等が出ています。これについては、コーチが3人でしたので、担当を決めまして、長峰は佐藤、それから第一小は馬郡、そして本年度から始めた多摩市立西愛宕小は私ということで、学生と一緒に取り組ませていただきました。長峰については佐藤から少しお話があるので、お願いします。

《佐藤》それでは長峰小学校の外国語活動予定・記録というところをご覧くださいませでしょうか。ご覧いただくとお分かりかと思いますが、たくさんの絵本をこの1年間で読みました。このたくさんの絵本を使うということは、やはりそこに沿った指導案を作らなければいけないということと、学生にとっては、その指導案を覚えて、実際に児童の皆さんの前で活動することで、とても負荷の高いものでした。トレーニングだけでは間に合わないで、それ以外にもお昼休みに集まったり、毎日のようにとにかく練習して、その活動日に合わせて本番に臨むという形で、努力してまいりました。ただ、集中活動も合わせて9回の活動を通して、学生もそれなりに努力をしたので、進歩したと思います。それは近くで見ていて本当によく思います。

《馬郡》第一小学校の外国語活動記録の方をご覧ください。第一小は、先ほど学生たちも申ししておりましたが、1学年3クラスということで、第一小学校は5年生だけを3時間やって、2週間後に6年生をやるというようなことで、各クラスは3時間しかないのですが、しっかりと準備して臨むことができたと思います。

なかなか忙しい中ですが、第一小の学生たちも昼休み等に自主的に集まりまして、トレーニングを続けてまいりました。簡潔なティーチャートークを使って、小学校では非言語を使って意味を示したり、授業を動かしたりするのですが、そういうことがだんだんにしっかりできるようになったと思います。テンポの良い授業が行われるようになったので、また自信につながり、次に頑張っていきたい、教職をしっかり目指していきたいというような学生の思いも感じられました。

《須藤》では、次のページで、西愛宕小学校の活動記録があります。大体同じ絵本、大体同じ指導案で行ったのですが、今回、先生方の強いご希望で、5年生と6年生の上級生が下級生に何か発表できないかということで、「合同発表会」を開きました。先生も最初は「できるのかな」と心配なさっていたのですが、その心配も吹き飛ばすほどの見事なものが出来上がりました。

次のページからは学生の報告書で、私の方でアンダーラインなどを引かせていただいたので、少し目を通していただければと思います。

それで成果と課題ということですが、先ほど馬郡からもありましたように、やはり現場に赴くことで、教職ということを再確認して、「やっぱりやってみよう」と。恵泉の場合は中高の免許なので、小学校の免許は取れないのです。でも、小学校に赴くことで「小学校もいいな」と。それから、小学校の先生方のパワーと情熱、もちろんご苦労もあるのですが、そういうところから小学校の先生になりたいと。それで今回、次年度から小学校の免許取得を目指す学生もおります。

あと、2年生から始めて3年生になったときに、今度は2年生を指導していかなければならないという、ちょっと大きな役割が3年生には課せられます。そのときに、やはりリーダーシップということを真摯に考えて、下級生を引っ張って、良い活動に持っていくためにはどうしたらいいのだろうと、やはり大変な模索と、ある意味苦しみもあったかなと思うのですが、最終の活動では本当に上級生も下級生もいい関係をほぼどの学校でも築くことができたのではないかと考えています。

課題ですが、それでも学生数の中で教職の道にすべての学生が行くとは限らないわけですね。ですので、気持ちとしては、やはりもっと多くの学生が教育の魅力、あるいは教職に就く魅力というものを感じるために、私たちコーチも何がもっとできるのかなと感じています。

それから専門性への磨きですね。やはりKEESの方は英語でするので、英語へのモチベーションと山口校長先生もおっしゃっていたのですが、やはり英語は面白いですね。好奇心、生涯学習ですか、そういうところに結び付けるように、みんな学べるような方向にどのように持っていったらいいのかなと考えています。

それから会の中での課題ということで、本年度(2011年度)から小学校5～6年生に英語活動という教科として入ってきます。そういった時代の流れや学校の要請を聞きながら、KEESでどう取り入れていくべきか、やはり今後真剣に考えていかなければいけないかと考えています。以上です。

《小關》ありがとうございます。これでKEESについての活動の報告となります。では、続いて恵話会。

《馬郡》恵話会の活動報告をさせていただきます。この資料に名簿があり、2年目8名、1年目18名が在籍しています。そして毎週1回、昼休みの30分間ということで行ってきて、2月15日、第27回恵話会で終了いたしました。毎回、大体30分ですが、流れとしては、ウォームアップ、わらべ歌や言葉遊び、「外郎売(ういろうり)」は去年も3パートに分かれて、それで声出しなどをやったり、早口言葉を少し最初に入れて、それから発表とコメントとして、絵本や詩、語りなど、そんなに長い時間のは難しいのですが、大体5分以内のものを準備しているという学生に聞いてみて、この会の中で発表し、お互いにコメントをするというような時間を取っています。また事前に役員会を持ちまして、次の会議はどのように、何を内容にして、流れは大体同じなのですが、ど



いうことをやっていきたいか、誰に発表を頼んでいくかということと相談して、会の流れというものを役員が交代で作成するようにしました。それで担当の役員が作成したらメールで先生方、コーチに送り、事前に資料を手にして、みんながこのように進んでいくのだということと了解して会を進めていきました。

次の資料は、奉仕活動はどういうことをやっていたかということという一覧です。手塚先生がいらっしゃる稲城市の城山小学校では、昨年度は学生がお世話になり、KEESと同様、6月と10～12月、朝の読書タイム10分間と、そして学習支援ということで担当させていただきました。中には報告書で韓国からの留学生が書いているのですが、たくさん学びがあったということです。日本の小学校での小学生の反応などに驚いたり、同じだと感じたりということが書いておりますので、またご覧ください。

次は多摩市こころ保育園ですが、昨年度は12月、クリスマスに園児たちを呼んで、KEESと合同でのお話会だけだったのですが、学生たちが出向きました。9時半から10時という時間をいただいて、お話を2回開きました。もう一つは多摩市の白楽荘という高齢者施設です。昨年度も2回、今回も交流会を2回ということで30分ぐらいのお話会というか、わらべ歌等を一緒に楽しんでいただいて、その後、懇談の会というか、お茶の時間があるので、そういう高齢者の利用者の方々と学生が各テーブルに入りまして、いろいろお話をさせていただくというようなことで交流させていただいています。

最後は多摩市島田療育センターという重度障害の方がいらっしゃる施設です。こちら、昨年度はわらべ歌で担当させていただいたのですが、昨年の報告会をご覧になった担当者の方が、「外部売」と語りによく興味を示してくださって、「ぜひ」ということで、学生たちが約1時間のプログラム。語りはもう本当にアンコールがいきなり来て、それがすごく自信になったというようなこと。そういう体験が貴重だったというようなことを書いておりますので、またご覧いただきたいと思います。

こういう奉仕活動は、班長が奉仕先の担当の先生や担当者の方と連絡を取って、会に戻って日程について話し合い、それをまた奉仕先の方にご連絡して、プログラムもファクスして、メールで送ってというようなことをさせていただいたので、マネジメントをしていく、そしていろいろな方とコミュニケーションを取っていく、また文書を作成していくというような力も養われているのではないかと思います。

奉仕活動のところを見ていただいたので、次は語り発表（お話し）への取組を書かせていただいています。ほかの大学ではきっとやっていないということで、松岡先生も、大学生がそんなに語りをやる、図書館司書になる方はその単位の中で1回だけはやるようですが、このように正課外で、また継続してかなり多くの学生が取り組んでお話をしているというのはとても珍しいということで、このお話会などのプログラムをお見せすると、本当に興味を示してくださって、4月に来ていただきました。

この2年間で話し（語り）に取り組んだ学生は、大体16名の学生が40のお話に取り組んでいます。昨年度の春に会が立ち上がり、何もなかったところから始めましたが、そこでスプリングフェスティバルがあるので、「語りは誰かやってくれる人がいますか」と聞いてみました。そうしたら今日語りを発表した学生が「はい」と手を挙げて、みんなびっくりしたのです。小さいときに語りも聞いていたことがあると言って。なかなか彼女はそんなに社交的に話す方ではないので、同じ学科の友人もびっくりしたらしいのですが、そこから始まりました。「じゃあ私もやってみよう」というので、その次にまたほかの学生も発表してくれることになりました。

次は「お話を楽しむ会」のプログラムを載せさせていただいています。これも学生たちがどの話をしたかというようなときに、

最初にお話をするというのは、松岡先生のリストや「お話の朗読」とか、そういうことを紹介するのですが、取りあえずはの中から選んだ方がいいとか、そこから自分で好きな、語りたいお話を選ぶ。そしてそれを持ってきて、どういう順番にしますかということも学生たちで相談して決めて、そのプログラムも学生の有志が作成するというような形で進めています。

その後につけさせていただいているのは、奉仕活動先での報告書、それから本年度1年間を振り返って、または2年間を振り返っての記録です。彼女たちは本当に誠実に取り組んで、いろいろなことを学んでくれているなとうれしく思いました。ぜひ目を通していただければと思います。

資料は以上ですが、語りを大学生とやるということで、本当に初めてというようなことで、トレーニング内容などについてここには書いてありませんので、私の方で少し伝えたいと思います。

作品への取組というようなことで、どんなことをしたかお伝えしたいのですが、「練習が楽しかった」と、「練習」と書いているのですが、普通大人の語り手が集まって勉強会をする場合は、ある程度覚えて、お互いに聞き合うということが普通、講師するのが普通なのですが、学生はどうしようと思ったのです。これをやりたいと決める、そして、ではいついつ発表するということが大体予想されたら、できるだけ早いうちに1回練習というか、「一緒にしませんか」と言って空き時間を聞いて、取りあえずそのときは、まずは声に出して間違いなく読むというようなことからやってみました。次のときは少しずつでも覚えていくので、「すみません、1ページしかまだ覚えていないんです」と言うと、「1ページだけでいいですよ」と言ってお話ししてもらって、「あとは読んでください」と言って、必ず一話完結というのをやりました。

そのときに、個人のときもあるのですが、できるだけ複数の学生でやるように努めました。数名ですと、それぞれが選んだ作品を全部聞いた後に、「ではコメントし合いをしましょう」というようなことで、自由に感想やコメントを言うというようなことをしてみました。「好きな部分はどこですか」「ここがちょっと分からないんですけど」「このイメージ、この人はどんな感じ?」「年齢とかはどうなんでしょう」と本当に自由な感じで話すことで、テーマやメッセージなどにもちょっと触れていくというか、学生の気付きがあるので、それを拾ってみんなでシェアするというような感じ。それが作品を深めて、その場で共有していく。それぞれの作品だけでもすごい力があるので、それでそこにいる人たちはみんなぐっと親しくなって、また仲間と一緒に成長していくというような形でできてきたのかなと思います。

その練習は私も参加させていただいて、すごく楽しい時間です。声を出すと、語りは身一つで勝負ですから、自分の声があるのかなということ、今日詩を発表した学生がいるのですが、「皆さん、こんにちは」と。何か高い感じの声で、それで「自分の感受性くらい」をやるときに、「私の声ってちょっと違う気がするんです」というようなことで。あと、詩というのがなかなか難しく、それを「じゃあ、おなかから出すよ」とか、詩といたら、こちらとこちらに立たせてこのように、「じゃあ、今は届きましたか」というようなことをやってみたりしました。自分の声に気が付いて、あと、呼吸とか、発声とか、伝えたいイメージを意識するというようなことで、ちょっと問い掛けたりというようなことをしました。

また、司会進行とか、発表の前にこれをやりますというように、いろいろ聞き手の方とちょっと簡単なやりとりをして、それから始めるということがあるのですが、わらべ歌などを一緒にやりましょうというときに、日本語でどう語りかけるかというようなことも練習したりしました。でも、なかなか不完全なので、これはまた今後の課題でもあります。練習のときは、そういう形で行い

ました。

また、お互いに聞き合うだけでなく、参考図書、松岡先生の『よい語り』や『お話とは』を何冊か購入して貸し出して、それで自分のパートをレポートするというような形も行いました。それが大体のトレーニング内容です。

成果ですが、語りに特に特徴があるので、その取組を通して私を感じたことをお話しさせていただきたいと思います。

まずは学生自身の中でというようなことですが、「お話ってやっぱり小さい子どものためのものでしょ？」というような意識から、お話の世界で心が動く、「面白いな」「これはいいな」というような心地よさを感じることができるようになった。創造力と感性も育ちますし、豊かな心というか、日常生活とは違う、やはりお話の世界がありますから、豊かな心と豊かな言葉に触れる機会がたっぷりあることが面白いと感じてきたと思います。

本当はお話を楽しむのは、お話だけでもすごく魅力があるのですが、恵泉の学生を見てみると、やはり自信がない、人前で話せない、話すのが苦手というような学生が結構多いのです。語りをやりますと、体と声だけで勝負しなければいけないので、学生は初めてですと緊張感でいっぱいになります。それでも、好きなお話を一生懸命練習して覚えたお話ですと、何とか自分の声と表情とか、アイコンタクトとか、間というのが、「ここはちょっと早すぎますね」というようなことを練習していると、そういうことに気を付けて人前で一生懸命話せるようになります。5分とか10分のお話ですが、それをちゃんと最初から最後まで自分が届けて、聞いている人も一緒に体験してくれたというのは、やはり達成感、「何か自信が付きました」というようなことを言って、「また次のお話を覚えたいです」というようなことを学生は言ってくれるので、本当にそれはよかったと思っています。

また、村岡先生がおっしゃっていた、誰かとというようなことで、先ほどお伝えした練習で、仲間と一緒に心が動く体験ができる。あるときは語り手になり、あるときは聞き手になるというようなことですが、それを交代しながら、一緒に体験して、またコメントや感想などを自由に交換して作品を深めていって、お互いに自分の言葉で伝え合ったり、分かり合ったりというようなことは、コミュニケーションというようなことにつながっていきますし、お話では、メッセージとかいろいろ大事なことが昔話に含まれていますので、より深いところでの気付きやつながりが持てるというようなことで、結構恵話会の学生はお互いに分かり合えているというような、そういうつながりがあるような気がいたします。

それと、今回のように一人が一つの作品ではなく、詩とか、「外郎売」のように一つの作品を仲間と一緒に取り組む場合というのは、自分のパートだけをやればいいのかではなくて、全体のパートですから、自分のところを取りあえずは仕上げてきて、「では全体について」というようなところで詰めていくというようなことは、本当に一つの作品を一緒に深めて、複数の学生が一つの作品をイメージができるというようなことはすごい喜びで、新たに創造する、作るというようなことと、また一緒に表現する力につながっていくのかなと思いました。

仲間同士だけではなく、やはり奉仕活動先や行事などでは、幅広い聞き手の人にも育てていただくというようなことで、もちろんうまくいかないときもあります。一生懸命練習したのに聞いてもらえなかったり、思ったほどの反応ではなかったというようなときは、やはり振り返りをして、どこがということ改善して、次にまたトライしていこうというような学生もいます。そういう奉仕活動先ではちゃんと準備したことだけではなく、これは授業でも一緒だと思うのですが、想定外のことが起きたりするので、それにどうマネジメントしていくかというようなことは、チームで

協力してやっています。

あとは、聞き手と一緒に体験できたことというのは今日も学生が言っていました、本当にそれが喜びになって、また「あ、できた」というような達成感とか、自信とか、次の意欲につながっていくのではないかと。なかなか語りはどう学生が受け入れてくれるか、取り組むか、見えなかったのですが、2年間で好きになってくれた学生も多く、表情がすごく明るくなりました。

課題としては、先ほども言いましたが、日本語を使っていますので、場面や相手に応じた適切な日本語を使うということなどは、まだまだ引き続き継続して学んでいってもらいたいと思っています。あと、声というようなことでは、やはり自分の声の気付きとか、「伝えたい」とか「届けたい」と思う気持ちとか、そういうところからまたいい声というか、自分も出しやすい声で、聞き手も「ああ、この声をずっと聞いていたいな」というような声になれるといいなと思っています。

最後に、語りというようなことが新しいのですが、KEESの方で3年生が2年生を指導してというようなことがありましたから、これをどのように学生同士で取り組んで練習とかをしていくかというようなことを今後の課題として、また先輩・後輩になると、先輩はすごく怖くてとなるとあれなので、自由に発言したり、感想を言えたりという関係とか、お話を少しよく覚えたということ、自分の力を過信することなく、その作品そのものの持つ力を信じて、聞き手に預けるとか、聞き手に委ねるというようなところも思ってくれて、語りはその人の人柄そのものが出てしましますので、ぜひいろいろなことに興味を持ってやってくれるといいなと思っています。長くなりました。ごめんなさい(笑)。

《小關》馬郡の語りに対する情熱が伝わってくる報告でした。ご苦労さまです。

では、ニーズについて。ニーズは、中身は大人たちですが、学生とのかかわりという点でよろしくお願いします。

《佐藤》よろしく願います。それでは、私からはKEISEN小学校英語活動指導者養成講座のことを、学生とのつながりや学生とのかかわりという観点から、簡単にお話しさせていただけたらと思います。

まずスケジュールからお話しさせていただきます。この講座は、先ほどお伝えさせていただいたように、後期、半期、8月～2月までの約30回のスケジュールになっており、今年は3年目を迎えました。年々受講者の人数が増えておりますので、私どもは、こちらの講座は「KEISEN小学校英語活動指導者養成講座」というのは長いので、「ニーズ講座」と読んでおります。こちらのスケジュールで、先ほども山口校長先生のお話にありましたように、30回、金曜日の晩と土曜日に本学に来ていただいて、受講者の方々に発音訓練、そして読み聞かせ訓練に取り組んでいただきました。

そして今回、1月のところに合唱とありますが、こちらは今年、アメリカ在住のクリーブランド先生との日程調整がつかなかった



ことから、今回は合唱訓練分も2月の稲城市立長峰小学校の授業実践の練習に充てさせていただきました。詳細はパンフレットをご覧くださいと思います。

発音訓練ですが、発音訓練は「未来塾」のトレーナーの先生方が担当してくださっています。そして、読み聞かせ訓練は私どもコーチが担当しております。

スケジュールの次には受講者の方々の報告書がありますが、『なんで英語やるの?』の感想文に最初に取り組んでいただきました。発音訓練が始まる前ですので、未来塾の発音訓練がどのようなものかということをご覧いただくためにも、いい課題図書かなと思いました。

未来塾の発音訓練はとても独特で、アルファベットの26文字の原音を作るための口の形(口形)や呼吸、そして舌の位置などを、一人ずつ鏡を持って、そしてトレーナーの先生に指されたらその音を発音して、「違う、こうです」というようなトレーニングをしていきます。やはり日本人にはない音が英語にはたくさんあるので、そういう意味で、意識して口の形から作っていくというようなトレーニングをされています。そして、その未来塾を創設された中津燎子先生という方が書かれたのが、この『なんで英語やるの?』という図書です。

今日載せていただいたお二人は、報告会で詩を暗唱してくださったお二人ですが、「この本を通して、これから日本人として英語を学んでいく上で、もっとも母国にも関心を持たなければならぬと気付かされた」とありますが、英語を学ぶ上でも、母国や母国語をあらためて知ることはとても大切であると私たちも日々感じております。その意味でも、学生がKEESと恵話会という両方の会に属しているということは、やはり学生にとっても貴重な経験であるのではないかと感じます。

次のページが参観実習の授業レポートになります。こちらもアンダーラインを引かせていただきましたが、このときは5月でしたので、学生は授業をさせていただくことだけで精いっぱいですので、例えば歌いたい気持ちを持っている子もいるのでゆっくりと歌詞を唱えたらどうかとか、具体的な改善点を挙げてくださっています。ただ、2ページ目にありますように、やはり綿密な授業計画を学生たちがしているということにとても関心を持ってくださりまして、その点はすごくいいのではないかとようなことも述べています。

続きまして、今度は参観実習授業レポートです。こちらは稲城市立長峰小学校で9月16日に行われたKEESの参観実習になります。こちらもやはり改善点、このようにすればいいのではないかとすることをたくさん書いていただきました。学生が声をもう少し出していったらいいのではないかと、学生が教壇に立ったときにもっと大きな声で、児童に届くぐらいの声を出したらいいのではないかと、速度、テンポをもっとつけた方がいいとか、そのようなことを書いています。

その次のページになりますが、その方がこの間、2月に同じ長峰小学校で授業実践をしたのですが、ご自身で授業を担当されると、やはり大変だと書いています。ニーズ講座の受講者の方々も4~5人のグループで教壇に立つていただくことになるので、役割分担、チーム4人が力を合わせて何とか授業ができたということに達成感を持っていらっしゃいました。

ただ、ご自身の課題点、そしてKEESの学生にも言えることなのですが、「実践の場とはいえ、ALTとして自分たちで活動できる力を付ける必要があると思った」とか、「どんなクラスにも、そしてどんな子どもにも(それなりの)対応ができる心の構えと物理的な準備、そして経験を積む必要性があると感じた」というようなことが書いてあります。

今回、先ほどお伝えしたように合唱訓練分をこの2月の授業実

践の練習に充てることができたので、学生との合同練習もニーズ受講者の方々に体験していただきました。その中で学生とのかかわり方とか、学生自身が社会人の方々の授業を拝見して、やはり違うなど。山口先生もおっしゃってくださっていましたが、経験があって深みのある、その深みというのは私たちにはまだ出せないというような学生もいましたが、やはり学生にとって本当に学びであると思います。

私からのまとめと成果になりますが、そのような合同練習や本番の活動などから、KEESの学生が社会人受講者の練習・活動を見て、社会人の方々から学ぶことがたくさんあると思います。例えば活動にかける意気込みとか、いい意味での恥じらいのなさ。学生はこの間の「かぶ」でも、やはり恥じらいが少しあるのです。でも実際にニーズ受講者の方が長峰でなされた「かぶ」は本当に大きなかぶのように思いました。そのような形で、学生に対してもすごく大きな影響があると思いました。

また、児童への接し方です。やはり学生はどうしても、どのように接していったらいいのかまだ分からないという壁があるときもあります。でも、社会人の方は「どうしたの?」というような感じでどんどん積極的に行かれるので、そのような児童に対する態度というのは、学生も本当に見習う点が多いと感じています。ですので、学生たちの学びになることが多いので、とても意義のある講座ではないかなと考えております。

私からの小学校英語活動指導者養成講座の活動報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

#### 4. 質疑応答

《小關》これで一とりの今年度の取組についてご説明することができました。

一応、手順としては質疑応答ということになっておりますが、委員の先生方の方で今の説明に関して、ここをもう少し詳しく、あるいはここがよく分からないというようなことがありましたら、聞いていただければお答えしたいと思います。いかがでしょうか。

《手塚》小学校の英語活動がいよいよ来年度から活動としてきちんと必修で位置付けられて、文科省から『英語ノート1、2』が配られてきているということで、いよいよスタートする。多分各地区の教育委員会でもそれなりの対応策は取っていくと思うのですが、すごく素晴らしい活動案を作って実践なさってきている。それを来年度からどうつなげていかれるのかなど。

『英語ノート』があるということで、例えば本市だと小中で合同研修会などをすることが結構あるのです。そのときに、例えば私のところだと長峰小、城山小、向陽台と三つ小学校があるので。中学校は五中があって、教科の合同研修会のようなものがありまして、それぞれ教科の部会に分かれて話し合いを毎年やっているのです。英語だと、例えば五中の英語の先生が3人いらっしゃるの、その先生とそれぞれの学校の先生が何人かずつ一つの分科会を作って話し合っているのです。当然中学校の先生は英語の音ができきている。そして小学校で英語活動がスタート。今でもやっていますが、本格的に文科省の指導として始まる。そうすると、それを受けて中学校に来るところで、その辺は今後どのような形になっていくのか。せっかくこれまで実践を積み重ねて指導案もあってということで、35時間はもうやりやすいうところでスタート、今はもう教育課程を作っていますので、その辺をちょっと伺いたいと思っています。

《大谷》KEESとして、その流れの中でどう関わらせていただくかということですね。

《手塚》はい。

《大谷》まず、『英語ノート』の採用については自由ということですが、どの小学校も現在使用していて、来年度も恐らく使用する

だろうと思っています。ですので、指導案としては絵本を中心に立てていますが、やはり『英語ノート』で扱っている目標言語などは意識しています。「大きなかぶ」もやはり『英語ノート』に掲載されているということで、全く別個のものを作るだけではなく、学校側からできるだけ『英語ノート』を意識してほしいという要望もありまして、そういった形で提案させてもらいながら、何う小学校の現状によって少しずつ調整を加えているということです。今年度は3校で活動させてもらいましたが、やはり3校とも事情が違うので、指導案も違ったものとなっています。また、この3年の間に、小学校の英語活動を取り巻く状況は本当にソフィステケートされてきて、先生方のニーズ、求めていらっしゃるもののレベルが高くなってきて、それにどう今後を合わせていくのかということが課題であると感じます。引き続き活動させていただき学校と協力しながら、一緒に指導案、英語活動を作り上げていきたいと思っています。

《手塚》分かりました。

《小關》ほかにご質問はございますか。

《山口》3校で子どもたちは、それぞれの学校によって違いますが、何時間ぐらい授業に入ってやったのですか。1クラスにつき、1年間。どこかにあると思いますが、大まかに。

《須藤》長峰の場合、外国語活動支援は9回ですね。あとの2校は6回です。第一小は3時間です。

《山口》こういうところ35回のうち9回、9時間。そうすると、かなりの割合ですね。

《須藤》そうですね。はい。

《山口》時々行って、単発的に。その1年間、学校の授業計画の中でもきちんと位置付けておかないと、9回もあると。1回とかになると、そういう受け入れ側も計画的にというか、ちょっとやってみようというのでは訳が違いますね、9回もあると。かなり各小学校と相談しなければなりませんね。

《佐藤》そうですね。長峰は『英語ノート』を使用していますので、例えば6月でしたら、『英語ノート』のどの部分を使えばよろしいでしょうかというようなことを事前に伺って、目標言語等を伺ってから、こちらで『英語ノート』に沿った形で指導案を作らせていただくという形を取りました。

《山口》その目標言語に沿っている教材を、題材を何か使うのですね。

《佐藤》はい。

《山口》来年度もそのような活動をやっていくのですか。

《大谷》来年度のことについては、この後にまた協議することになると思いますので。

《小關》では、来年度のことにもう移っても。

《大谷》よろしいでしょうか。

## 5. 2011年度について

《大谷》それでは2011年度についてですが、2007年度にKEESがスタートしまして、2008年度に社会人の講座が始まって、2009年度に恵話会が発足、というように、三つの会がそろって、全体として活動ができるのが今年で2年目、今ちょうど2年目の活動を終えようとしています。会全体として本当に成熟してきていることを感じておりまして、先ほどから学生の成長がとか、社会人の中で学びがとお伝えしていますが、本当にそれは素晴らしいものがあるのです。もちろん、こちらである程度トレーニングをしたり指導をしてから学生を送り出していますが、指導がなくて送り出しては経験しか残りませんし、また指導だけをして地域に行く機会がなければ、それもまた学びがないと思います。このように地域の活動や施設の方々と協力しながら、今後も取組は続けていかなければならないと思っています。

報告会でもお話ししたように、来年度がよいよプロジェクトとしての最終章を迎えることとなります。今後どうするのかということを見極めながら、来年は続けていかなければなりません。お伝えしたように、「支援がなくなりました。ではもうプロジェクトは終了です」というようなことは意図しておりません。私たちはどうしてもこれを続けていかなければいけないと思っています。

一つの方向性として見えてきたのが、研究会を学生のクラブとして今後も存続させていくのがいいのではないかとことです。そして早速来年度から、恵話会がまず学生主体のクラブとして活動を始めようとしています。学生はこれまでで経験をさせていただいた活動奉仕先、そこで経験を財産にして、また新たに活動先を開拓して、そういったところで自分たちは何をしたいのかというようなことを考えて、自ら考えて自ら動く、というようなことをしていきたいと思います。もちろん専門家の指導は必要となるので、学生がどういった指導を必要としているのかによって、それらを求め、会として続けていきたいと思っています。

KEESについてもやはり同じような道をたどるのではないかとありますが、今、来年度のお話が幾つか出て、山口先生からご質問をいただきましたが、貴重な小学校での授業時間を持たせていただくのですから、来年度もある一定の規模、人数、そしてレベルを確保しなければいけません。私が持っている「児童英語教育論」、そして「児童英語教育実践」というクラスがありますが、この授業とリンクさせてKEESの活動を行っていきたいと考えています。プロジェクトの名称に「正課外活動」とうたっていますが、授業と一緒にすると違うのではないかとということになるかもしれません。もちろん授業の中で指導はしますが、それだけでは全く時間が足りません。学生が自主的に、自分たちで集まって練習するとか、授業以外の時間をたくさん使って活動の準備をしなければいけない、そして英語活動を行うときにはやはり授業時間内では取まらない、そういった時間を費やすというところで、やはりそれは正課外活動になるのではないかと考えています。

恵話会についてはまた来週から学生と集まって今後のことを決めたいと思っていますし、先生方には引き続きご指導いただければと思っています。

《小關》予定の時間を多分だいぶ過ぎたと思いますので、ちょっとブレイクを入れて、その後、また少しお話を続けられればと思いますが、よろしいでしょうか。

\*\*\*休憩\*\*\*

《山口》では今度、来年、クラブ活動ですか。

《小關》今の体制をどうにか続けていく中で、学校としてどういう支援ができるかということを考えなければならぬと。それから資金的にも、この3年間は文部科学省からの直接補助があるのだからかなり潤沢な資金があるのですが、これがなくなったときに、どういう資金的な裏付けというか、活動のためのお金を確保できるかと考えると、なかなか難しいものがあります。学校の中で全体として、どれだけ大学のお金を使って語りということができるところでは、まだまだ学内全体の理解というものは確保できていないところがあると思います。

それは私の責任でもあるのですが、そういう中でこの活動をどうにか継続していこうと考えると、取りあえずクラブ活動的なサークルとして生かして行って、その活動をもう少し学内の教員たちにも多く知ってもらって、その力というのですか、実際の、会の語りを聞くと素晴らしいものがあって、そういうものを目の当たりにすると、特にうちの学生たちにとって語りというのはすごい力を持つ。全部の学生に当てはまるわけではないでしょうが、あれは学生たちを伸ばす一つの大きい手段だと思っていますので、それ

を何とか、もう少し市民権を得させたいなと思って。

そう思い、私が顧問という形で名前だけでも貸すことで、学内の活動の場が持てるのであれば。(中略)

3人のコーチはすごくいろいろな形で学生たちを指導してくれていたのですが、いつまでも頼っているわけにいかないということもありまして、少しずつ学生たちが自立する方向でということ、ちょっと来年は試行錯誤というか、模索の期間だと思います。学生の力というものをもう2年間見てきたので、私としては何とでも続けたい。本当に学生の力を見ることでそういう気持ちになりました。(中略)

《手塚》先ほど馬郡さんの話の中で、声とか、速度とか、間の取り方などいろいろあると思います。教員というのは、私たちも言葉を通してということがすごく多いものですから、それはすごく大事なスキルなのです。特に新規採用の人たちなどは、多分自分の声が自分で聞こえないぐらい、毎日無我夢中であると思うのです。だから、そんなもの逆に研究していただくとありがたいなどと思っています。それと訓練も必要な。心も大事なのですが、訓練も大事なあれなのか。何かそういうものもぜひ練習会などをやっていただければいいのかな、などと思っています。

《山口》今うちに来ている4年生の学生さんと二人、朝の、始業前の40分間、8時20分から学習会をやって、その学生が、ここで免許が出るのは教員免許の中高ですよ。小学校の方に行きたいのだということで、通信教育を4月から受けるそうです。そうすると1年ですよ。来年本格実施しようと思って、KEESでこれだけの活動してきたものが、そのままいきませんよね。大学を卒業しても小学校の教員にはなれない。そういう人はすごく求めていると思うのです。専門性を持ちながら、実践もできる。例えばその学生さんが小学校の教員になったら、その人が核になって、その小学校の英語活動が動いていきますよね。そういう、こちらの学校で、通信教育というのは受けるのも自由なわけですね。自由というか、別に勤めるわけでも何でもありません。何かそういう道が学校の中でできないのかなと。

《大谷》今、努力をしているところです。通信教育というのは卒業しないと、ダブルスクールというのは認められない。中には在学中でも受け入れるところはあるのですが、そこで必要な単位だけを取って小学校の教員免許状を取得することも視野に入れて、教職課程委員会でお話をしたいと思っています。

《小關》大阪の方の大学で、小学校の免許を、自分のところではないのですが、他の大学と提携してということが始まっているようですので、調査をしようと思っています。

《大谷》東京では神田外語大学が千葉の大学と提携して、2種の免許になりますが、小学校の教員免許を出しているということです。

《小關》そうですね。2種になりますが、この近辺には明星とか玉川とか、小学校の課程をお持ちのところがありますし、ほかにもまだまだあるので、少し真剣に来年度は考えたいですね。今日、発表した社会人の一人も彼女も恵泉の卒業生で、中高の免許を取って、彼女は最初は山梨の高校だったか中学だったかの教員を数年やって、その後この大学院にもう一度戻ってきて、またいなくなったと思ったら、いつの間にか八王子の小学校の教員になっていたと。彼女も通信で取ったと。

うちの学生たちは、学校には課程はないのですが、卒業してから小学校の教師や幼稚園の資格を取ったりする学生が意外にいるようです。ただ、小学校課程を作るというのは、学校としては非常に負担が大きいものですから、私学ではもう今はなかなかできませんが、連携することで何かできるのではないかと考えています。恵泉で培った、この英語や、例えば園芸とか、それはそういう教員系の学校にも提供できるノウハウはあると思いますので、ど

こかい小学校教員養成課程の学校がありましたらご紹介いただければ。

《手塚》つい何日前、数字は覚えていないのですが、NHKのニュースで、いよいよ英語活動が始まると。でも、ほとんど予算もないので、全国的には、担任にやってもらえないということが半分ぐらいのようなのですね。

《大谷》私も見ました。

《手塚》だけど、私たちが「自信がありません」と。確かに全然自信がないですね。そういうことで、でも実際にはもう発車してしまうので、今のようなことが本当に実現できたらいいですね。

《小關》外部評価の委員の先生方からもそういうことを進めよう、そういうことがあったということを学内に還元しよう。

《手塚》今、校内で、去年と今年で30時間の校内研修をしようというのがあったのですが、多分私のところなどはすごくまじめにやっている方だと思うのです。たまたまそういう中心になる勉強もやっているものから。でも、話を聞くと、本当に数字的には合わせてもどうなのだろうという、その辺はちょっと心配なところがありますね。

《大谷》教員養成系の大学でも、小学校の教員で英語を専門とする卒業生をこの春初めて送り出すというのが現状です。

《手塚》言語活動も、新しい学習指導要領では、どの教科を通してでも言語活動を充実させるということがあるので。それだけではないのですが、稲城市に限っては、今まで校内研修で国語はそんなになかったのです。でも、来年、再来年で国語を続けてやりますというところが結構、校内研で増えているのです。そのぐらい、言語活動をということになると、まず国語の研究、そして聞く・話すとか、よい聞き手を育てるとか、よい話し手を育てるとか、そして豊かな表現というのが結構多くなっているのです。

そういう意味でも、語りというのは非常に大事にしていきたいし、多分現場でそういうことがどんどん増えていかなという予想はされます。とにかく言語活動は重視していますので、クラブ活動というお話がありました。ぜひそれも継続して行って、パワーを付けて行ってほしいと思います。

### Ⅲ. 懇談

#### 1. 評価と助言

《小關》時間的には5時半までを予定しておりましたので、最後に助言というようなことで、委員の先生方から一言ずついただければと思います。村岡先生、どうですか。

《村岡》今、いろいろアドバイスをいただいたように、本当に素晴らしい活動だと思うのです。学生たちの成長ももちろんですが、本当に地域に役に立っているという。私は、実はそこが一番彼女たちの成長の、一つの大きなものなのかなと思って、やはり自分が役に立ったというところで心が成長していくと思うので、今後はこの素晴らしい活動を続けていけるように、これからも頑張っていきたい。何か感想みたいな感じですね。

《小關》ありがとうございます。手塚先生。

《手塚》いろいろおしゃべりしてしまいましたが、2年目ですよ。スタートして、点で始まって、岩佐先生が一生懸命頑張ってくれてくださった会だと思うのです。線になって、面になってということで、2年間でここまでというのはすごい、かなりのエネルギー活動だったかと思うのですが、そうすると今度は、先ほどお話が出ていた、どういう道をこれから将来像として、学んで巣立っていく学生で将来自分が教員としてというふうにしたときに、夢の実現に向かうときに、さらに、できればあまり困難でない、少しでも実現できそうな時間と労力で、できるだけ短期で、何か少し出していけるようなことは、これから多分、お考えだ

という話もあったのですが、ぜひそれはお願いしたいと思います。

それから、今日のテーマの中で、「平和につながる言葉の力」とありますが、今日など見ていると、その言葉の力を借りて、みんなが笑顔になって、笑いが出ていて、つまりそれはまさしく平和につながる一番の近道だと、今日は参加してそのように思いました。ぜひまた何らかの形でお役に立てるといいと思っております。

《山口》私は、時々活動ぶりは見るのですが、やはり、この2年間で、先生方がおっしゃるようにすごく成長があったと。その2年間で、先生方が本当に情熱を注いで学生の活動の基礎づくりはきつてきたと思うのです。その上に今度はさらにクラブと。クラブになるとまた違った、そこでの学ぶことがあると思います。

それから社会人の方も、これもまた素晴らしい活動だと思えます。まさに、先ほどもおっしゃいましたが、ニーズがさらに増えるのだと。ニーズのニーズがね(笑)。そうだと思います。そこに先生方も、約半数ぐらいは小学校ですか、教員が参加していると。そちらの方もきっと、始まってやりだしたものの、必ず壁にぶつかると思うのです。どの先生方も、もともと専門ではないですか

ら。次にまた勉強し直してみようというようなことで、こちらの活動も少し発展して、継続していただけたらいいかと思います。

## 2. まとめと日程調整

《小關》ありがとうございます。もう一つありまして、「まとめと日程調整」というのがあります。あと1年、この文部省の事業の期間が続きますので、3年間まとめて見ていただけますと大変ありがたいと思っております。ご公務の関係など、いろいろおありかと思しますので、またあらためてお願いいたしますが、ぜひよろしくをお願いしたいと思います。次回の日程調整ということになります。先生方も学校のご都合などいろいろあると思いますので、最終的には1月ぐらいに最後の活動報告会と評価委員会を開いて、その結果などをすべてまとめた冊子を1冊作りたと思っています。それは来年度の3月中には作らなければなりませんので、そういう意味で1月に一度、活動報告会と外部評価委員会を開きたいと思っています。

少し落ち着いたところでまたご相談させていただきたいと思えます。今日はどうもありがとうございました。

# 2009年度 文部科学省「学生支援指導プログラム 選定事業」 恵泉地域言語活動研究会 第3回外部評価委員会

日時：2012年1月28日(土) 13:30~15:30

場所：恵泉学園大学 多摩キャンパスA206

## I. はじめに

### 1. 取組担当者挨拶

《小關》文部科学省の学生支援推進プログラムに選定されて、この3年間活動をやってまいりました、恵泉地域言語活動研究会の第3回目の外部評価委員会を開催いたします。本日はよろしくお願いたします。

初めに、取組担当者挨拶をいただきます。まず大谷先生、お願いたします。

### 2. スタッフ挨拶

《大谷》本日は朝の活動報告会からお付き合いいただきまして、長時間ありがとうございます。大谷です。どうぞよろしくお願いたします。

本年度は、これまで外部評価委員だった村岡先生が内部に入られて、英語コミュニケーション学科主任の長阪朱美先生を外部評価委員にお迎えし、また、コーチが2名代わっての新体制でのスタートとなりました。

今年度はこれまでと同様、またこれまで以上に充実した活動ができて、3年間の期間を終了することができたと思っております。これもひとえに会の取り組みを支えてくださった皆さま、活動校の関係者の皆さま、コーチの皆さん、先生方のご協力があったことだと思います。今後もこの活動がいい形で継続しますように、アドバイスをいただけたらと思いますので、よろしくお願いたします。

《村岡》英語コミュニケーション学科の村岡と申します。去年まではそちら側に座っていて、肩身の狭い思いをしておりました(笑)。私はこちらの方が似合っているので、今年はコーチたちや大谷先生と一緒に存分に活動に関わることができて、とても楽し

## I. はじめに

1. 取組担当者挨拶
2. スタッフ挨拶
3. 外部評価委員から一言

## II. 取り組みについて

1. 資料確認
2. プロジェクト2011年度実施状況
3. 活動報告：KEES・恵話会
4. 質疑応答
5. プログラム総括

## III. 懇談

1. プロジェクトの今後について
2. 評価と助言

い1年でした。今日はよろしくお願いたします。

《須藤》3年間のこのプロジェクトにかかわらせていただき、KEES・恵話会のコーチとして学生とここまでやってきました。今日はどうぞよろしくお願いたします。

《飯窪》私は今年度からKEES・恵話会のコーチとしてこのプロジェクトにかかわらせていただきました。3年間のプロジェクトの最後の1年をコーチとしてかかわらせていただきましたが、最初の2年は学生時代にかかわらせていただいたので、こうして最後までかかわらせていただけて、うれしく思っております。本日はよろしくお願いたします。

《川名》飯窪コーチと同じく今年度からコーチとして就任させていただきました。2年前に恵泉を卒業しましたが、恵泉在学中に一番心を注いだこのKEESの活動に携わることができて本当にうれしく思っております。よろしくお願いたします。

《小關》事務局の小關です。3年間やってきました。実はその1

前に社会人の小学校英語活動指導者養成講座を始めまして、その前には岩佐先生が、海外からクイック・クリーブランド先生を呼んだり、未来塾の方たちをお呼びしての発音訓練とか、さまざまな英語のプログラムをやってきました。その中で、岩佐先生が小学校英語活動支援として、学生たちを外に連れて行って、学校の現場でお世話になりながら学生たちに学んでもらうという活動を始められていたのを拝見していて、これを何らかの形で支援できないだろうかと思っていました。(中略)「学生支援推進プログラム」という就職対策を一番のねらいとした補助金の募集がありまして、これに応募することとなり、幸いに採択され、3年間の補助を受けることとなりました。私にとってはこの活動をどう継続させるかということが、この3年間の補助が終わる今年度の最大の課題でした。

その道筋を付けるために、大谷先生、村岡先生、そしてスタッフのお三人のコーチたちがいろいろな形で努力をしてくださった。ここで総括することはないのですが、苦しい1年間だったなと思っています。

### 3. 外部評価委員から一言

《手塚》こんにちは。午前中、本当に豊かな時間を過ごさせていただいたなど、とても良かったなと思いました。先生方の、それから学生さんもそうでしたが、涙を見て、ご苦労とかも含めて、すごく充実したいい時間を過ごしたのだろうかというか、大変だったのでしょうか、胸いっぱい3年間というか、終わることへのいろいろな思いがあった涙だったのかなと思って、そこにちょっぴりでもかわらせていただいたというのが、私自身は幸せだったなと思っています。

私は3月で現場の校長を退職して、今、同じ市内なのですが、適応指導教室で不登校、学校に行けない子たちが通っている教室に、小学校5～6年生と中学1～3年と来ているのですが、たまたまこの会のご縁で、最後の学校の城山小学校のときに来ていただいた学生さんが、誰かいないかということでお願いしたら手を挙げてもらって、来てくださっていて、今、都合3名の方が恵泉から来ていただいているのです。

その学生さんが、恵話会でやはり大きくなってきたな、成長してきたなというのが、最初のお話のところの場面からずっとまとめたものを運良く見ることができて、今も週1回ですけれども来てくれていますので、そんなことで、私は私の立場で彼女のこれからを見ながらサポートを、ちょっと時々助言したりもしているのですが、とてもいい姿で、彼女自身の生きる力になっていっているのだろうなど。

人前であれだけ堂々と、それから、中学生なんかも指導していたり、声の出し方なんか、蚊の泣くような声がすごくはっきりしてきたと。そんな姿を見ていまして、先ほどもちょっと向こうで話していたのですが、何とかまたプログラムが違う形でできたら、いい学生さんとかいい社会人が育っていくのだろうなと思っています。

今日はどうぞよろしくお願いいたします。

《山口》もう3年ほど前になるのでしょうか。多摩市内の英語の先生の研修会で、そこにいる川名さんたち学生の模擬授業を見せてもらったのが始まりなのです。それからまた、恵話会の発表会や何かを見せてもらう中で、授業でもないし、部活というのですか、サークルというのですか、そういう活動で、どうしてこういう熱意ですかね、一生懸命取り組んでいるその姿を見て、今日の午前中もそういう場面がたくさんありましたが、どこから来るのかなと。そういう熱意がどこから出てくるのかなと不思議に思ったことから、私自身関心を持っていて、そして、岩佐先生に言われるのを何でも「はい」と言っていましたら、外部評価委員になっていまして。

外部評価委員らしいことは何もしていませんが、こういう機会に学生さんが、社会人の方もそうですが、見せていただくことで、いい活動しているなど常々思っていました。今日もまた同じような気持ちで、午前中はいました。よろしくお願いします。

《小關》長阪先生は、本学の教員ですから、内部の外部評価委員という不思議なお立場ですが、よろしくお願いします。

《長阪》そうですね。この3年間、やはり続けることは大変だったと思いますので、3年間続けたということは、とても大きな成果だったと私は思います。それから、KEESの活動や恵話会の活動は、学園祭などの別な機会を通してキャンパスで時々拝見させていただきましたが、今回というのが最初から最後まで初めてのですし、外部評価委員という立場で見たのも初めてです。やはり皆さまがおっしゃってくださっているように、学生の成長というのが私は本当にうれしく思いました。やはり大学の講義や授業とはまた違う学生の成長が、こういうプログラムでこそあるのだということは、私は大変貴重なことだと思いました。それが一つです。

もう一つは、地域に学生たちがボランティアという形で参加して、地域に育てられるということがあることも、地域と切れない形、地域とつながる大学ということでは、本当に貴重な経験を学生もさせていただいたし、そして地域とのつながりができて、本当に良かったなと思いました。

文科省の就職のためのプロジェクトだったとは初めて知りました(笑)。恵泉だけは少し違っている。これは、やはり就職のための大学ではないので、恵泉は教育をしていて、大谷先生が(活動報告会で)おっしゃったように、就職だってきちんとできている。教育をして就職につながるというのは、一番私は正当なことだと思いました。こういうことを恵泉は地道にやってきたし、これからもしていきたいとつくづく思いました。またお話を、この中でも、気が付いたことを皆さんからいただきたいと思っています。

《小關》ありがとうございます。では、実際の中身に入っていきたいと思いますが、まず取り組みについてのご説明をしたいと思っています。その説明をするに先立って、資料の確認をさせていただきますと思います。資料を作ってくださいました須藤コーチから簡単に、資料の確認をお願いします。

《須藤》承知いたしました。(中略)

#### 資料 目次

- ・ KEES・恵話会3年間の活動報告
- ・ 学生名簿 (KEES・恵話会)
- ・ KEES恵泉英語教育研究会 資料
  - ① トレーニングスケジュール
  - ② 英語絵本リスト
  - ③ 聖ヶ丘小学校資料
    - ・ 外国語活動報告
    - ・ 2011年度指導案
    - ・ 学生による活動報告書
  - ④ 西愛宕小学校資料
    - ・ 外国語活動報告
    - ・ 2011年度指導案
    - ・ 学生による活動報告書
- ・ 恵泉お話を語る会 (恵話会) 資料
  - ① ミーティングスケジュール
  - ② お話を楽しむ会プログラム
  - ③ 学生による報告書
- ・ KEES・恵話会 合同行事
  - ① スプリングフェスティバル
  - ② 恵泉祭
  - ③ クリスマス会

## II. 取組について

### 1. 資料確認

《小関》たくさんの資料が入っていて、これを確認させていただいたところで、続いて、取り組みについての2、「プロジェクト2011年度実施状況」、これについては大谷先生お願いします。

### 2. プロジェクト2011年度実施状況

《大谷》先ほどの資料を見ていただくページもございますので、併せてお伝えしながら、実施状況ということでお話をさせていただきます。午前中に話した内容と重複するところがあるのですが、KEES、恵話会、それから、社会人の講座の順番にお話をしていきます。活動校の小学校と恵話会については、この後、コーチの方から資料を見ながら詳しくお話しますので、私の方からは概略ということで説明をまいります。

まず、KEESですが、今年度は週2回のトレーニングとだいたいに1回程度の英語活動、学習支援を行ってきました。昨年度までと違う点は、2回のトレーニングのうちの1回を、英語力を向上させるためのトレーニングに当てたということです。その理由には、一つは、現役の高校教員の川名コーチを迎えたということ、もう一つは、公立小学校の外国語活動、英語活動が今年度から必修化されましたので、いただいている授業時間に対してきちんと英語力を持った学生を派遣したいということがありました。それで2回のうちの1回は英語力を上げるためのトレーニングを行ってきました。

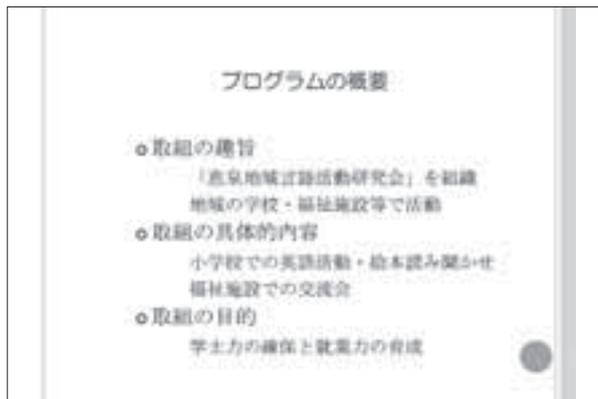
その資料が、「2011年度春学期 講義、及びお昼のトレーニング日程」になりますが、こちらにトレーニングと授業のスケジュールが載っています。その次のページをご覧くださいますと、月曜日のトレーニングと書いてあります。これが英語力を上げるためのトレーニングの例です。ご覧いただきますと、川名コーチが毎回手作りで、村岡先生に見ていただいて、そして毎回学生の興味がありそうな内容、しかも学生のレベルに合わせた内容を毎回用意してくれたものです。

これはスティーブ・ジョブズ氏の、iPhoneの案内ですが、こういった内容を毎回のトレーニングで用意してくれています。本当に素晴らしいトレーニングで、学生のためになると思いましたので、KEESの学生だけでももったいないと思ひまして、英語コミュニケーション学科の学生にチラシを配ったり声をかけたりしましたが、このトレーニングに参加する学生をなかなか集められなかったというのが、私の課題です。

それから、今年度の活動校についてですが、先ほど報告会でも、今年は多摩市と連携を深めて、多摩市内の3校で行いましたとお伝えしました。どの学校もKEISEN小学校指導者養成講座を修了された先生方がいらっしゃる勤務校で、ぜひKEESの学生に来てほしいという熱いラブコールをいただきまして、地域からの要請にできるだけお応えしたいということもありまして、西愛宕小学校、それから聖ヶ丘小学校に学生を派遣しております。もう1校、豊ヶ丘小学校は、私たちが教員研修を担当させていただく中で、その研修の際にいらっしゃる先生からお話をいただきまして、2～3月と学生が英語活動で何うように予定しております。

それから、各学校それぞれ年間35時間の英語活動が義務化されていますので、学校の取り組みというのがあります。私たちが何うのは月1回程度ですから、先生方が通常行われている英語活動と私たちの英語活動をうまく連携させたいということで、できるだけ活動校の現状を伺って、先生方のご要望を伺って、それに合わせて英語活動を準備し、展開してまいりました。

その特徴として挙げられるのは、西愛宕小学校は、去年も何う



た学校ですが、合同発表会ということで、高学年の児童が低学年の児童に英語活動を見せるという発表会がありました。これは昨年こちらからの提案で行ったものなのですが、先生方は最初「いや、これはちょっと難しいかも」とおっしゃったのですが、大変児童に喜んでもらいまして、ぜひ今回もというように学校から依頼をいただき、それにお応えする形で合同発表会を行うことができました。詳しくは西愛宕小学校担当の飯窪コーチに後でお話ししていただきたいと思ひます。

また今年度から英語活動が必修化されまして、『英語ノート』を使っている学校が多くあります。私たちは毎回活動にテーマやストーリーを持たせているのですが、それが『英語ノート』とまったくかけ離れていては、先生方も連携させるのは難しいと思われるかと思ひました。この(『英語ノート』)の中で、全部で9レッスンあるのですが、3レッスンごとに「Let's Enjoy」という、復習と子どもたちが楽しめるレッスンがあります。ここを使って今年度はテーマを選びました。

動物をテーマにしたレッスンでしたら、「Going to the Zoo」という歌を歌ったり、誕生日というテーマもございましたので、そのときには先ほどの『Fortunately』という絵本を読んだり、Let's Enjoy 3 では「すごろく」を使ってこれまでの復習をしました。

全体を通じて、学生が外で学ばせていただいたこと、気付いたことを大学に持ち帰って、それを一緒に深めて、また準備をして、次に臨むということが年間を通じてできたので、それは大きな収穫だったと思っております。

次に恵話会ですが、恵話会は3年目の会になります。昨年度まではコーチと一緒に活動先を開拓したり、お話会の企画をしたり、共に練習をしていましたが、今年度からは学生主体で、そして、顧問に小関を迎えて、新しい体制でスタートしました。

活動内容はこれまでと同じで、お話会の企画とか、学園祭の発表とか、交流会になりますが、やはり最初から自分たちで組み立てていますので大変時間がかかりましたし、民主的な話し合いをして臨みますので、それに時間がかかったということで、奉仕活

動の回数に関しては昨年度より若干少なくなっています。ですが、学生たちで企画、発案して、それを実行に移すということで、また今までとは違った達成感、学びがあったのではないかと思います。

恵話会のミーティングは、毎週金曜日のお昼休みに隣の南野キャンパスで行っていました。その前に、火曜日に事前に役員でミーティングを開いて、その週は何を話し合う、どういったことを決めなければいけない、このお話会ではこういったことを発表したいというような意見を出し合って、本当に手作りで進めてきた1年間でした。

それから、先ほどKEESの発表と恵話会の発表をご覧いただきましたが、同じ顔ぶれにお気づきになったと思います。名簿も用意しておりますが、両方の会に所属する学生も数名おりまして、この二つの会が合同で行事を企画し、実施するというのも何回かございました。このようにすることで、一つの会だけではなかなか人数が足りない、時間が足りない、手が足りないということできないことも、力を合わせて開くことができるという良さがありました。また、使用する言語は英語や日本語と違うのですが、言葉を越えた普遍的なもの、例えば聞き手を、どなたが聞いてくれるのかということ想定してお話を選んで準備をすとか、保育園児を迎えて、その園児に対する思いやりを示すとか、そういったところで、使用する言葉は違えども気付いたことがあると思います。

さらに、両方の会に共通することとしては、コミュニケーション能力の向上が挙げられると思います。こちらについては、本当に私たちも関心させられることが多々あります。先ほども話すことが苦手だったという学生がいましたが、コミュニケーション能力、例えば社会言語能力だったり、方略的能力だったりと言われますが、つまり、その場にふさわしい内容を自分の言葉でしっかり準備をして、内容を組み立てて、相手に伝わるように言葉で伝えるというような力が、二つの会に共通して備わってきたことを感じております。

それから、学生支援推進プログラムの対象ではありませんが、「KEISEN小学校英語活動指導者養成講座」という社会人を対象にした会がございます。こちらについては、今年度は開講いたしませんでしたが、昨年度講座を修了された方が、履修証明制度によって児童英語関連の授業を取られ、そして、その履修証明を取られた方が今度は一緒にボランティアをして、そして、その中には今年の秋からKEES学生の指導に携わってくださっている方々がいらっしやいます。今日、絵本を発表された4名の方ですが、また来年度以降もボランティアで学生の指導に携わってくださることになっております。

今年度の実施状況について、私の方からは以上です。

《小關》では、引き続き、KEESと恵話会のそれぞれの活動についてお願いいたします。

### 3. 活動報告：KEES、恵話会

《須藤》では、お手元の資料の次が、聖ヶ丘小学校の資料になります。5月からスタートして1月18日、つい最近最後の活動を終えました。全部で7回の活動でした。学年は1年生から6年生まで、さまざまな学年の学級で活動させていただきました。

次のページになります。先ほど大谷助教からお話がありましたように、履修証明取得を目指す社会人と学生が合同でA班とB班に分かれて、それぞれの学級に入り、時には学習支援を分かれて行い、その後、相手チームの活動に参加し、自分の活動学級に臨む、こういった一つの例です。これは春学期です。秋学期は社会人の方々が終えられ、先ほど報告会の導入の部分を発表した2年生が加わりました。半年間でしたが、またちょっとにぎやかに



なりまして、活動させていただきました。

そして、次のページが指導案の一つの例ですが、絵本は“Papa, please get the moon for me”という児童の大好きな仕掛け絵本を使用しました。形、circle、starなどを習い、月も形が変わっていきますので、それが目標言語になりました。

この指導案の次にあるのは、もう一つの例なのですが、絵本は“Where the Wild Things Are”です。これを英語で児童たちに読みました。結構、手ごわかったです。かなり工夫しました。「すごろく」を教材として使い、今までの既習事項を復習しました。

次にそれぞれの学生の報告書についてお伝えします。この学生は春学期に班長をしました。この班長をしたことでとても変わりました。たとえば、こういうふうにしたらみんながきちんと集合できて、間違いなくみんなで一緒に学校に訪問して、と本当にリーダーとして細かい気付きまでできるようになりました。

次の学生は視覚障害がありますが、優れた聴覚を生かして、活動では、いわゆる目標言語をリズムカルに行うチャンツ、それから歌、そして、ストーリーも仲間とすればストーリーが児童に伝わるということで、そういうことにも挑戦しました。ただ、グループに分かれて読むと、いろいろな音が聴覚のいい彼女に入ってきます。そうすると、かなり難しいのですが、様々な音が聞こえても、普通学級の児童たちはきちんと集中できるのだと、彼女には大きな発見になったようです。周りの学生も、私たちコーチも、この学生を通じてたくさん学ぶことができました。

次は4人のチームで6カ月間活動した学生です。先ほどの報告にもありましたように、本当に時間を惜しむことなく、土曜日もしっかりと大学が使えないと自宅に集まって練習するという、熱心さでした。それは他の学生に刺激を与えました。練習することが、現場に行ったときの授業の喜びに比例するという学びにつながりました。

次の学生は、後期に班長になりました。2年間という大変な時間をかけて、先生方、学校現場、仲間、コーチなど、みんなと授業を作り上げていった喜びは、彼女にとっては大きな収穫であったと思います。以上です。

《飯窪》その次のページ以降が西愛宕小学校の報告となります。計8回の学校訪問をさせていただきまして、そのうち5回が外国語活動、残る3回は、先ほどからお話にあがっております、合同発表会本番と2回の事前練習でした。

聖ヶ丘小学校は1年生から6年生までを対象にしていることに対して、西愛宕小学校では5～6年生に設定し、活動をしてまいりました。同じく『英語ノート』を基本とした指導案ということは変わらないのですが、やはり対象学年が高学年であるということで、学習事項や歌、アクティビティなどを対象学年に合わせて設定したという特徴があります。

先ほどの報告会でもありましたように、西愛宕小学校はすべて単学級、かつ少人数の学校というところが大きな特徴となってお

ります。それにもかかわらず、1回の授業に、担任の先生に加えて専科の先生2名が一緒に活動をしてくださっています。そのうちのおひとりが、音楽専科の先生で、毎回歌っているハローソング、グッバイソング、時にはシンギングタイムで歌う歌などの伴奏をやってくださったり、スピードも子どもたちの状態に合わせてくださったりと、より良い活動ができるように、先生方と協力させていただいて、毎回毎回の授業をしております。

また、この表の下の方に、各学年の担任の先生の隣に学生の名前があるのですが、外国語活動だけではなく、学習支援、また給食まで頂き、半日子どもたちとともに過ごし、子どもたちとのやりとりの中から外国語活動への気持ち、モチベーションがあがりました。そのように、子どもたちとのやりとりを大切にしながら、この1年間活動をしてまいりました。

次のページをご覧ください。こちらが合同発表会の資料になりますが、プログラムは中央あたりにあります。この劇「Who Will Guide My Sleigh Tonight?」では、こちらの絵本を基にして劇化に挑戦しました。昨年度からこの合同発表会を始めましたが、昨年度の作品よりは少し難しい内容です。やはりこちらは1年間の中でも最も難しかったという印象のある授業でした。ただ、学校の先生方と本当に協力させていただき、また、子どもたち一人一人の努力があって、この日は実にどの児童も、また学生も、とてもすてきな笑顔で活動を終えることができました。

では、続きまして指導案が2種類ございます。まずは6月の活動ですが、こちらの「Good Night, Gorilla」という絵本を基に行いました。目標言語はここに出てくるたくさんさんの動物たちです。こちらの目標言語を、フォニックスを通して英語特有の音を子どもたちに聞いてもらうことを目標にこの授業に取り組みました。

続いて、10月のもものでは、先ほどの報告会で発表させていただきました、絵本「Fortunately」を題材としました。最初と最後のろうそくを数えるページが見にくいのではないかとということで、それらのページを拡大し、電子黒板に映していただき、炎も、燃えるように、分かりやすくやっていただきました。

その次に学生の報告書がございます。今年度からKEESの活動に参加した学生は、本当に初めて小学校に行き、子どもたちと触れ合い、先生方と出会ったときの感動、子どもたちとやりとりをすることの面白さ、そして大変さを鮮明に感じております。この1年間、上級生に囲まれた中、休むことなく、一生懸命、誠実に毎回毎回の練習や活動に取り組み、上級生にも刺激を与えました。

次の報告書は、7月の活動からですが、毎回活動の後には振り返りの時間を学生とコーチで持っています。その毎回の反省に、練習不足というものが挙がっている、毎回挙がるとはどういうことだ、それは反省を生かしていない証拠だ、どんなに授業やいろいろなものがあって大変な状況であれど、その出た反省点を生かす努力をすることも大切だという、とても具体的な、かつ的確な目もち、臨んでおりました。

また、班長をすることで変わった学生もいます。闘志に燃えているというか、内なる思いが本当に強く、温かい彼女らしさが前面に現れました。子どもが大好きで、一人一人の児童の笑顔を見るために、この2年間、小学校に通っていました。また、今年度は、学習支援で2年生に入っておりました。その中で、外国語活動以外の現場の先生から、教師として必要なこと、声に抑揚を付けるとか、めりはりを持って話すことの大切さというの、学んでおりました。

続きまして、先ほどの合同発表会のための練習として1回目には訪問に行った回の報告書ですが、このときは、いつもやっている外国語活動のスタイルとは異なりまして、本の読み聞かせと歌の発表だけだったのですが、その一つ一つの練習はしていたけれども、そのつなぎになる具体的な言葉かけがもっと必要だった、で

なければ子どもたちは何をやっているのかよく分からないという反省をあげております。これは、子どもたちのやりとりを大切にしたいという彼女の思いそのものです。

次の報告書も同じく12月の合同発表会の事前練習に伺ったときのものですが、やはり劇をやるに当たって演技をする必要がある、自分たちではやっているつもりだけれどもそれが子どもに伝わらなければ意味がないと、現場の先生からお言葉をいただいて、それを強く心に留め、彼女のとても素直な気持ちで、真摯に受け止めた様子が見受けられます。

最後の報告書は、合同発表会を終えた後の報告書です。成功に取めることができましたが、それはひとえに時間を割いて指導をしてくださった熱心な現場の先生方、また、子どもたち一人一人の努力故の成功だったと述べております。確かに今回は劇の取り組みは大変難しかったのですが、その中で子どもたちが期待していた発表会を本当に実現することができたという点、また、先生方と協力することができたという点で、本当に今年度も続けることができ、大変意味がある合同発表会ができたなど、彼女の報告書からも振り返ることができました。

以上で西愛宕小学校の報告を終わります。ありがとうございました。

《小關》次は恵話会の報告ですね。

《川名》はい。今年度は新たに体制を変えまして、小關顧問をお迎えし、9名の3年生の学生とともに活動してまいりました。

一番最初のページがミーティングスケジュールになります。このように年26回のミーティングを9名のメンバーで行ってまいりました。また、このミーティングのために4名の役員も毎週火曜日に集まり、議題案を作成し、議事録を作成するなど、献身的に取り組んでいます。また、イベントの前には、このミーティングとは別に、個別に自ら練習に励み、時にはコーチの力を借りながら1年間頑張ってまいりました。

では、実際にどんな活動を1年間を通してしてきたかということですが、まず、6月にありました「第1回恵泉お話を楽しむ会」ということで、先ほどお話をいただきました伊東先生を講師にお迎えして会を催しました。

次の資料は、奉仕活動内容の報告になっております。まず1枚目が島田療育センターですが、そこでこのような活動をしてまいりました。またこのときの感想などは学生の報告書の方でお伝えいたします。

では、次をご覧ください。10月に活動を行いました、高齢者福祉施設であります、白楽荘での活動報告の記録になります。

最後をご覧ください。10月に活動しました、こころ保育園での報告書になります。このように保育園児が対象なのでわらべうた、歌を取り入れたり、または絵本など、短い詩など、小さい子が喜ぶような内容になっています。

最後に、活動内容の学生の報告書を5つ紹介いたします。まず



初めに、3年生の恵話会の副会長ですが、献身的に活動したメンバーの一人になります。彼女は当初から、この恵話会が新しく今年度から新体制となったことで、もっと独立しなくては、自分たちの足で立っていけるサークルにしていくのだということで頑張りました。

次は、5月に本校でありましたスプリングフェスティバルでの発表の報告書になります。彼女も役員の一りで、同じく今年度からの新体制ということで、新しいことに挑戦しようということで、今まで恵話会では語りだけではなく、詩やわらべうたなどいろいろなものを発表してきたのですが、このスプリングフェスティバルでは全員で語りやろうと持ちかけたメンバーの一人です。結果としては、そういった何か新しいことに取り組むということで、みんなが団結できたのではないかと報告書を書きました。

次をご覧ください。「第1回お話を楽しむ会を振り返って」ということで、伊東先生をお迎えしたお話し会での報告書になります。この学生は、役員ではないのですが、会を通して、この恵話会というものがどうしたら良くなるのか、みんなでどう協力すればそれぞれが成長していくのかということ、役員でなくても周りのことを考えながら活動しました。

次をご覧ください。鳥田療育センターでの奉仕活動の報告書です。鳥田療育センターで班長を務めた彼女にとって、この班長という役がすごく大きかったようで、いろいろ不安などを抱えていたことがこの報告書から見取れます。でも、結果としては、みんなで力を合わせて、班長だけでもいろいろな人に支えられて、または自分からの働きかけで達成できたということで、いろいろな思いと達成感を味わったことが見て取れました。

では、最後です。恵泉祭で発表した際のものになります。先ほどもありました、「一人は賑やか」という茨木の子さんの詩を彼女は発表したのですが、同じ詩をこの恵泉祭でも発表しました。彼女は毎回すごく素晴らしい報告書を書いて、発表も素晴らしいのですが、本当に感性に満ちあふれた人というか、見ていて安心できるメンバーの一人です。

資料はここまでなのですが、この1年間、恵話会の新しい体制ということで、基盤づくりでいろいろ先生方やメンバー一人ひとり大変な1年だったと思いますが、この体制をまた来年度もつなげて、末永くこの会が続いていってくれることを願っています。

以上で私の報告は終わりです。ありがとうございます。

#### 4. 質疑応答

《小關》ありがとうございます。続いて委員の先生方かたご質問をいただき、これに対して補足説明をいたします。いかがでしょうか。

《山口》合同発表会というのは、よく分からないのですが、5年生か6年生の授業を、その下級生がみんなで見ているというようなことですか。

《飯窪》通常KEESの学生は5～6年生で授業をさせていただいていますが、その授業を同じようなスタイルで、5～6年生が下級生に向けて発表を行ったものを合同発表会と呼んでおります。これを12月14日に、絵本を基に発表会を行ったのが、西愛宕で使っている合同発表会の詳細です。

《村岡》普通だったら児童が受け身ですよ。それを、児童がいわゆるKEES役になって、下級生に教えるというものです。

《手塚》最初のスタートは学校側の提案なのですか。

《大谷》昨年度はこちらから提案をさせていただきました。須藤コーチの提案です。そのときは、先方から先生が二人みえましてお話があると。どういうことかと伺いましたら、「いや、これは難しい、無理だ」ということで、「大丈夫ですよ」と須藤コーチが声をかけられて、「一緒に頑張りましょう、一緒に作りましょう」と

いうことで頑張った成果が1年目に大きく表れましたので、2年目は学校からご提案いただきました。

《村岡》3年目は新たな小学校からやってほしいと声がかかりましたので、どんどん育っていているなという気がいたします。

《手塚》小学校は6年間ありますよね。上級生がやっていることを低学年が発表会で見ることで、要するにあこがれの対象になっていくのですね。「高学年になるとこの学校ではああいう活動ができるのだ、発表会ができるのだ、僕たちもやりたい」と。だから、あこがれとか、ステージアップの一つの材料になって、ぜひ学校で継続したいということがあるのだとしたら、ぜひ応援して、サポートしていただけるといいかなと思います。

《村岡》そうですね。西愛宕小学校から、来年度はこの日をお願いしますとすでに言われています。豊ヶ丘小学校でも同じようなスタイルで、うちの学生が行って、4週間後に発表ができるように児童を指導していくというのが、また来月から始まります。

《手塚》この時期というのは、学校は年間の教育活動なども提出が終わっているのです。学校評価をして、次年度もほぼ作り終わっているわけですよね。そういう話があるということは、もう学校の中の教育活動として成果があったということで、多分位置付けられていっているのかと思います。

《村岡》はい。それに多分興味を持ったほかの先生が、うちでもぜひという、そういう流れができております。

《手塚》そうですね。素晴らしいです。

《山口》上級生を指導するのはそう簡単ではないと思うのです。KEESの学生さんがする分には、まあ訓練してできるのでしょうか、5～6年生に指導するというか、そこは結構大変なのではないですか。

《飯窪》大変です(笑)。そうですね。昨年度は「大きなかぶ」の英語劇ということで挑戦したので、子どもたちはストーリーを知っているし、内容もよく分かっているの、英語に挑戦するという気持ちだったと思うのですが、今回は新しいストーリーに挑戦するというので、先生方も昨年以上の恐らく「本当に大丈夫か」というようなお気持ちだったと思います。

本番を迎えるまで、先生方も本当にご苦労いただいて、学生も、どういうふうにしたら子どもたちが気持ち良く演じることができるか、また、それを下級生が見て本当に内容が分かるかどうか、そのためにはどういうふうにしたらいいのか、というのを、5～6年生に伝えることも、KEESの学生にとっては本当に大変なことだったのですが、やはり子どもたちの成長を間近で見ることによって、先ほどの報告にもありましたが、彼女たちにとっての活力になるので、それが、今回の発表会を成功とできた理由になるかなと思っています。

《長阪》とてもポジティブなことがいっぱいあったのですが、何か思っていたことをやってみたら、「ああ、生徒の反応は違った」ということとか、全然反応がない生徒さんがいたとか、そういうネガティブなことは何にもなかったのかしら。どうでしょうか。

《大谷》ネガティブなこと。やってみるとすべていい方向に見えるのですが、もちろん失敗はあります。この中にもありましたが、教材を用意してせっかく使おうと思って行ったのに、やろうと思ったら教材がないというようなこともありました。なければなくて学生はちゃんと教えることができるようになりましたし、想定外のことはありましたが、それをまたチャンスに変えて。

《長阪》それはでも、素晴らしいことですね。そこで慌てないで、ちゃんとないならないなりにしっかりやっていこうという。

《村岡》でも、多分、担任の先生が、輪に入っていけない児童に対するケアはしてくださっています。そういう担任の先生の協力があって、何か成功した形に見せてもらっているのかもしれない。

《長阪》それはそうですね。1カ月1回行くのに、一人一人の生徒さんまではなかなか分からないから、そこは担任の先生が、この子はこういう子だというのはよく分かってサポートに回ってくださっているのですね。

《手塚》あと、英語活動が本格的に始まって、教科書的に『英語ノート』を連携させながらとおっしゃっていた、それはいいこととか、大事なことだろうと思います。学校によってスタートが、もう数年前からやっている学校と、いよいよ始まるからちょっとやりださなければいけないという準備しだした学校とあったと思うのですが、そういう意味では、月1回、3回ぐらいやっていたその4回目あたりで、『英語ノート』とうまくリンクして指導案を作ったというのは、とても大事なことだろうと思って考えていました。

指導案は素晴らしいですよ。ここまで毎回やっていたら大変でしょうが、でも受け手の学校としたらとてもやりやすいだろうと思っていました。素晴らしい。

《長阪》私は一つとても感心したのは、毎回テーマとストーリーという軸を持って、核になって、やはり軸になるものを必ず設定するというはとても私はいいと思ったのですが、初めのところからそれは設定してあったことですか。1年目とか。

《大谷》岩佐先生のときからです。そのときは Story-based Approach という言葉は使ってはいなかったのですが、須藤コーチに指導してもらってようになってから、やはり絵本を中心に組み立てたいという希望がありました。また、絵本だけで、現場でやっていることとまったくつながっていないと、先生方も大変だし、児童も混乱しますし、それで、どちらも融合する形で今年度はそういう流れで行って来ました。

《長阪》とてもそれは、毎週やるのとは違って、月1回というのはとてもやりにくいけれども、そこでブリッジをするという形にうまく持っていったのだなど。それは『英語ノート』のテーマとストーリーと歌を関連付けていったというのが、私は成功した大きな要因ではないかと思いました。

《大谷》お話の力はとても大きいので、例えば教える技術が未熟でも、ストーリーやテーマに助けられるところもありますし、絵本をこれにしましょう、と決めると、指導案も組み立てやすいし、教えやすいような気がします。絵本には助けられています。

《長阪》それから、恵話会のところで、スプリングフェスティバルは語りだけにしようということですが、語りだけにしたというのは何か理由があったのですか。学生さんたちの中で思いがあったとか。

《川名》やはり語りというと、何も見ずにお話を話すので、そのお話もすごく長い。先ほども最後にIさんやKさんも話しましたが、本当に5分、10分長いものなので、やはりハードルが高いのかなと。

《長阪》でも、あえて難しい語りに挑戦をして、やり遂げて、それが力になったということなのでしょうね。でも、学生さんがそうやって自分で決めて、自分でチャレンジをするというのは、とても。こちらから「やれやれ」というのはなく、自分たちが「やってみよう」というのは、とても私は、そうやってチャレンジしたのだなと思いました。

《小關》東北大震災などもあって、その支援に行ったときに、各自語りをできるようにしておきたい、ということも考えていたようです。

《小關》どうして語りになったのかな。わらべうたでもよかったですけれども。

《大谷》あえて語りに挑戦したいという声が学生たちからありましたね。

《飯窪》恵泉お話を語る会で恵話会なので、みんなで語りに挑戦

してみようという声からということもあったと思います。

《長阪》ももとの、最初のそういった会というのに戻って。これも難しい方に挑戦すると。分かりました。

## 5. 総括

《小關》時間等の都合もありますので、プログラムの総括に移ります。

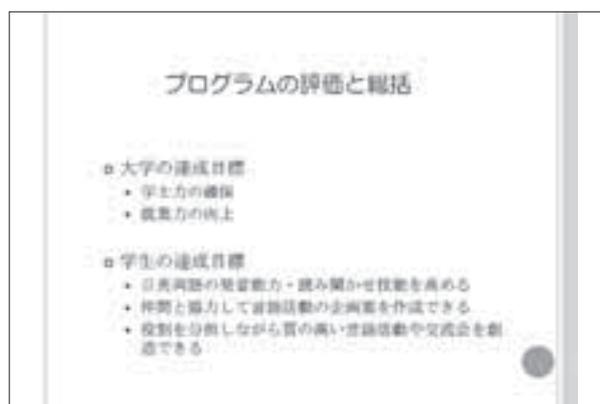
《大谷》では、私の方から半分と小關さんから半分ということでお願い致します。

まず、このプログラム全体を振り返るときに、一番最初にお配りしました申請書の目的、目標が達成できたのかと私の方で見ました。先ほど報告会でご覧いただきました、「就業力の向上」、「学士力の確保」、また「会員数を倍増させる」とか、そういうことをうたっていたのです。

まず、会員数ですが、倍増には至りませんでした。特に恵話会はなかなか新入会員が集まりませんで、KEESに関しては微増の傾向なのですが、引き続き会員を確保するための努力をしていかなければいけないと思っています。

それから、就職率についても、実は指標を細かく決めておまして、就職率を90%から95%に、教育福祉関係のパーセンテージを70%に上げたいと、当初希望しておりました。こちらについては、活動を始めて2年目の卒業生で、このパーセンテージをクリアできています。ただ、この春卒業する今の4年生については、今年は東日本大震災の影響もあって、就職活動が長期化し困難を極めておりますので、まだ期待どおりの数字が上がっていない現状です。また、3年生も既に就職活動を始めておまして、今の3年生、4年生が卒業生に続く数字を上げてもらえればと希望をしています。

それから、学士力ということでは、あらためてどういうことなのかと文部科学省のホームページで見ましたら、四つありまして、一つが、専門分野の基本的な知識を身に付けて、それを社会や歴史などと関連付けて理解する「知識、理解」。2番目が、日本語



と外国語を使って読み・書き・話ができるなど、社会人生活に必要な「汎用的技能」。そして3番目が、協調性や倫理観など、「態度、志向性」。そして最後が、これらをすべて活用して課題を解決する「創造的思考力」とあります。このように見てみますと、これらはまさに恵泉地域言語活動研究会の学生が付けてきた力なのではないかと、あらためて思いました。

活動しているときは目の前にあるイベントとか、次にこれをしなければいけない、学生がこう言ってきた、そういう対応に追われて、申請書というのは頭の片隅にありましたが、なかなかそのとおりに動かない部分がありました。ただ、今回もう一度読み返してみますと、たとえば社会人の講座を終えた方をボランティアで指導に来ていただくということは、最初から実は申請書にうたわれていたことなのです。本当に今回見直してみても、青写真どおりというか、意図してきた方向に進んできたのだなというのをあらためて思いました。私の方からの総括としては、以上ですが、続いて小関さんから、一言お願いします。

《小関》申請書というのは、書くべき用語というのがある程度決まっております、その中で書いていかなくてはいけない。教育活動で具体的な数字を上げて、これを到達目標として出すことは簡単なのですが、実際にそれを実現させることはものすごく難しいことだと思っています。それ以上に、どうやって成果を測るのか、これがすごく難しいなとずっと思っていて、この事業が3年間で部分的にはかなりの成果を上げた、特に学生の力の向上という点では成果を上げてきたと思うのですが、本来の目的というか、補助金の目的である就職支援ということでは、正直どうなのだろうかという思いはあります。

それは社会的な条件が厳しくなっているということもあるかと思えます。あるいは、入ってくる、入学してくる学生の多様性というのでしょうか、これが、広がってきているということにどう対応していくか、いう思いが別途あります。

このプログラムについて言うと、一番私にとって大きい課題であったのは、どうやって今後につなげていくか、ここが本当に難しいところに来ているなと思っています。幸いに、ゾンタクラブ、今日もお話が出ていましたが、女性の地位向上を高めるための活動をしていらっしゃる企業経営者の女性たち、あるいは個人営業とか、そういう社会的にかなり活躍している女性たちの会で、世界的な会らしいのですが、その日本の支部がうちの学生たちのこの活動を高く評価してくださって、ゴールデンZクラブという、ゾンタクラブが認定する団体の一つですね、その日本の第1号に指名してくださって、毎年、支援をしてくださるということ、そういう評価を与えてくださったことは大変ありがたいことだと思っています。

あとは、学内としてどう体制を整えて、学生のクラブ活動というのが一つの生き残りの方策かなと考え、今年から恵話会は学生の主体的なサークルとして活動しています。岩佐先生は、教職の学生たち、あるいは先生のゼミの学生たちを巻き込んで活動を始めましたが、そういう力がないと学生たちの活動を続けていくというのはなかなか難しい、そこをどうやってこの先やっていけばいいのか。

地域とつながって、地域に育てていただきながら学生たちも地域のために何かをしていくという活動をするには、これは継続させることが一番大切なことなので、4年とか3年のサイクルで終わるわけにはいかないということがあって、継続性というところが、私にとっては一番の課題として残っています。それ以外の部分は、とても献身的なスタッフの活動で成功できたと思っています。以上です。

《大谷》ありがとうございます。

《小関》それでは、懇談に移る前に、実際に学生たちがどんな活

動をしたか、西愛宕小での活動の様子を多摩テレビが取材してくれたものがありますので、これをご覧いただきます。西愛宕小学校は教員数十名のちいさな小学校ですが、そのうちの半数の先生が、社会人の英語活動の講座に参加してくださいました。実際に私たちの手法を学んだ経験をお持ちの先生方が、学生を受け入れて下さったので、私たちの活動に対しても理解が深く、学生たちを成長させていただくことができました。

\*\*\* ビデオ上映 \*\*\*

《小関》これが合同発表会です。われわれが学生に対して思っているのと同じ、学生の力を信じてというのを、学生が小学生たちに言っていましたけれども、いい番組を作っていたのだと思っています。ありがたいですね。

### Ⅲ. 懇談

#### 1. 評価と助言

《小関》プロジェクトの今後についてというところでは、村岡先生から少しご説明いただいて、その後、評価や助言をいただければと思います。

《村岡》先ほど小関から説明がありましたゾンタクラブという、いわゆるNGO団体なのですが、先ほどの説明でいいと思います。そこが支援をしてくださることになっています。来年は資金が今年と比べると随分減りますし、そこに関わるスタッフも大幅に減ります。そういう資金も人材も足りない中でやっていくのですが、正直、どうなることやらと思っています。でも、コーチたちが善意で、週に1回ですが、ボランティアでまた来てくださると言っています。今までこの活動を通していろいろな経験をした方たちが、今度は助けてくださる側に回ってくださるであろうと期待しています。もう既にニーズ講座の修了の方が、去年秋からボランティアでコーチ役として来てくださっています。本当にいい活動なので、だからこそ自然にどんどん育てていくのではないかと考えていて、実はそんなに心配はしていません。学生たちの元気の源がまずありますから、学生たちが自分たちでやっていけるようになるだろうと思っています。それが今後の展望です。

《小関》英語コミュニケーション学科では、KEESの活動に対して、学科としてサポートしてくださるとうかがっていますが。

《長阪》そうですね。学科では了承を得て、教員たちもそのつもりでおります。

《小関》恵話会の方をどういう形でやっていこうかというところが難しいところなのですが、特にお金のかかる活動ではないのです。指導的な活動をしてくれる人、教育は人から人へ伝わっていくものだと思うので、人が一番大切で、組織の中に継続的に来ていただくためには資金も必要になってくる、そこが一番の問題ではあるのですが、いろいろな方に支えていただきながら、恵話会の方も何とか続けていきたいと思っています。

こちらの説明ばかりになってしまいましたが、評価と助言ということで、厳しいお言葉、あるいはこんなことをしてみたらというご提案をいただければと思います。昨年、小学校の教員免許状を取れる方策を考えてはどうかというご助言をいただいて、これはなかなか難しいことではあるのですが、教職課程委員会の方で、他大学と連携の道を少しずつ検討し始めてくださっております。これについては道筋が見えてきたと思います。

それから、もう少し下の年齢の子どもたち、保育士の資格。これは受験するだけで、基礎資格は特に専門学科を出ている必要はありませんので、人間環境学科、あるいは新しく作る予定の社会園芸学科というところで、本学の教員の大日向を中心にして、大

日向が社会人のためにやっているこちらの方の講座にうちの学生も来年度から参加できるような形を整えましたので、意欲のある学生は保育士の資格試験を受けて、少しずつ科目を取っていくというようなこともできるようになるかと思っています。そういう形で、まだ確実なものにはなっていませんが、先生方の助言を生かすことができています。

《山口》小学校の教員免許の道が開けているということはとてもいいと思います。昨年もおんなことをお話しされたと思うのですが、先ほどの多摩テレビの、ああいう中から、ああいう子どもとああいうふうに接していたら、またやりたいと思う人は必ず出るのでないでしょうか。僕が少ししかかわった学生さんは小学校の教員免許を取るのだと言っていました。だから、そういう学生さんは必ずこういういい活動の中から出てくるのだらうと思います。

それから、就職対策だと小関先生がおっしゃった、大谷先生は午前中の発表でKEES・恵話会の学生さんが100%就職したということで、大学全体としてはちょっと下がって（笑）。それが一つの大学からの、将来こういう活動で学生さんたちが培ってきたものが生きたということなのでしょうし、そういうことなのだと思うのです。

《大谷》はい。

《山口》そして、就職の試験の面接で自信があって、もう胸を張って「学生時代頑張ったことはKEESの活動です」と言う学生さんもいました。私も見ていて、たくさん見ているわけではないですが、断片的にしか見ていませんが、小学校の授業とか、こういう発表会でどういう成長をしているのかというのを見てきたような気がしました。

そして、なかなか会員といいますか、恵話会の部員というのか、会員を集めるのは難しいのだということです。僕も一番最初に冒頭でお話ししましたが、なぜこんなに純粋に取り組めるのだらうと。授業でもないし、別に何か特別な評価をされるとかも、授業でないとすべないのだと思うのです。そうしたら、どうしてこういうふうに純粋に取り組めるのかなと思っていたのですが、岩佐先生の強制力が効いたかと。それも、誘うということも、それは時に大事なことだと思うのです。ちょっとお聞きしてみたいのは、せっかくお二人のOBがいますから、僕の自分の中の疑問を解消するために、なぜこういうKEES、恵話会に入ろうと思ったのですか。

《川名》私は教職をまず取りたいと思っていて、2年生からゼミに入るのですが、私は岩佐先生のゼミしか教職課程は取れないと思ったのです。それで入ったら、4月にそういったお話を聞いたので、びっくりしたことはみんなで覚えています（笑）。だけど、すごく良かったです。

《山口》卒業してもまたコーチとして来てくれたわけですからね。

《川名》はい。

《飯窪》私も経緯としては同じです（笑）。ただ、私は編入で恵泉に3年生から参りました。普通、2年生からゼミが決まっていますが、3年生から、教職を目指して恵泉に参りましたので、教職のゼミである岩佐先生のゼミを希望書に書きましたところ、岩佐先生からお電話をいただきまして、「私のゼミにはこんなものがあるわよ」という流れでKEESに入りました。その年から恵話会も発足されましたので、自然の流れで恵話会にも入りました。

経緯はそういったところなのですが、やはりそれまで思っていた教員になりたいという漠然とした夢が、本当に身近になり、生の先生方、生の子どもたちと出会うことによって、また仲間を得ることによって、本当にそれが現実的になっていって今日に至るのかと思います。やはり、会に魅力があったから続けてきたのだと思います。

《山口》飯窪コーチは、恵泉に入る前に短大を出て、恵泉で中高の教員免許状を取って、その後、通信教育で小学校の免許を。

《飯窪》今、取得中です。

《山口》小学校の一種の免許を取るということで、着実に教職という方向に向かって進んでいますね。

《飯窪》そうですね。

《山口》もしそういう教職を目指すという人が、この活動通して自分を高めていく、その先には教職に就くというのがあるのだと思いますし、それでない人もいるわけでしょう。教職を目指している人ばかりではないと思うのですが、ひょっとすると、最後に学長先生がおっしゃっていましたが、何か人の役に立ちたいとか、立てたときの喜びだとか、そういうものを求めている学生さんたちではないのかなと。そう人たちに先生たちがされている。いい活動だなと思って3年間見せていただきました。

《手塚》今、教職の話が出ていましたが、教職の免許を取らなくても、例えば社会性とか、人間力とか、コミュニケーション力とか、表現力みたいなことは、結構ここで培われていく力なのではないかと思うのです。それは英語に限らず日本語にしろ、何にしろ。絶対これからやっていく上で必要な力だと思うので、ぜひ形に、多少は弾力的にと、ちょっとこうなる話もありましたが、続けていってほしい活動だらうなと思っています。

それからあと、地域貢献というのがありますが、これはこれからの大学にとっては、私なんかは部外者で学内のことはよく分かりませんが、必要な部分だらうなと思うのです。学校は結構そういうものを求めています。だから、遠慮なくどんどんお声をかけることなのだらうと思います。

ましてや今、新しい指導要領の話が先ほども先生の方から出ていましたが、言語力というのはとても重要視されていて、例えば私だと、稲城の学校だったものですから、市の教育委員会の方針としては、全校一斉に読書活動がもう位置付けられているのです。教科の中ではなくて朝の活動の時間帯であったりとかもしているものですから、そういう時間に入らせてもらうことは、どんどんできると思いますし、まず声をかけていくことだらうと思います。学校のニーズとしてもありますし、ぜひ広げていってほしいなと思っています。

それからあとは、保育園とか、いろいろな施設関係なんかは本当に喜ばれると思いますので、ぜひ多摩に限らずに近隣のところにも行っていただけるとありがたいと思っています。

それから、小学校としての教職の免許に苦勞してお取りになっているという話ですが、これからまさしく英語活動が本格的に入ってきて、だから、英語ができる、英語活動に関心があるとすれば、そういう意味では、やっていることがすぐ採用にも結びつく力になっていくと思うのです。だから、自信を持ってやってほしいと思っていますし、人の輪が広がっていくのかなと思っています。例えばその顕著な例で、何か困ったら、では小関先生のところに電話してみようとか思ったりして、おかげさまで学生さんに来ていただいて、そこから私なんかは成長を見ることができるようです。

今日、Iさんに終わった後でご挨拶に来ていただいたのです。なかなか手が挙がらない彼女だったわけですね。ところが、ささっと来てくださって、すごいさわやかな挨拶をいただいて、「わー、成長したわね」と思わず言ってしまったのですが、そういうことで、活動を通して人間的な、魅力的な、それこそ女性としてやっていけるようになっていくのかと。「今日はとてもうれしかったわ」と言ったのですが、そんな印象を受けました。

評価委員といても名前だけでなかなか力にはなれなかったのですが、私自身もとてもいい勉強をさせていただいたなと思っていますし、つながりができてよかったと思っています。ありがとうございます。

《長阪》評価については初めの方でもう申し上げたので、助言と

どうか、今後のことで私たちも関係あることなので、資金不足、人材不足でどうするかというので、あとはここにいる者が精いっぱいやるしかないのだろうということで、KEESに対しては英語コミュニケーション学科の合意を取り付けたということなので、恵話会についてはどうするか。内なるパワーを少し使わないといけませんね。

それから、英語に関しては、これは英語コミュニケーション学科の課題ですが、やはり英語力を全体的に上げていく必要があるというのは、KEESとかの問題ではなくて、これは私がここ何年も思っていることですし、それをしないとKEESの活動にもつながらないというので、これは学科の今後の課題だと思っています。

それから、小学校の教員免許ですが、希望がある学生さんには、どこでどうするかというのは難しい、本人がしたいと思ったときなのでしょうが、私が教えていたところでは、中高の教員免許を取るのですが、早いうちから小学校の通信教育を受けているのです。だから、卒業と同時に選ぶのです。面白いことに、この学生は力がうんとあると思ったので、中高がいいと私は思ったら、その学生は自分は小学校がいいということで、自分で小学校を選んでいるのです。だから、両方卒業と同時に取ってしまっているのです。だから、頑張ればできるかなと。そういう道も、早い時期から始めれば、通信は長くかかりますから、それでできるかなというのの一つです。

それから、恵泉の学生で、卒業してから通信に行って、今、小学校の先生をしているという学生もいます。そういうネットワークづくりもしながらということで、いろいろな情報をいろいろなところから集めて、学生に情報をあげないと、自分でというのは難しいと思いますので、そういうことも学校としてしていかなければいけないかなと思います。以上です。

《小關》ありがとうございます。予定していた時間を過ぎましたが、貴重なご助言、アドバイスをいただけたと思います。ありが

とうございます。

それでは、最後に大谷先生、一言皆さんに感謝を。

## 2. まとめ

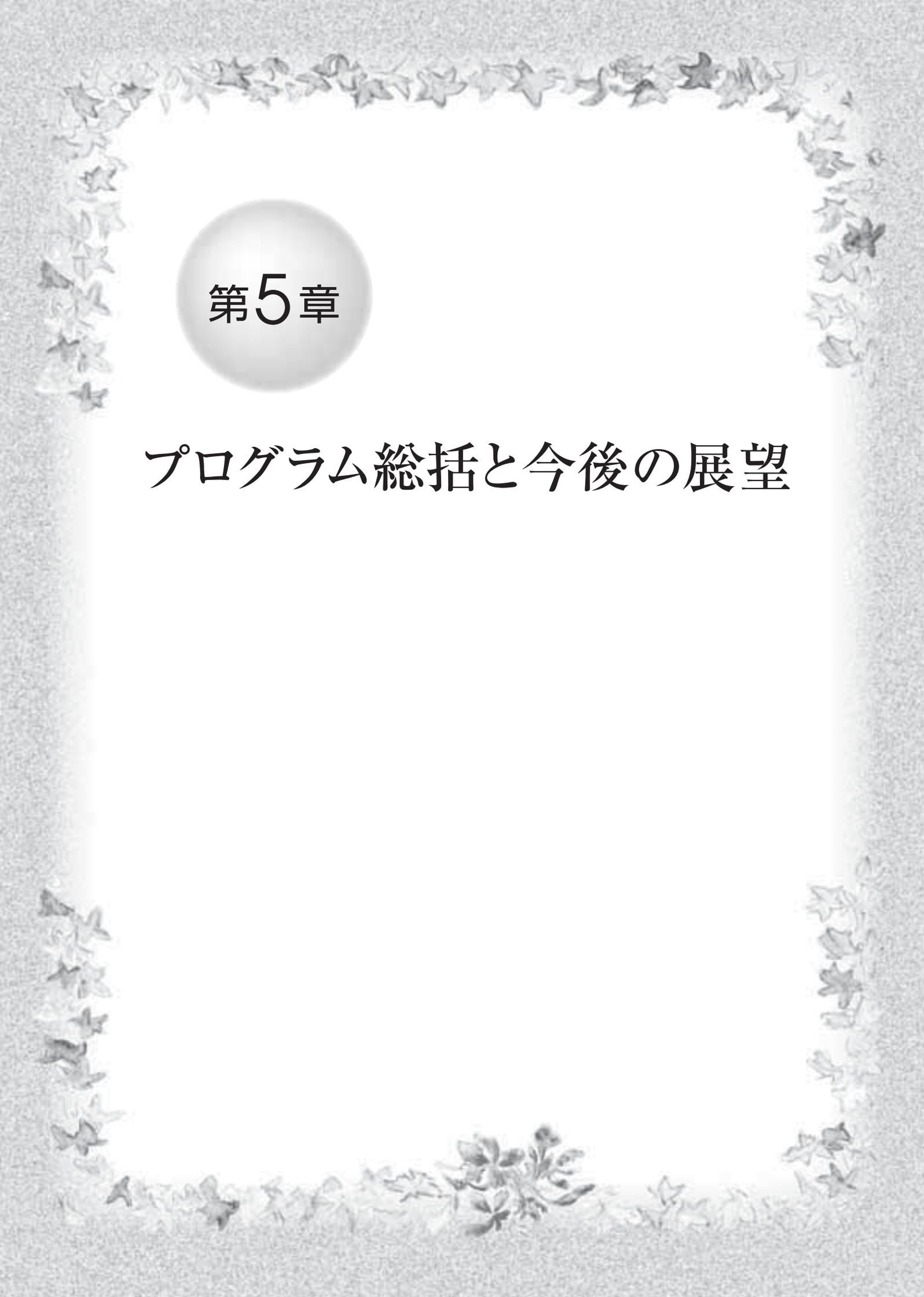
《大谷》この活動報告会と外部評価委員会に向けてということで、特にコーチや村岡先生に力を貸していただいて、何とか今日までと一生懸命張り詰めてやってきました。今日は、外部評価委員の先生方から今後の活動について助言をいただきまして、任期の終了する私ができることはないのですが、この会が続いていきますこと、そして、取り組みの目的に、「将来にわたり地域に貢献できる人材を育成していくこと」というのがありまして、これからも続いていくことを願っております。

ここまで3年間、先生方、関係者の皆さま、内部のスタッフ、関わったすべての方々にも恵まれて何とかやってくることができました。途中で責任者の交代ということで先生方にはご迷惑をおかけしましたし、私も重圧でつぶれてしまいそうになったりと、実は泣き言を言ったことが何回かありましたが、今となっては、皆さんの力添えのおかげで何とか乗り越えてきたことを、本当にうれしく思っています。また、学生の成長は、本当にこの会のスタッフの一員としてうれしく思っています。

今までは外部評価委員だった村岡先生が内部に入って、主体的にかかわってくださったり、英語コミュニケーション学科でKEESを課外活動として認めてもらったり、というように、本当に温かい輪が広がっていることにも感謝しています。

今後とも先生方には会を見守って、また、折に触れてご指導いただき、今後ともこの会が引き続き発展していくことを願っています。今日は長時間にわたりまして、本当にありがとうございました。

(拍手)



第5章

プログラム総括と今後の展望

### 平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】学生推進プログラム 「専門性を生かした正課外地域貢献活動による マネジメント力の育成」を振り返って

取組責任者 大谷 由布子

恵泉地域言語活動研究会の取り組みが、平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】学生支援推進プログラムに採択されてから、支援期間の3年が終了しようとしています。この取り組みの概要や趣旨、目標は第1章で述べたとおりです。ここでは、学生の達成目標と目標行動、大学の達成目標と指標の面から検証していきます。

学生の達成目標には

1. 日英両語の発音能力・読み聞かせ技能を高める
2. 仲間と協力して言語活動の企画案を作成できる
3. 役割を分担しながら質の高い言語活動や交流会を創造できる

が掲げられています。1. については、一般的に用いられている指標などで測れるものとは性質は異なりますが、会に所属するメンバー全員の読み聞かせ技術には、大きな向上が見られ、それに比例して発音能力にも改善が見られます。このことは指導にあたった教員、コーチ全員の意見が一致するところであり、その何よりの成果が、聞き手の反応です。人を引き付ける読み聞かせができるようになる、という目標行動が身に付いた成果だと考えます。

2. では、まず小学校や福祉施設等活動受け入れ先の業務内容や活動内容を理解することから始まりました。小学校での英語活動と一口に言っても、学校や学年によって取り組みに大きな違いがあります。それらを踏まえた上で、学生は徐々に、それぞれの活動受け入れ先に合致した指導案・企画案が作成できるようになり、それに応じて必要な教材・資料を整えました。教材や資料の例は、KEES・恵話会のカラーのページに掲載しています。

3. の言語活動や交流会については、奉仕活動という名のもとでこちらの活動の押し付けになっただけでなく、学生には毎回の活動後、報告書の作成と口頭発表による活動内容の見直しを義務付けました。そしてその結果を次の活動に活かすことができたので、会を重ねるにつれて、言語活動・交流会の質の向上につながったと確信しています。そしてその評価は「来年度も引き続きお願いできますか?」「また来てくれる?」という受け入れ先、そして子どもたちの反応に如実に表れているのではないのでしょうか。

次に、大学の達成目標として

1. 学士力の確保
2. 就業力の向上

の2点を掲げ、それぞれの指標を設けていますが、1. の指標に「参加学生の7割が目標行動を達成できる」とあり、これについては目標値をはるかに超える学生が目標行動に達しています。しかしながら、指標の中に掲げられた、取り組み参加学生数を「倍増」させることに関しては、「微増」に留まっており、引き続き参加学生を募っていく必要があります。

2. の就業力の向上については、

- ・就職率が90%から95%に向上させる
- ・教育福祉分野への就職（および大学院進学）率を50%から70%に向上させる

と指標を掲げており、本取り組みの成果が最終的な数字として表れるのは、現在在籍している学生が卒業する時点となりますが、これまでの成果は以下のとおりです。

- ・21年度からの本取り組みを1年経験して、2010年3月卒業した学生の就職率は91%、教育関係の就職率は41%。(恵泉女学園大学全体では72.6%、全国平均91.5%\*)
- ・本取り組みを2年経験して、2011年3月卒業した学生の就職率は100%、教育福祉関係への就職率は90%。(恵泉女学園大学全体では65.4%、全国平均91%\*\*)
- \*4年制大学卒業の女子学生のみ
- \*\*4年制大学卒業の男子学生含む

詳しいデータはp.47で紹介していますが、このプログラムを2年経験して卒業した学生は、目標に到達していることが数値の面で明確に示されました。2012年春卒業予定の4年生については、まだデータの収集分析ができていませんが、既に就職活動を始めた現3年生も合わせ、先輩に続く就業力を示してくれること、さらにこの研究会に参加する学生が増加し、恵泉女学園大学全体の就職率向上につながることを期待しています。

最後に、「ことば」を使う奉仕活動を行ってきただけというだけではなく、上記のような目標や指標に到達できたかどうかということに加えて、地域や受け入れ先の評価、そして学生自身が何を学んだか、ということも強調して終わりたいと思います。お世話になった活動校や学生の活動を間近にご覧いただいた先生方からいただいたメッセージ、外部評価委員の先生方からのご助言、そして児童や参加者の振り返りシートやアンケート、そして学生の報告書等々、つまりこの冊子全体がこの取り組みを評価しているということです。そしてそのすべてにおいて、この研究会の活動が大変高い評価を得ていることは、担当者として大いなる喜びであるとともに、この経験という「財産」を今後も引き継いでいてもらいたいと希望しています。

最後までお目通しいただきまして、ありがとうございました。

## 平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】学生推進プログラム 今後の展望

取組担当補佐 村岡 有香

学生支援推進プログラムに採択されてから3年が立ちました。その間「まかれた種が花開く」ように、学生達は地域貢献活動を通して様々な人と出会い、人に「奉仕する」喜びを知り、大きな成長を遂げました。自分に確固とした自信がなく、人前で話すことも苦手だった学生が、今は笑顔で堂々と大きな声で児童の前で絵本の読み聞かせなどを行えるようになりました。そんな姿は、この活動がどんなに学生にとって意義のあるものだったかを示しているように思います。

また、成長は学生だけに起こったことではありません。このプログラムに関わった教員、コーチ、社会人コーチ、事務担当職員にとっても、今後の展望に対する新しい可能性を考えるきっかけとなったと思います。さらに、大学と地域との連携の大切さも明らかになったと思います。学生の教育は学校内だけで行うのではなく、地域の方々と連携しながらやっていく方が、大学に活気が出て、また同時に地域も潤っていくと思います。恵泉地域言語活動研究会の取り組みは、「学生-教員-職員の連携」という学校内だけで完結する形ではなく、地域の人々との関わり合いの中で育っていったところに、この活動の特有さと素晴らしさがあるように思います。

3年間の活動の中心には、「ストーリー」の活用がありました。このストーリーの活用は、この取り組みのユニークさを特徴づけるものだと思います。学生達は日本語・英語で絵本の読み聞かせを行うための練習を

重ねることで、発音能力や表現力の向上が見られただけでなく、協力して物事に取り組む姿勢や、人に聞いてもらう喜びを知ることもできました。また、ストーリーには必ず著者の伝えたい平和的なメッセージが込められていますが、学生達はそのメッセージを理解し、「メッセージを児童に伝える」という明確な目標のもと練習に取り組むことで、地域貢献活動がより意味のあるものになったと思います。児童にとっても、ストーリーに触れることで、新たな知見を得て、心の豊かさにつながったのではないかと思います。

恵泉地域言語活動研究会の取り組みは、地域社会での高い評価につながりました。例えば、学生の取り組みは多摩テレビで何度も取りあげられ、紹介されました。また、3年間の活動が認められ、2012年度からは、NGO法人東京II国際ゾントクラブからの支援を受けながら活動を継続させていくことも決まりました。国際ゾントは、奉仕 (Service) と支援/主張 (Advocacy) を通して、世界の女性の地位を高めるために活動している団体です。女子学生のコミュニケーションスキルの向上や、自分磨き、キャリアの選択肢の拡大、地域または国際社会における人間的成長を支援することを目的としたプロジェクトの一つとして支援を受けます。

今後も引き続き「ストーリー」を中心に、言葉による平和の種を地域社会、日本、果ては世界に植える活動の支援を続けていきたいと思っています。



恵泉女学園大学  
平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】学生支援推進プログラム  
「専門性を生かした正課外地域貢献活動による  
マネジメント力の育成」  
2009～2011年度活動報告書

2012年3月発行  
編集・発行 恵泉地域言語活動研究会

大谷由布子 人文学部助教 取組責任者  
村岡 有香 人文学部助教 取組補佐  
須藤 桂子 恵泉地域言語活動研究会アドバイザー  
川名 仁美 恵泉地域言語活動研究会コーチ  
飯窪 実香 恵泉地域言語活動研究会コーチ  
小關 毅彦 大学事務局

恵泉女学園大学

〒206-8586 東京都多摩市南野2-10-1 Tel 042-376-8211(代表) Fax 042-376-8218  
URL <http://www.keisen.ac.jp/> e-mail [shien@keisen.ac.jp](mailto:shien@keisen.ac.jp)

お問い合わせなどは恵泉女学園大学までお願いいたします。  
写真には肖像権がありますので、写真部分を複製、転載される際にはご一報下さい。

印刷所 山藤三陽印刷株式会社







Keisen University